

戸田市政策研究所アンケート調査業務委託

戸田市若年世帯意識調査 成果報告書

平成 24 年 3 月

戸田市

目 次

第1部 本調査の概要	1
I. 調査の背景と目的	1
II. 調査の方法と実施時期	1
III. 調査対象と標本数の算定	1
IV. 調査票の回収状況	2
V. 調査票の内容	2
第2部 単純集計の結果と考察	3
調査結果の要旨	3
I. あなた自身やご家族について	7
II. 結婚について	12
III. 戸田市における子育て支援について	16
IV. お住まいの地区に対する意識と今後のお住まいについて	21
第3部 クロス集計の結果と考察	29
調査結果の要旨	29
I. 基本属性に関するクロス集計	33
II. 子育て支援に関するクロス集計	46
III. 未婚者の基本属性と結婚への意識に関するクロス集計	54
IV. 場所への愛着に関するクロス集計	60
V. 住まいと近所付き合い、定住意向に関するクロス集計	63
第4部 グループインタビューの結果と考察	69
I. インフォーマントの基本情報	69
II. 子育て世代からみた「子育て広場」の価値と意義	70
III. 子育て世代にみる戸田市の魅力や「お気に入りの場所」	75
資料Ⅰ グループインタビュー 議事録	77
資料Ⅱ 戸田市における「お気に入りの場所」マップ～子育て世代を中心に～	104
資料Ⅲ 戸田市若年世帯意識調査 調査票	106

第1部 本調査の概要

I. 調査の背景と目的

平成22年度に実施した「戸田市人口移動実態調査」では、戸田市から他所への転出者の居住期間について、5年未満までの回答が全体の約6割を占めることが明らかになった。さらに、転出時の年齢について、25～39歳までは全体の55.4%を占めた。なぜ、このような壮年期の市民が比較的短い居住経験のみで他所に転出してしまうのであろうか。あるいは、転出の動きを緩やかにし、そういった市民が比較的長期間、戸田市に住むようにするためには、どのような方策が考えられるのであろうか。これが平成23年度調査の基本的な問いである。

ところで、「なぜ転出するのか」ということに対して、様々な点から問うていけば、その理由や背景を一定程度把握することができよう。ただし、その際には、理念的な回答や行政サービスの改善を要求するような回答に終始してしまうことが容易に予想できる。本調査では、そういった単純化された回答に陥ることを回避するために、「住みがい」や戸田市という地域や場所への「意識」や「愛着」について、量的にも、質的にもとらえていくことを目指す。こういった、「住みがい」や地域への「愛着」を把握することで、戸田市における地域的な強みや今後伸ばしていくポイントなどを理解していく。

II. 調査の方法と実施時期

調査の方法は、報告書の最後に「資料」として掲載している「戸田市若年世帯意識調査」を用いた郵送調査法にもとづく標本調査である。調査票の郵送は2011（平成23）年10月25日に実施し、2011年（平成23）年11月8日を回収の締め切りとした。さらに、回収の締め切り直前に調査対象者に「督促はがき」を送付した。

III. 調査対象と標本数の算定

戸田市在住の市民のうち、住民となった日が2006（平成18）年4月1日以前（戸田市に5年以上在住）で、なおかつ、出生日が1965（昭和41）年4月1日～1991（平成3）年4月1日の市民から（年齢が20歳～45歳の市民）、1,300人を無作為抽出し、調査票を郵送した。調査対象者を抽出する際には、2011（平成23）年4月1日現在の住民基本台帳データを利用した。さらに、調査対象者の抽出にあたっては、市内の7地区ごとの男女比を指定した「層化抽出法」を採用した。

標本数については、下記の「有限母集団における標本数の決定」および回収率を参照しながら算定した。標本数算定の前提条件として、上記の条件を満たす市民は、30,025人であった。

■有限母集団における標本数の決定方法

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{k}\right)^2 \frac{(N-1)}{P(1-P)} + 1}$$

N : 母集団の大きさ

ε : 要求精度¹

P : 母比率²

k : 係数³

n : 標本数

回収率: 45%

信頼度 95%, 標本誤差を 5%とした場合, 30,025 人に対する標本数は, 下記のように 372 (標本) となった。

■標本数の算定

$$\frac{30,025}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \frac{(30,025-1)}{50(100-50)} + 1} = 372.26$$
$$\cong 372 \text{ (標本)}$$

ただし, この標本数は回収率によって左右されるため, 回収率をやや低めの 30%と設定すると, 標本数は 1,241 と算定された。本調査では, より多くの調査票を回収するために, 標本数を 1,300 まで増やし, 調査票を送付した。

IV. 調査票の回収状況

上述のように, 1,300 票の調査票を郵送した後, 525 票を回収することができて回収率は 40.4%であった。調査票は A3 版裏表 1 枚の調査票で, その回答の状況も全設問無回答といった「白紙」での回答は見られず, 回収されたすべての調査票を有効票として分析対象とした。

V. 調査票の内容

調査票の設問内容は以下のようになっている。

- I. あなた自身やご家族について
- II. 結婚について
- III. 戸田市における子育て支援について
- IV. お住まいの地区に対する意識と今後のお住まいについて

¹ 通常, 標本比率につける誤差の幅は 0.05 である。

² 予測できない場合は, 通常, 50% (0.5) である。

³ 「信頼度 (α) =95%」に対応する標準正規分布であり, 1.96 となる。

第2部 単純集計の結果と考察

調査結果の要旨

- ・ 回答者の年齢について、最も多かったのが「38歳」,「39歳」,「43歳」の各41票(各7.8%)であり、これらの回答で全体の2割強を占める。
- ・ 回答者の性別について、「1. 男性」は212票(40.4%)であり、「2. 女性」は313票(59.6%)となっている。
- ・ 回答者の世帯構成について、「3. 二世帯世帯」が圧倒的に多く、363票(69.1%)であり、「2. 夫婦のみ」が53票(10.1%)と続く。これらの回答で全体の8割弱を占める。
- ・ 回答者の住所について、「大字新曽」が最も多い70票(13.3%)で、「本町」が63票(12.0%)、「笹目」が50票(9.5%)と続く。
- ・ 回答者の最終学歴について、「2. 高等学校卒業」が166票(31.6%)で「5. 四年制大学卒業」が142票(27.0%)、「3. 各種学校・専門学校卒業」が111票(21.1%)と続く。
- ・ 回答者の職業について、「3. 事務・技術職」が164票(31.2%)の最多で、次いで「10. 専業主婦」が92票(17.5%)、「7. パート従事者」が68票(13.0%)と続く。
- ・ 回答者の通勤通学場所(都県別)について、「埼玉県」が最多の186票(49.1%)であり、東京都が160票(42.2%)である。これらの回答で、同じ埼玉県内か、隣接する東京都への通勤通学が9割以上であることが分かる。
- ・ 回答者の通勤通学場所(市区町別)について、「戸田市」が113票(29.8%)で圧倒的に多く、「さいたま市」が28票(7.4%)、川口市が23票(6.1%)、板橋区が19票(5.0%)と続く。これら戸田市に隣接する市区で全体の5割弱を示す。
- ・ 回答者の年収について、「1. 200万円未満」が88票(22.6%)で最多であり、次いで、「3. 300～400万円未満」が71票(18.2%)、「2. 200～300万円未満」が64票(16.4%)と続く。これらのように年収が400万円未満の回答が全体の6割弱を占めている。
- ・ 結婚の有無について、「1. 結婚している」が336票(64.0%)で、「2. 結婚していない」が171票(32.6%)である。
- ・ 共働きの有無について、「1. 共働きしている」は173票(51.5%)で、「2. 共働きではない」は162票(48.2%)となった。
- ・ 結婚後の仕事の状況について、「1. 結婚前から現在も仕事をしている」が149票(44.3%)で最多であり、それに次いで、「4. 第1子の妊娠・出産を機に退職した」が56票(16.7%)で続き、「7. 1度退職したが、現在は再就職している」が41票(12.2%)であった。結婚後も仕事をしているという回答は、全体の6割弱を占める。
- ・ 独身でいる理由について、「7. 相手と知り合うきっかけがない」が55票(32.2%)で最多であり、次に、「2. 必要性を感じない」が22票(12.9%)、「1. 若すぎる」が19票(11.1%)、「9. 結婚生活を送るだけの経済力がない」が18票(10.5%)と続く。これらの回答で、全体の6割以上を占める。

- ・ 結婚の良い理由について、「2. 家庭や子どもを持てる」が 59 票（34.5%）で最多であり、「3. 精神的な安定が得られる」が 22 票（12.9%）、「4. 人生の喜びや悲しみを分かち合える」が 21 票（12.3%）と続く。その一方で、「無回答」が 32 票（18.7%）となっており、やや回答をためらわせる、あるいは回答しづらい設問であったことをうかがわせる。
- ・ 結婚の良くない理由について、「1. 自由になる時間が少なくなる」が最多の 34 票（19.9%）であり、次に「4. 人間関係が複雑になる」が 31 票（18.1%）、「2. 行動が制限される」が 26 票（15.2%）、「3. 自由になるお金が少なくなる」が 21 票（12.3%）と続く。
- ・ 子育てしやすいまちかの有無について、「2. どちらかというと思う」が 193 票（36.8%）、「1. そう思う」が 121 票（23.0%）であり、肯定的な回答が全体の 6 割弱を占めた。その一方で、「5. わからない」が 145 票（27.6%）となっており、明確な回答がしづらかった設問であったことをうかがわせる。
- ・ 子育てがしやすいと思う理由について、「3. 乳幼児の遊び場が整備」が 95 票（30.3%）で最多であった。それに次いで、「1. 母子保健サービスの充実」が 63 票（20.1%）であり、「4. 子育て支援活動への支援が充実」が 34 票（10.8%）と続く。
- ・ 子供の有無について、「1. いる」が 299 票（57.0%）であり、「2. いない」が 216 票（41.1%）となっている。
- ・ 子供の数について、「2. 2 人」が最多の 156 票（52.2%）であり、続いて「1. 1 人」が 90 票（30.1%）となっている。
- ・ 利用したことがある子育て支援サービスについて、圧倒的に多かったのが「10. サービスを利用したことがない」で 156 票（52.2%）である。子供のいる回答者の半数以上が子育て支援サービスを利用したことがない。
- ・ よく利用する（利用した）子育て支援施設について、最も多かったのが「無回答」の 111 票（37.1%）であった。この回答は子育てサービスの利用経験とも関連して、子育て支援施設をよく利用はしていない、あるいは、よく利用しなかったことを示している。
- ・ 時々利用する（利用した）子育て支援施設について、最も多かったのが「9. こどもの国」であり、87 票（29.1%）であった。その次に多かったのが「無回答」の 71 票（23.7%）であり、「10. 児童センター」が 44 票（14.7%）と続く。
- ・ 近所との付き合いについて、最も多かったのが「3. 挨拶する程度の付き合い」であり、276 票（52.6%）であった。それに次いで、「2. 立ち話する程度の付き合い」が 116 票（22.1%）で続いた。
- ・ 好きな、あるいはお気に入りの場所や地域の有無について、「2. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域はない」が 264 票（50.3%）であり、「1. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域がある」が 251 票（47.8%）であった。

- ・好きな、あるいはお気に入りの場所や地域について、「彩湖・道満グリーンパーク」が最多の70票(27.9%)であり、それに次いで、「荒川河川敷」が43票(17.1%)、「戸田公園」が25票(10.0%)、「イオン北戸田」が20票(8.0%)、「後谷公園」が11票(4.4%)と続く。ショッピングモールである「イオン北戸田」以外は、すべて自然が感じられる場所や公園になっており、こういった場所や地域をお気に入りとする回答が全体の6割弱を占める。
- ・定住意向について、最も多かったのが「2. できれば戸田市に住み続けたい」であり、320票(61.0%)であった。戸田市に住み続けることに対して、肯定的な回答が全体の9割弱を占め、他所への転出意向が相対的に極めて小さいことが明らかになった。
- ・定住意向の理由について、最も多かったのが「1. 通勤・通学が便利」であり、142票(30.2%)であった。それに次いで、「2. 買い物等日常生活が便利」が110票(23.4%)となっている。長く住み続けたい理由としては、やはり「通勤・通学が便利」が最多となったほか、子育て世代にとっても重要であると考えられる「買い物等日常生活が便利」という回答も目立った。
- ・現在の住まいでの居住期間について、最も多かったのが「4. 5～10年未満」の188票(35.8%)であり、それに次いで、「5. 10～20年未満」の146票(27.8%)が続く。これらの回答で、全体の6割強を占める。
- ・住宅の所有関係について、最も多かったのが、「1. 持家(一戸建)」であり、185票(35.2%)であった。それに次いで、「2. 持家(分譲マンション)」は171票(32.6%)であった。一方、「5. 民間の借家(アパート・賃貸マンション等)」は129票(24.6%)と一定のボリュームがあるものの、「持家」の割合が全体の7割弱を占めることが明らかになった。
- ・住宅面積について、最も多かったのが、「6. 60～70㎡未満」の88票(16.8%)であり、それに次いで、「7. 70～80㎡未満」の81票(15.4%)、「9. 90～100㎡未満」の53票(10.1%)、「5. 50～60㎡未満」の49票(9.3%)と続く。これらの回答で、全体の5割強を占める。これらの回答から、少なくとも50㎡以上の住宅面積である住まいが全体の半数以上であることが明らかになった。

I. あなた自身やご家族について

問 1-1 平成 23 年 10 月 1 日現在、あなたは満何歳か教えてください。

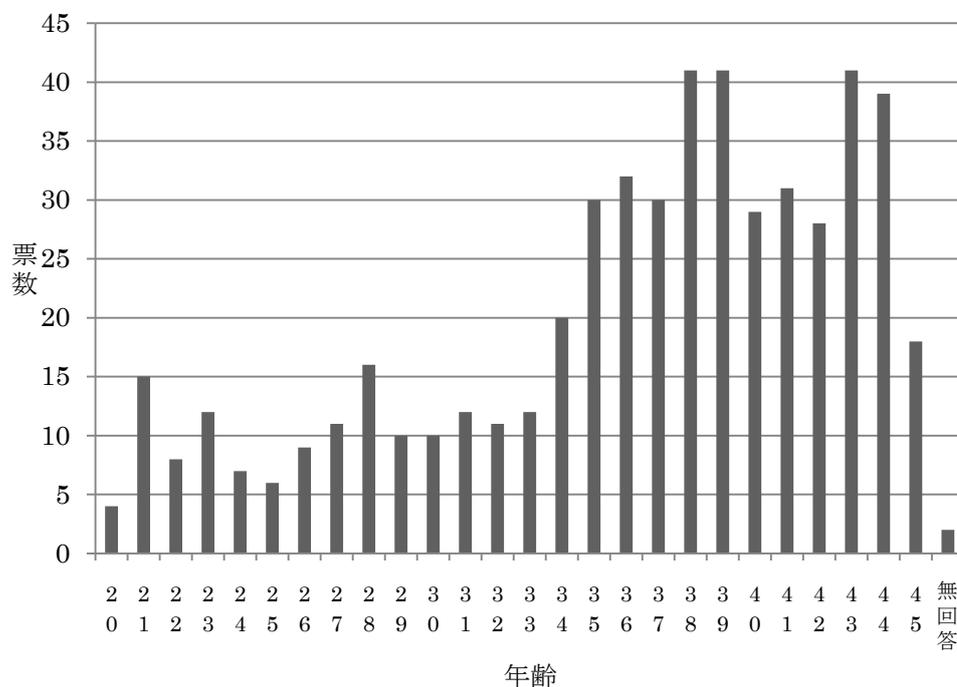


図 1 回答者の年齢について

図 1 の回答者の年齢について、最も多かったのが「38 歳」、「39 歳」、「43 歳」の各 41 票（各 7.8%）であり、次いで、「44 歳」の 39 票（7.4%）が続く。これらで、全体の 30.8%を占める。

問 1-2 あなたの性別について教えてください。

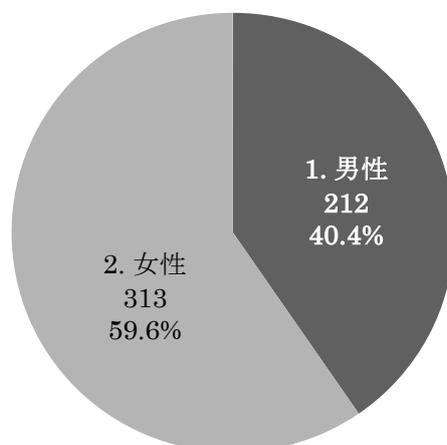


図 2 回答者の性別について

図2の回答者の性別について、「男性」が212票(40.4%)であり、「女性」が313票(59.6%)となっている。回答者の性別については「女性」が6割弱を占めていることが分かる。

問1-3 あなたの家族構成について教えてください。

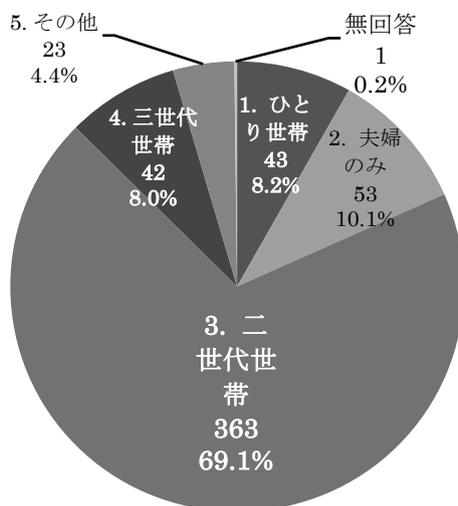


図3 回答者の世帯構成について

図3の回答者の世帯構成について、「3. 二世帯世帯」が圧倒的に多く、363票(69.1%)となっており、「2. 夫婦のみ」が53票(10.1%)と続いている。これらの回答で、全体の8割弱を占める。

問1-4 あなたのお住まいについて教えてください。

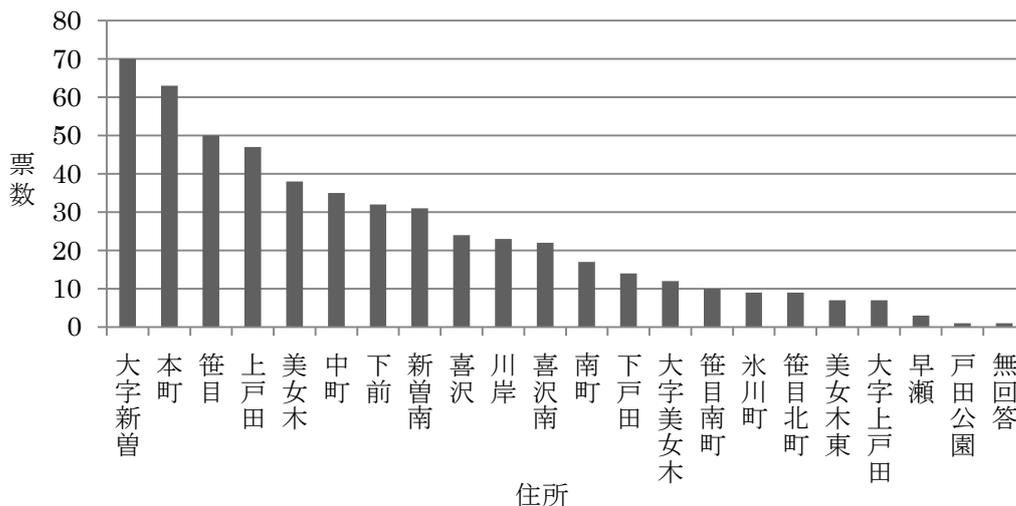


図4 回答者の住所について

図4の回答者の住所について、「大字新曽」が最も多い70票（13.3%）で、「本町」が63票（12.0%）と続き、「笹目」が50票（9.5%）となっている。これら上位3つの回答で、全体の約35%を占める。

問1-5 あなたの最終学歴（在学中も含む）について教えてください。

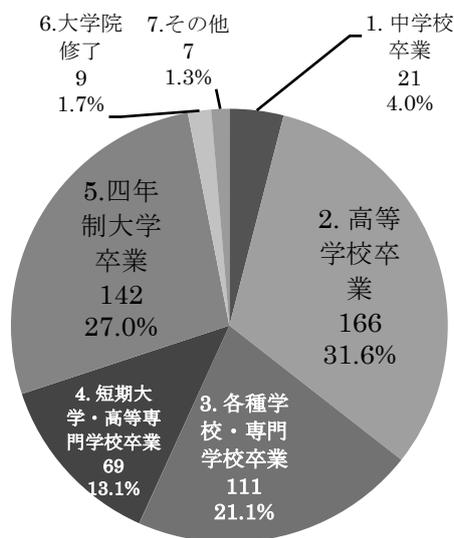


図5 回答者の最終学歴について

図5の回答者の最終学歴について、「2. 高等学校卒業」が166票（31.6%）で「5. 四年制大学卒業」が142票（27.0%）、「3. 各種学校・専門学校卒業」が111票（21.1%）と続き、これら上位3つの回答で、全体の8割弱を占める。

問1-6 あなたの職業について教えてください。

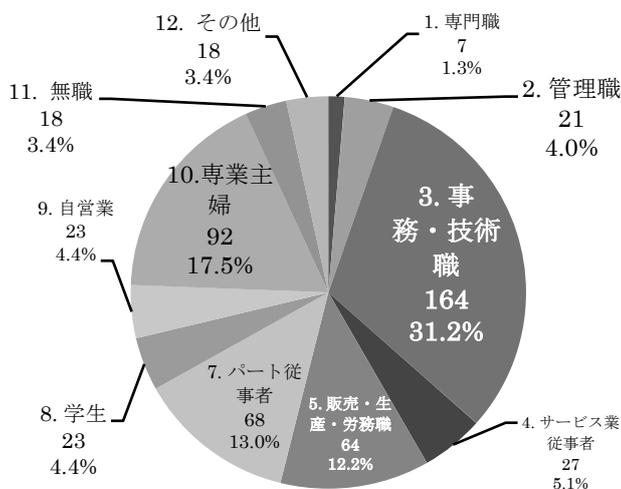


図6 回答者の職業について

図6の回答者の職業について、「3. 事務・技術職」が164票（31.2%）の最多で、次いで「10. 専業主婦」が92票（17.5%）、「7. パート従事者」が68票（13.0%）と続く、これら上位3つの回答で、全体の6割強を占める。

問1-7 問1-6で1~8.と答えた方にお尋ねします。あなたの通勤・通学場所はどちらかお教えてください。

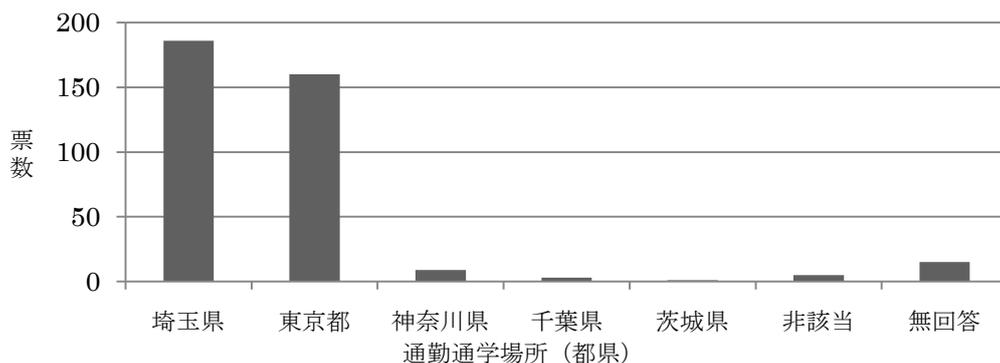


図7 回答者の通勤通学場所（都県別）について

図7の回答者の通勤通学場所について、「埼玉県」が最多の186票（49.1%）であり、東京都が160票（42.2%）で続く。これらの回答で、全体の9割強を占めており、同じ埼玉県内か、隣接する東京都への通勤通学が目立つことが分かる。また、下記のグラフでは市区町別の通勤通学先を提示する。

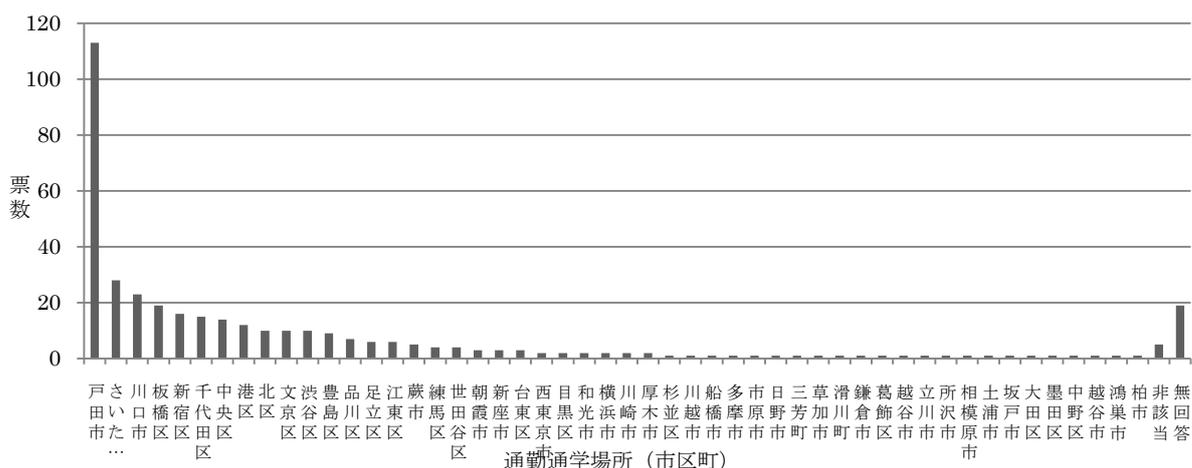


図8 回答者の通勤通学場所（市区町別）について

図8の回答者の通勤通学場所について、「戸田市」が113票（29.8%）で圧倒的に多かった。それに次いで、「さいたま市」が28票（7.4%）、川口市が23票（6.1%）、板橋区が19

票（5.0%）と続く。これら戸田市に隣接する市区で全体の5割弱を示している。

問 1-8 問 1-6 で 1.~7.及び 9.と答えた方にお尋ねします。あなたの年収（賞与・税込）について教えてください。

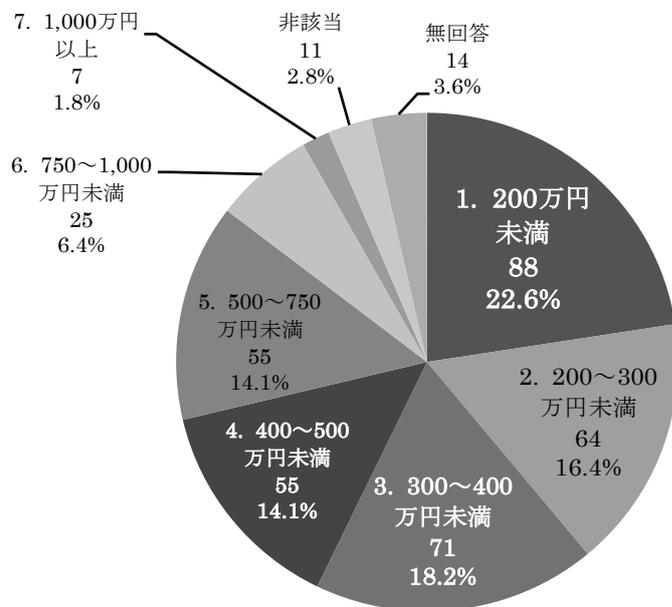


図 9 回答者の年収について

図 9 の回答者の年収について、「1. 200万円未満」が 88 票（22.6%）で最多であり、次いで「3. 300~400万円未満」が 71 票（18.2%）、「2. 200~300万円未満」が 64 票（16.4%）と続く。これらのように年収が 400 万円未満の回答が全体の 6 割弱を占めている。

Ⅱ. 結婚について

問 2-1 あなたは現在, 結婚していらっしゃいますか。

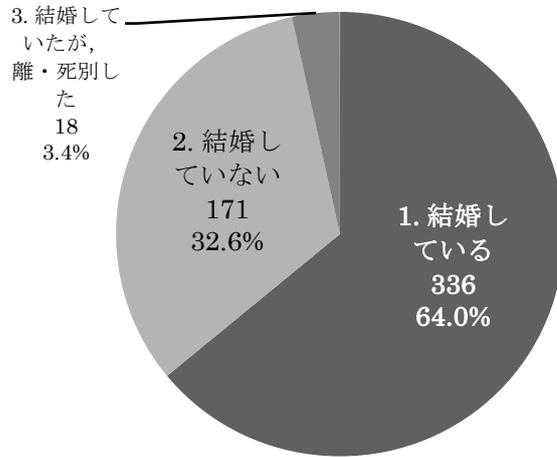


図 10 回答者の結婚の有無について

図 10 の結婚の有無について, 「1. 結婚している」が 336 票 (64.0%) で 「2. 結婚していない」が 171 票 (32.6%) となった。既婚者は全体の 7 割弱となっている。

問 2-2 問 2-1 で 1. と答えた方にお尋ねします。あなたは現在, 共働きしておられますか。

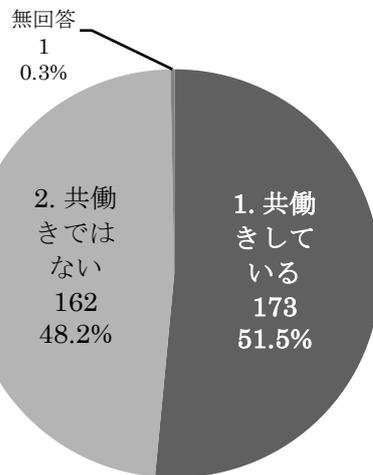


図 11 回答者の共働きの有無について

図 11 の共働きの有無について, 「1. 共働きしている」は 173 票 (51.5%) で 「2. 共働きではない」は 162 票 (48.2%) となった。

問 2-3 問 2-1 で 1.と答えた方にお尋ねします。結婚後、あなたは仕事をどうされましたか。

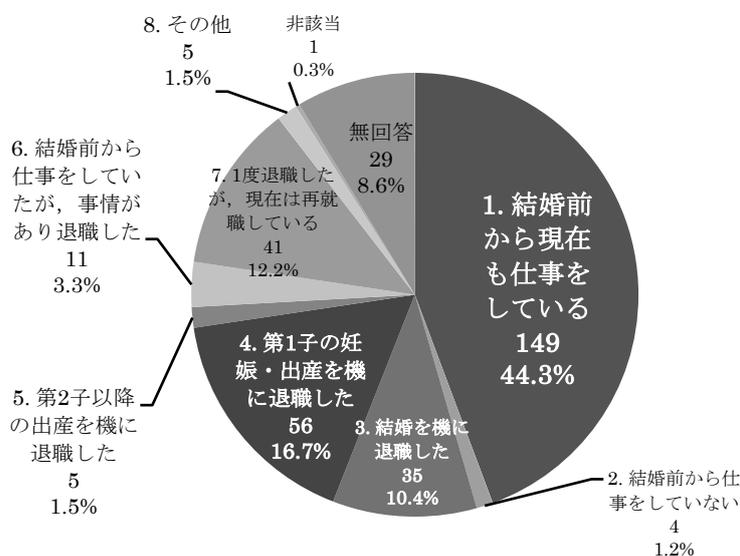


図 12 結婚後の仕事の状況について

図 12 の結婚後の仕事の状況について、「1. 結婚前から現在も仕事をしている」が 149 票 (44.3%) で最多であり、それに次いで、「4. 第 1 子の妊娠・出産を機に退職した」が 56 票 (16.7%) で続き、「7. 1 度退職したが、現在は再就職している」が 41 票 (12.2%) であった。結婚後も仕事をしているという回答は、全体の 6 割弱を占める。

問 2-4 問 2-1 で 2.と答えた方にお尋ねします。あなたが独身でいる理由について、一つお教えてください。

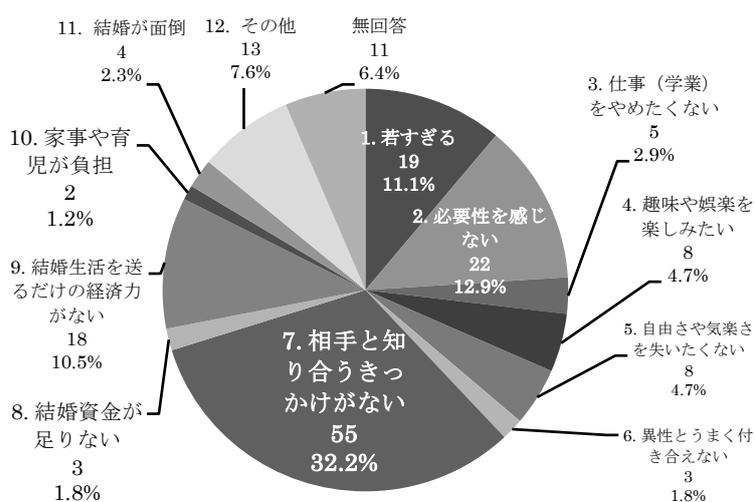


図 13 独身でいる理由について

図 13 の独身でいる理由について、「7. 相手と知り合うきっかけがない」が 55 票 (32.2%) で最多であり、次に、「2. 必要性を感じない」が 22 票 (12.9%)、「1. 若すぎる」が 19 票 (11.1%)、「9. 結婚生活を送るだけの経済力がない」が 18 票 (10.5%) と続く。これらの回答で、全体の 6 割以上を占める。

問 2-5 問 2-1 で 2. と答えた方にお尋ねします。あなたは結婚の良い点について、どのようなイメージをお持ちですか。一つお教えてください。

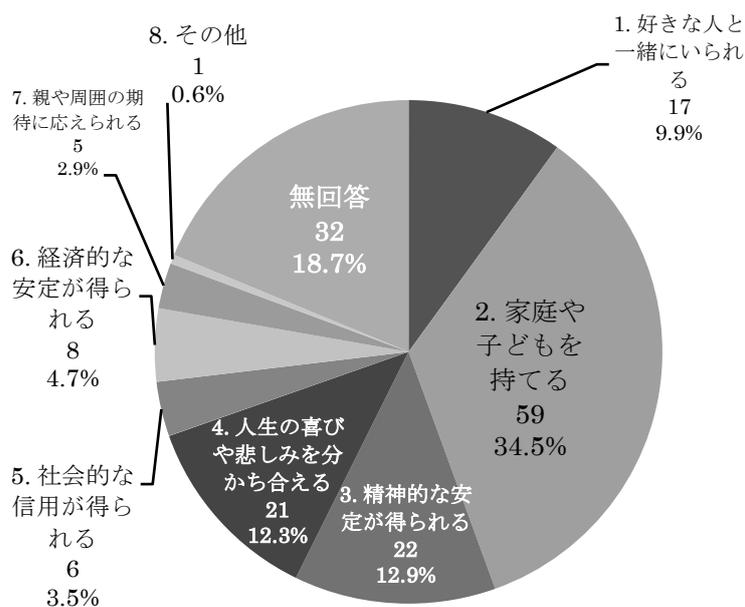


図 14 結婚の良い点について

図 14 の結婚の良い理由について、「2. 家庭や子どもを持てる」が 59 票 (34.5%) で最多である。それに続いて「3. 精神的な安定が得られる」が 22 票 (12.9%)、「4. 人生の喜びや悲しみを分かち合える」が 21 票 (12.3%) となり、これらで全体の 6 割弱を占める。

その一方で、「無回答」が 32 票 (18.7%) となっており、やや回答をためらわせる、あるいは回答しづらい設問であったことをうかがわせる。

問 2-6 問 2-1 で 2. と答えた方にお尋ねします。あなたは結婚の良くない点について、どのようなイメージをお持ちですか。一つお教えてください。

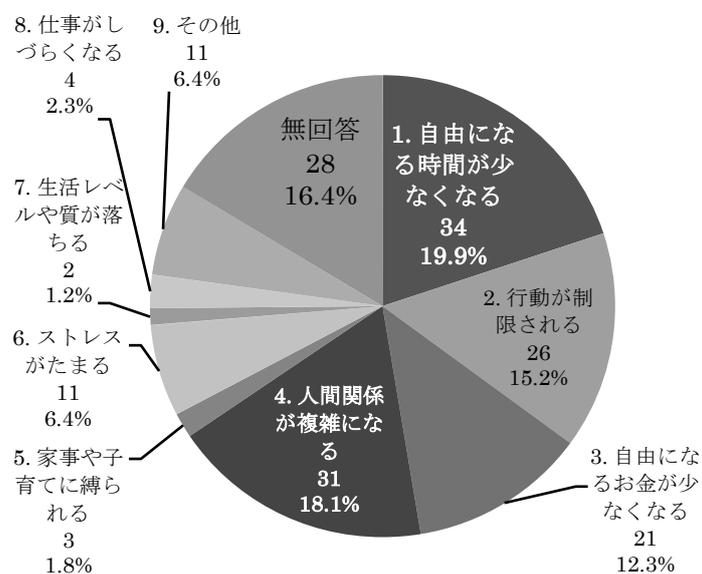


図 15 結婚の良くない点について

図 15 の結婚の良くない理由について、「1. 自由になる時間が少なくなる」が 34 票 (19.9%) の最多であり、次に「4. 人間関係が複雑になる」が 31 票 (18.1%)、「2. 行動が制限される」が 26 票 (15.2%)、「3. 自由になるお金が少なくなる」が 21 票 (12.3%) と続く。これらで全体の 6 割強を占める。

その一方で、図 14 と同様に「無回答」が 28 票 (16.4%) となっており、やや回答をためらわせる、あるいは回答しづらい設問であったことをうかがわせる。

Ⅲ. 戸田市における子育て支援について

問 3-1 戸田市は子育てしやすいまちだと思いますか。

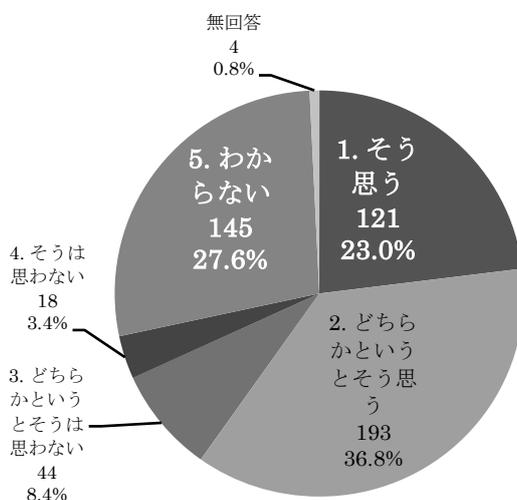


図 16 戸田市は子育てしやすいまちかの有無について

図 16 の子育てしやすいまちかの有無について、「2. どちらかというと思う」が 193 票 (36.8%)、「1. そう思う」が 121 票 (23.0%) であり、肯定的な回答が全体の 6 割弱を占めた。否定的な回答である、「3. どちらかというとは思わない」は 44 票 (8.4%)、「4. そうは思わない」は 18 票 (3.4%)、全体の 1 割強であった。

その一方で、「5. わからない」が 145 票 (27.6%) となっており、明確な回答がしづらかった設問であったことをうかがわせる。

問 3-2 問 3-1 で 1.か 2.と答えた方にお尋ねします。そのように思われる理由について、一つお教えてください。

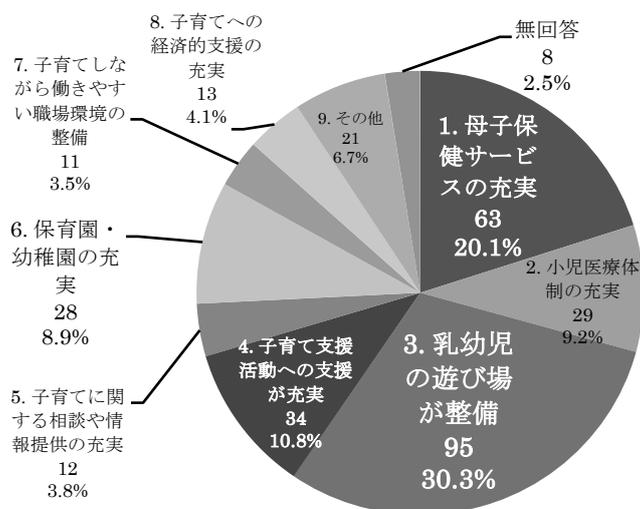


図 17 戸田市で子育てがしやすいと思う理由について

図 17 の子育てがしやすいと思う理由について、「3. 乳幼児の遊び場が整備」が 95 票 (30.3%) で最多であった。それに次いで、「1. 母子保健サービスの充実」が 63 票 (20.1%) であり、「4. 子育て支援活動への支援が充実」が 34 票 (10.8%), 「2. 小児医療体制の充実」が 29 票 (9.2%), 「6. 保育園・幼稚園の充実」が 28 票 (8.9%) と続く。これらの回答で、全体の 8 割弱を占める。

問 3-3 問 3-1 で 3.か 4.と答えた方にお尋ねします。そのように思われる理由について、一つお教えてください。

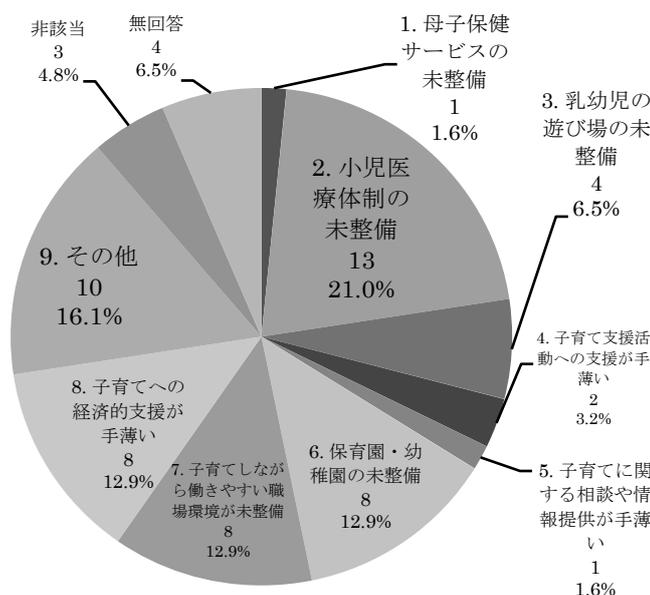


図 18 戸田市で子育てがしにくいと思う理由について

図 18 の子育てがしにくいと思う理由について、「2. 小児医療体制の未整備」が最多の 13 票 (21.0%) であり、次いで「6. 保育園・幼稚園の未整備」, 「7. 子育てしながら働きやすい職場環境が未整備」, 「8. 子育てへの経済的支援が手薄い」がそれぞれ 8 票 (各 12.9%) となっている。だが、票数も 47 票と極めて少ないので、子育てがしにくい理由としてはあまり有効ではないと考えられる。

問 3-4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。

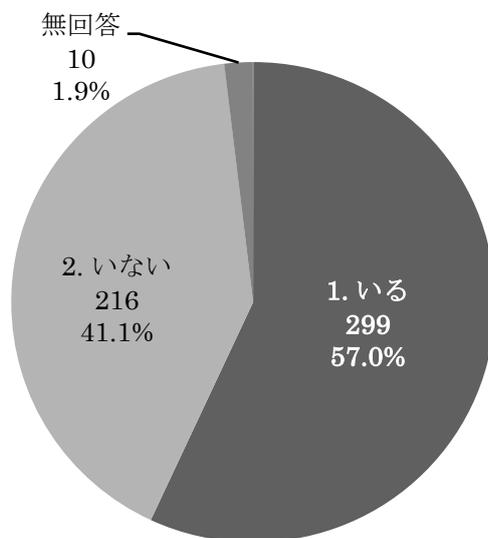


図 19 子供の有無について

図 19 の子供の有無について、「1. いる」が 299 票（57.0%）であり、「2. いない」が 216 票（41.1%）となっている。子供がいるという回答が 6 割弱とやや多くなっている。

問 3-5 問 3-4 で 1. と答えた方にお尋ねします。お子さんの数は何人ですか。

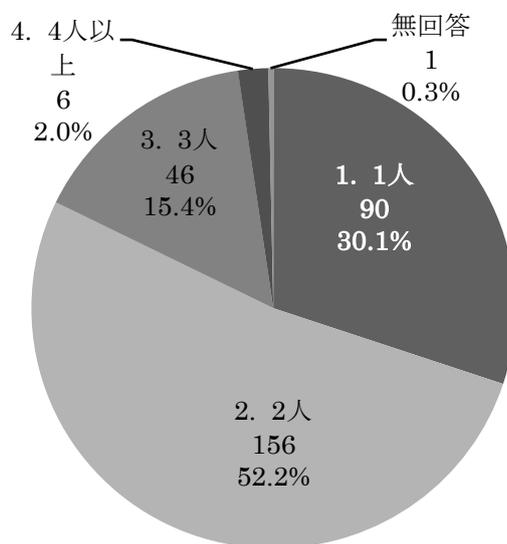


図 20 子供の数について

図 20 の子供の数について、「2. 2人」が最多の 156 票（52.2%）であり、5 割を超える。続いて「1. 1人」が 90 票（30.1%）となっている。

問 3-6 問 3-4 で 1.と答えた方にお尋ねします。あなたが利用したことのある子育て支援サービスはどれですか。一つお教えてください。

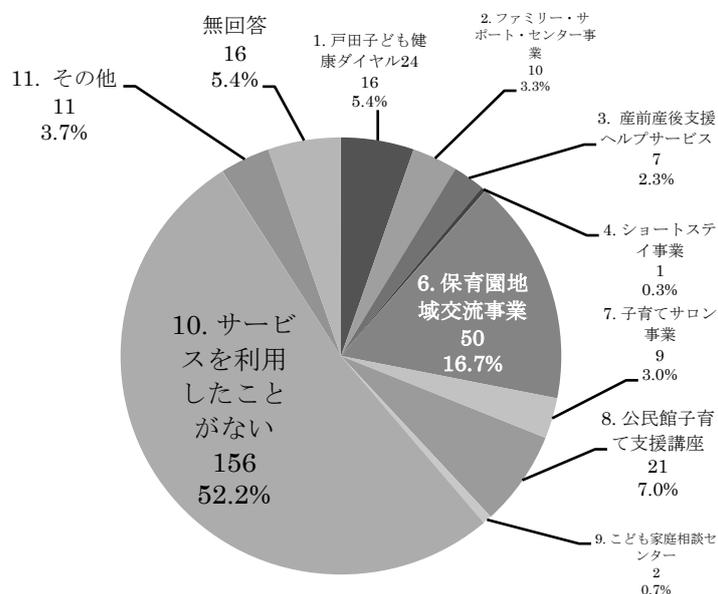


図 21 利用したことがある子育て支援サービスについて

図 21 の利用したことがある子育て支援サービスについて、圧倒的に多かったのが「10. サービスを利用したことがない」で 156 票 (52.2%) である。子供のいる回答者の半数以上が子育て支援サービスを利用したことがない。大きく差が開いて、「6. 保育園地域交流事業」が 50 票 (16.7%)、「8. 公民館子育て支援講座」が 21 票 (7.0%)、「1. 戸田子ども健康ダイヤル 24」が 16 票 (5.4%) と続く。

問 3-7 問 3-4 で 1.と答えた方にお尋ねします。あなたが利用したことのある子育て支援施設で、よく利用する（利用した）施設と時々利用する（利用した）施設について、一つずつお教えてください。

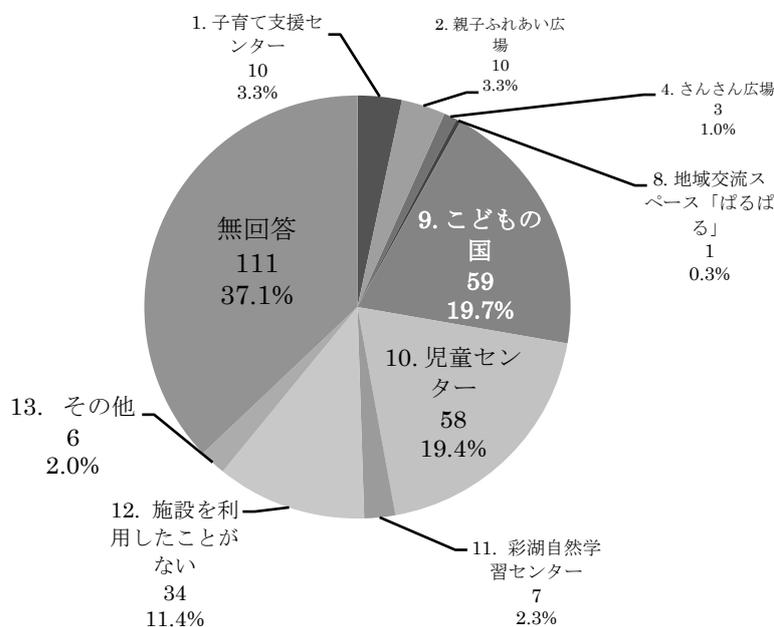


図 22 よく利用する（利用した）子育て支援施設について

図 22 のよく利用する（利用した）子育て支援施設について、最も多かったのが「無回答」の 111 票（37.1%）であった。この回答は上述の図 21 とも関連して、子育て支援施設をよく利用はしていない、あるいは、よく利用しなかったことを示している。

この回答に次いで多かったのが、「9. こどもの国」が 59 票（19.7%）で「10. 児童センター」が 58 票（19.4%）であった。さらに、「12. 施設を利用したことがない」が 34 票（11.4%）あり、子育て支援施設そのものを利用したことがないという回答も一定で程度みられた。

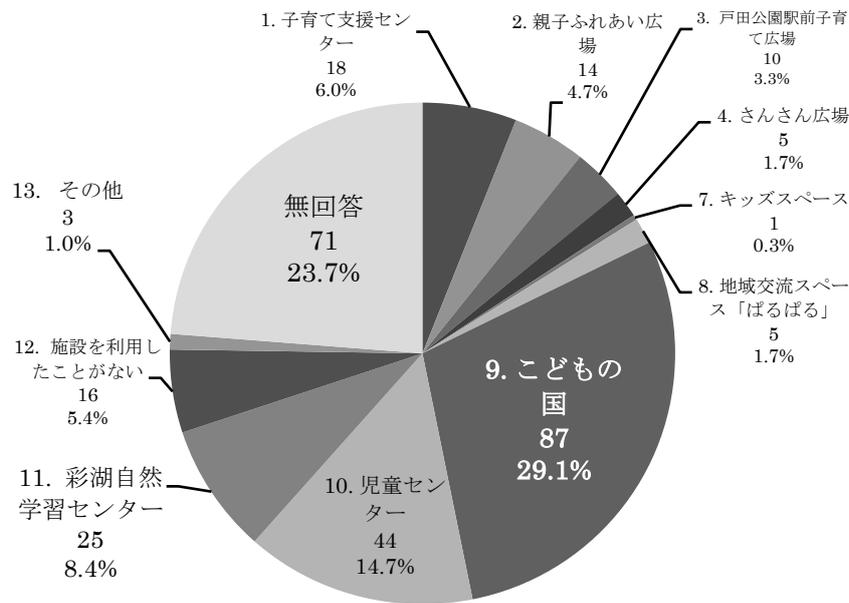


図 23 時々利用する（利用した）子育て支援施設について

図 23 の時々利用する（利用した）子育て支援施設について、最も多かったのが「9. こどもの国」であり、87 票（29.1%）であった。その次に多かったのが「無回答」の 71 票（23.7%）であり、「10.児童センター」が 44 票（14.7%）と続く。子育て支援の利用頻度を下げた設問であり、最も多い回答が「こどもの国」になったものの、依然として「無回答」も多い。

IV お住まいの地区に対する意識と今後のお住まいについて

問 4-1 あなたは普段近所の方との程度お付き合いをしていますか。

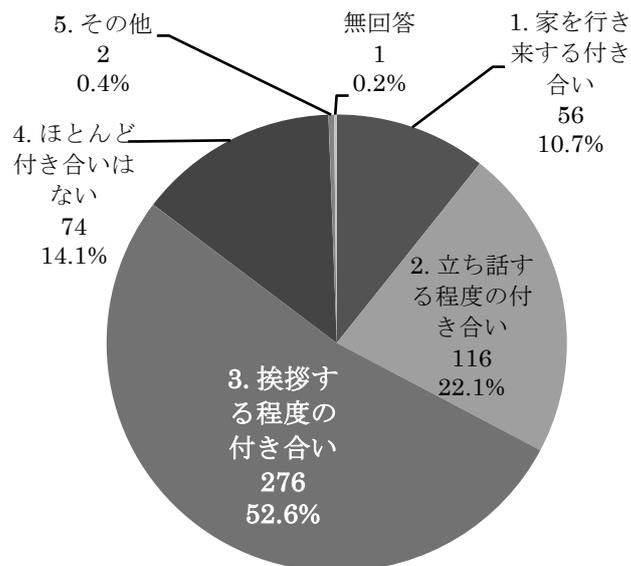


図 24 近所との付き合いについて

図 24 の近所との付き合いについて、最も多かったのが「3. 挨拶する程度の付き合い」であり、276 票（52.6%）であった。それに次いで、「2. 立ち話する程度の付き合い」が 116 票（22.1%）で続いた。近所づきあいが全くないという「4. ほとんど付き合いはない」は 74 票（14.1%）であり、深い近所づきあいがあるとう「1. 家を行き来する付き合い」は 56 票（10.7%）であり、これらはいずれも少数であった。

問 4-2 戸田市に住んでおられて市内に好きな、あるいはお気に入りの場所や地域はありますか。

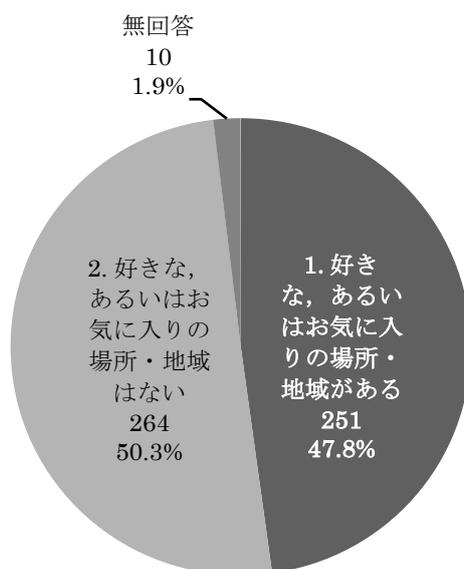


図 25 好きな、あるいはお気に入りの場所や地域の有無について

図 25 の好きな、あるいはお気に入りの場所や地域の有無について、「2. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域はない」が 264 票（50.3%）であり、「1. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域がある」が 251 票（47.8%）であった。前者の方が相対的にやや多いということが示された。それでは、次頁では「好きな、あるいはお気に入りの場所や地域」の詳細について提示する。

問 4-3 問 4-2 で 1. と答えた方にお尋ねします。それはどちらですか。一つお教えください。

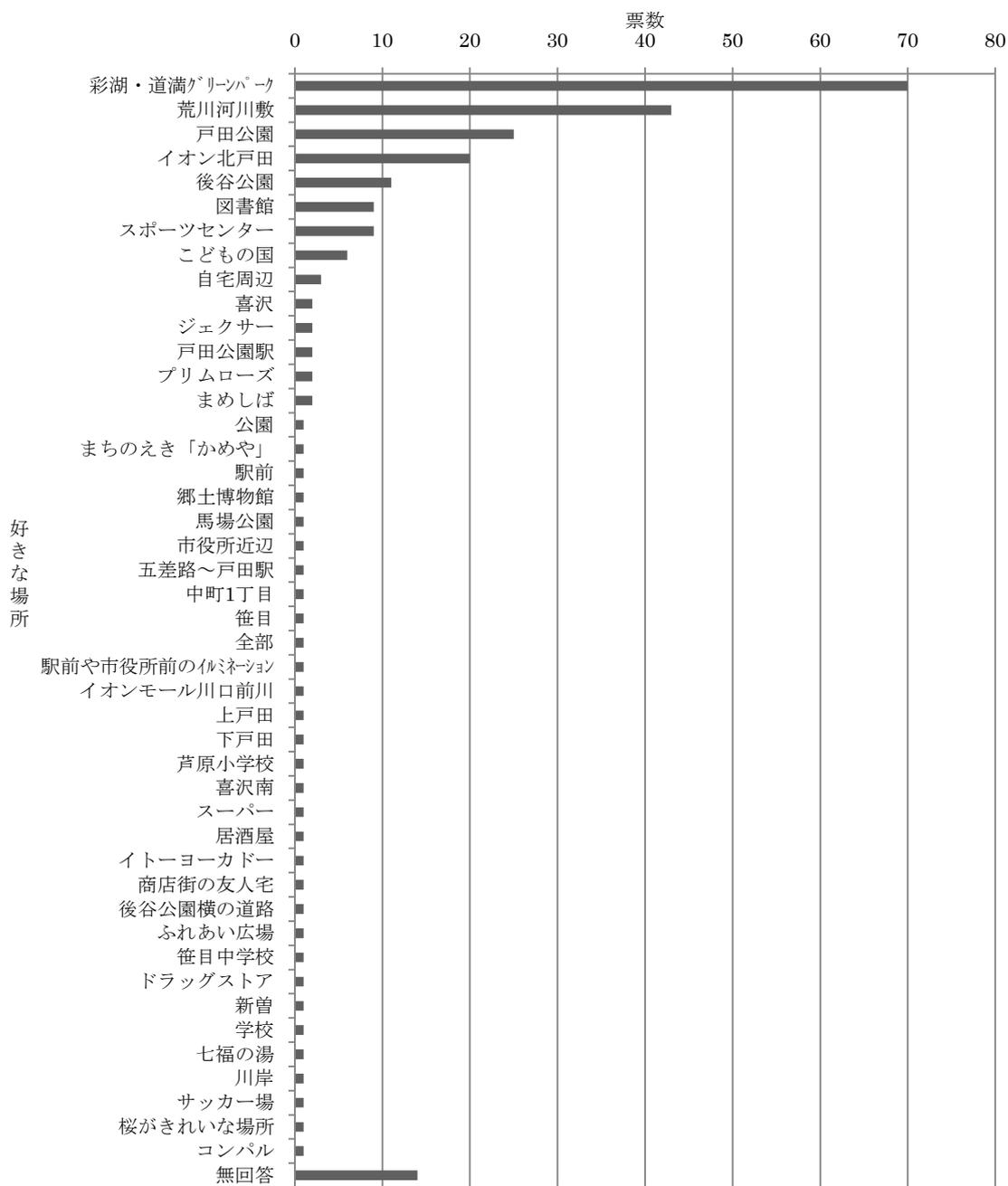


図 26 好きな、あるいはお気に入りの場所や地域について

図 26 の好きな、あるいはお気に入りの場所や地域について、「彩湖・道満グリーンパーク」が最多の 70 票 (27.9%) であり、それに次いで、「荒川河川敷」が 43 票 (17.1%)、戸田公園」が 25 票 (10.0%)、「イオン北戸田」が 20 票 (8.0%)、「後谷公園」が 11 票 (4.4%)

と続く。ショッピングモールである「イオン北戸田」以外は、すべて自然が感じられる場所や公園になっており、こういった場所や地域をお気に入りにする回答が全体の6割弱を占める。

問 4-4 今後も戸田市に住み続けたいと思いますか。

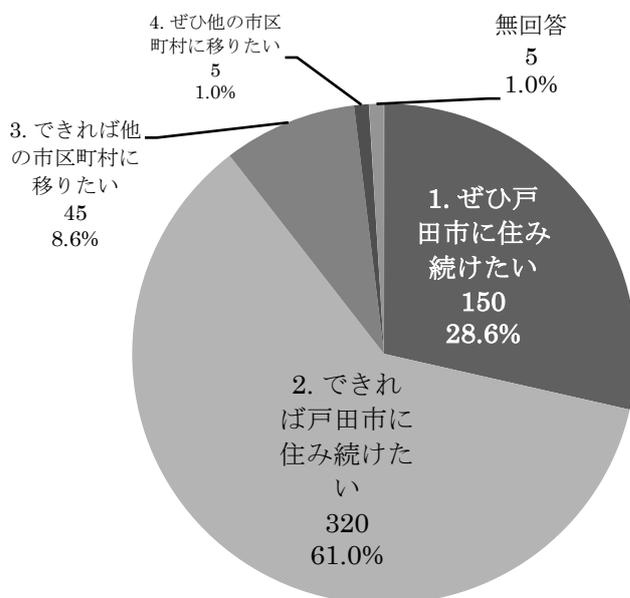


図 27 定住意向について

図 27 の定住意向について、最も多かったのが「2. できれば戸田市に住み続けたい」であり、320 票（61.0%）であった。それに次いで、「1. ぜひ戸田市に住み続けたい」が 150 票（28.6%）、「3. できれば他の市区町村に移りたい」が 45 票（8.6%）、「4. ぜひ他の市区町村に移りたい」が 5 票（1.0%）となった。

戸田市に住み続けることに対して、肯定的な回答が全体の9割弱を占め、他所への転出意向が相対的に極めて小さいことが明らかになった。

問 4-5 問 4-4 で「1. ぜひ戸田市に住み続けたい」または、「2. できれば戸田市に住み続けたい」と答えた方にお尋ねします。その理由について、一つお教えてください。

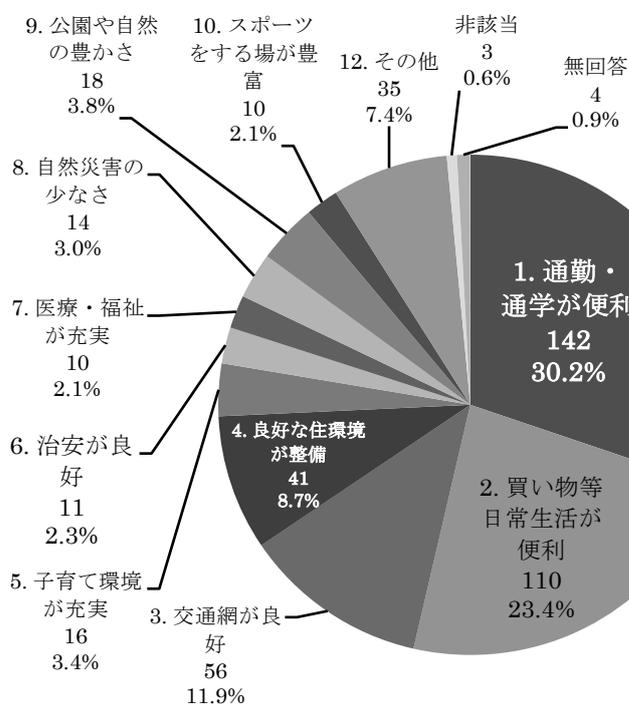


図 28 定住意向の理由について

図 28 の定住意向の理由について、最も多かったのが「1. 通勤・通学が便利」であり、142 票 (30.2%) であった。それに次いで、「2. 買い物等日常生活が便利」が 110 票 (23.4%) を占め、「3. 交通網が良好」が 56 票 (11.9%)、「4. 良好な住環境が整備」が 41 票 (8.7%) となっている。これらの回答で、全体の 7 割強を占めている。長く住み続けたい理由としては、やはり「通勤・通学が便利」が最多となったほか、子育て世代にとっても重要であると考えられる「買い物等日常生活が便利」という回答も目立った。

問 4-6 問 4-4 で「3.できれば他の市区町村に移りたい」または、「4.ぜひ他の市区町村に移りたい」と答えた方にお尋ねします。その理由について、一つお教えてください。

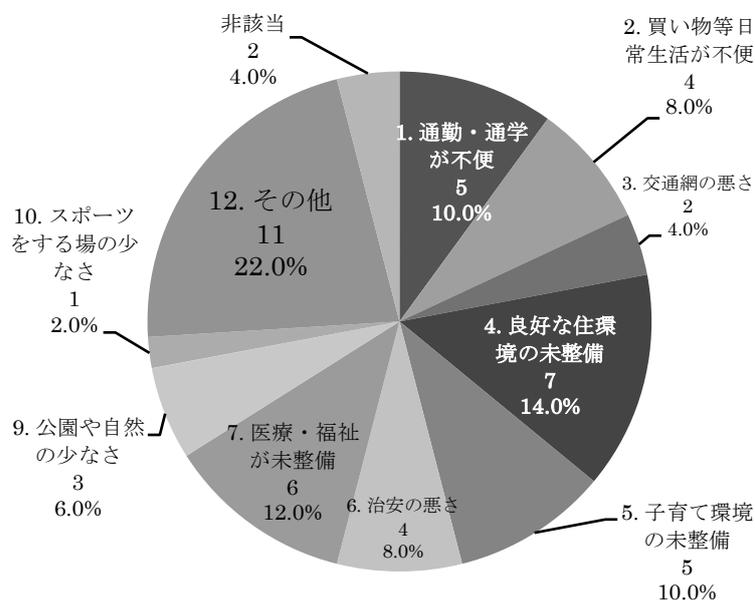


図 29 転出意向の理由について

図 29 の転出意向の理由について、最も多かったのが「12. その他」の 11 票 (22.0%) であり、それに次いで、「4. 良好な住環境の未整備」が 7 票 (14.0%)、「7. 医療・福祉が未整備」が 6 票 (12.0%) と続く。ただし、最多の回答でも 11 票とごく少数であることから、転出意向の理由としてはあまり信頼性がないと考えられる。

問 4-7 現在のお住まいでの居住期間についてお教えてください。

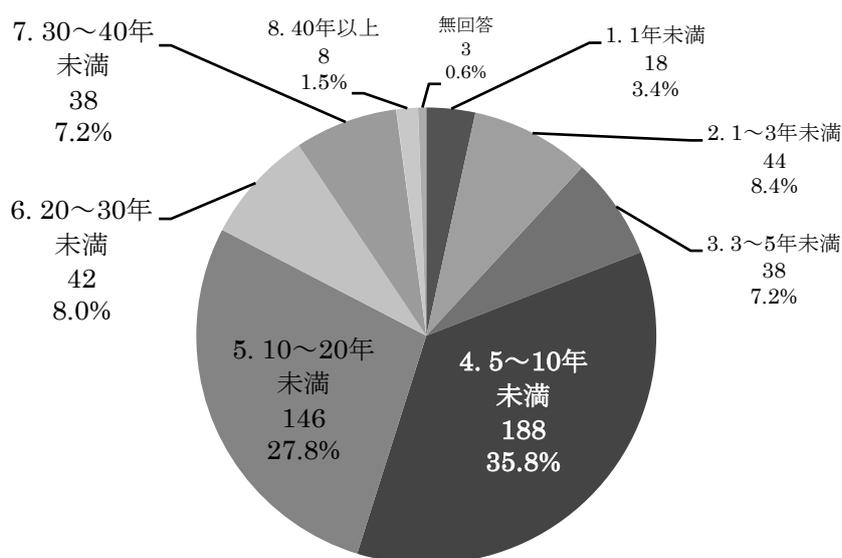


図 30 居住期間について

図 30 の居住期間について、最も多かったのが「4. 5～10 年未満」の 188 票（35.8%）であり、それに次いで、「5. 10～20 年未満」の 146 票（27.8%）が続く。これらの回答で、全体の 6 割強を占める。一方、「1. 1 年未満」は 18 票（3.4%）と非常に少ない。調査対象の抽出を居住 5 年以上としているので、居住期間 5 年未満の回答者は、市内での転居者と考えられる。

問 4-8 現在のお住まいの所有関係について教えてください。

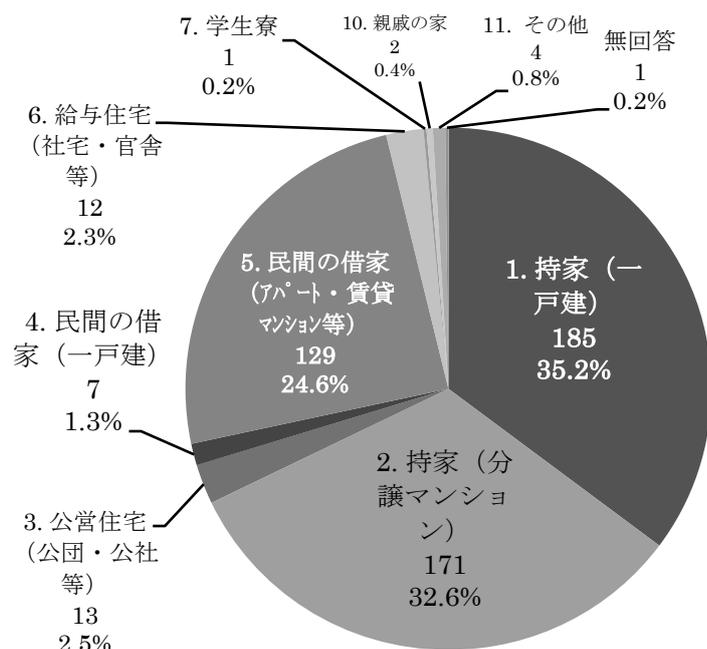


図 31 住宅の所有関係について

図 31 の住宅の所有関係について、最も多かったのが、「1. 持家 (一戸建)」であり、185 票（35.2%）であった。それに次いで、「2. 持家 (分譲マンション)」は 171 票（32.6%）であった。

一方、「5. 民間の借家 (アパート・賃貸マンション等)」は 129 票（24.6%）と一定のボリュームがあるものの、「持家」の割合が全体の 7 割弱を占めることが明らかになった。

問 4-9 現在のお住まいの広さについて教えてください。

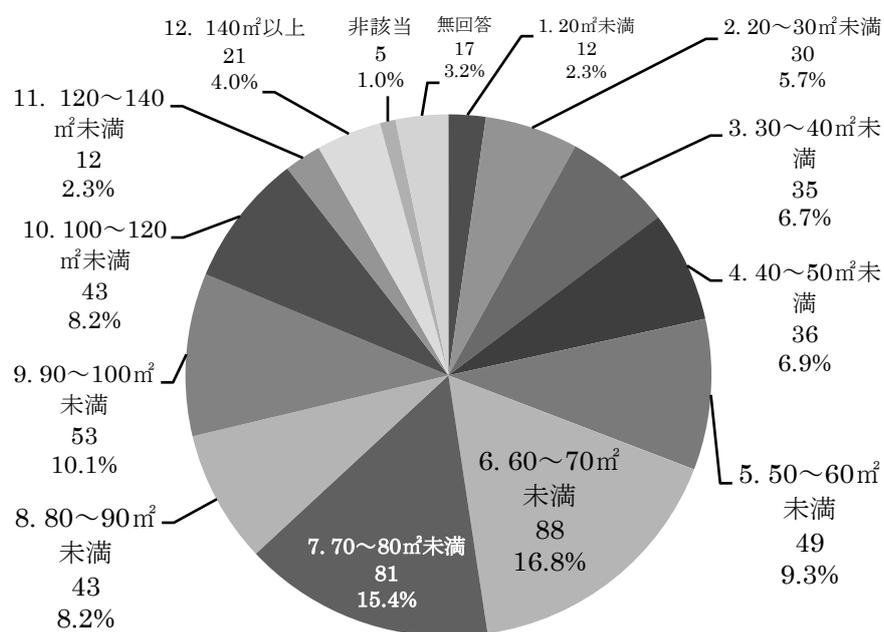


図 32 住宅面積について

図 32 の住宅面積について、最も多かったのが、「6. 60~70 m²未満」の 88 票 (16.8%) であり、それに次いで、「7. 70~80 m²未満」の 81 票 (15.4%)、「9. 90~100 m²未満」の 53 票 (10.1%)、「5. 50~60 m²未満」の 49 票 (9.3%) と続く。これらの回答で、全体の 5 割強を占める。これらの回答から、少なくとも 50 m²以上の住宅面積である住まいが全体の半分を超えていることが明らかになった。

第3部 クロス集計の結果と考察

調査結果の要旨

- ・ 年齢・性別クロスでは、女性の総計が313票で、男性よりも100票以上多い。年齢別で最もボリュームがあるのは、38歳、39歳のそれぞれ41票であり、総計でも、女性のみでの回答でも、35歳以上の票数が増加している。
- ・ 年齢・性別・職業クロスでは、最も票数の多い職業が「3. 事務・技術職」であり、女性が97票である。とりわけ、女性の35歳以上の票数が多くなっている。それに次いで、「10. 専業主婦」が92票となっている。さらに、「7. パート従事者」も女性が62票とその大半を占め、34歳以上の票数が多い。
- ・ 年齢・性別・年収および結婚の有無クロスについて、30歳未満の回答者で年収750万円以上のものは皆無である。年収の男女別をみると、「1. 200万円未満」の既婚女性が61票と最多であり、34歳以上から票数が増えつつある。それに次いで、男性では「5. 500～750万円未満」の既婚者が36票となっている。さらに「2. 200～300万円未満」の未婚女性が28票であり、これについては30歳以上よりも、20歳代にボリュームがある。
- ・ 女性の年齢・職業・年収・結婚の有無クロスでは、「7. パート従事者」の女性の年収の多くは、「1. 200万円未満」であり、とりわけ既婚女性が47票とその大半を占める。さらには、年齢では34歳以上の票が多いことから、結婚し、あるいは出産した後にパートへ出かける動きがあることを推測させる。
- ・ 「3. 事務・技術職」の女性の年収については、やや幅があるものの、最もボリュームがあるのが、「2. 200～300万円未満」であり、未婚女性が20票となっている。
- ・ 年齢と年収・子供の有無のクロスでは、年収が「1. 200万円未満」で「子供あり」という回答が、65票で最多であった。これと関連するのは、女性の「7. パート従事者」の年収で最多の「1. 200万円未満」であり、子供のいる既婚女性がパートに出て家計を支えるという状況がみえてくる。
- ・ 年収・性別・住宅所有クロスでは、「1. 200万円未満」の女性の住宅所有について、「2. 持家（分譲マンション）」が30票 「1. 持家（一戸建）」が24票となっており、これらの回答は、女性の年収のみで持家を購入し、そこに住まうという訳ではなく、上述のように世帯主の主な収入をパート労働によって支えているという状況を示すものである。
- ・ 職業・性別・学歴クロスでは、「2. 高等学校卒業」の162票、それに次いで、「5. 四年制大学卒業」が139票となっている。また、「2. 高等学校卒業」で「5. 販売・生産・労務職」の男性が34票と突出している。
- ・ 年収・性別・学歴クロスでは、高卒男性と四年制大卒男性の年収の差はそれほど明瞭ではないものの、年収750万円以上では、「2. 高等学校卒業」は7票 「5. 四年制大学卒業」では15票と差がみられ。票数は少ないながらも、高額年収では差がみられる。
- ・ 職業・性別・結婚後の仕事クロスでは、女性の多くは、結婚や出産というライフイベントを経て、従前の仕事を離職し、「10. 専業主婦」や「7. パート従事者」となるということである。
- ・ あるいは、「7. 1度退職したが、現在は再就職している」で女性が「3. 事務・技術職」で15票 「7. パート従事者」で14票みられることから、出産や育児がひと段落する中で復職するという動きもみてとれる。

- ・ 性別・住所クロスでは、「大字新曽」が最多の70票であり、それに次いで、「本町」の63票、「笹目」の50票と続く。
- ・ 住所・住宅所有関係クロスでは、住宅所有関係に地域的なすみわけがみられる。「大字新曽」は「1. 持家（一戸建）」が20票 「2. 持家（分譲マンション）」が21票 「5. 民間の借家（アパート・賃貸マンション等）」が23票といずれの設問も一定の回答がある。「本町」は「2. 持家（分譲マンション）」が29票と最多であり、「笹目」は「1. 持家（一戸建）」が35票と最多で、「2. 持家（分譲マンション）」は0票であった。
- ・ 職業と性別、通勤先のクロスでは、通勤先は埼玉県内の市町のほか、東京都、神奈川県、千葉県、茨城県の市区、計45市区町に広がっている。通勤先の総計で最多が、「戸田市」の112票であり、全体の3割強を占める。通勤先の上位は、戸田市に隣接する市区と東京の都心の区である。
- ・ 最も票数が多かった戸田市に職場がある回答者の職業の内訳は「7. パート従事者」の女性が42票と最多で（全体の4割弱）、それに次いで、「3. 事務・技術職」の女性が25票、「5. 販売・生産・労務職」の男性が20票と続いている。
- ・ 既婚で子供ありの女性が「7. パート従事者」の多くを占めることはすでに確認済みだが、その際の職場は戸田市内の自宅に近接するところが選択されよう。さらに、「5. 販売・生産・労務職」の男性については、戸田市内にある物流倉庫や生産現場に通勤する者が一定するいると考えられる。
- ・ 戸田市で子育てをしやすい理由として、「3. 乳幼児の遊び場が整備」という回答が、女性が64票、男性31票と最もボリュームがあり、なおかつ比較的幅広い年齢で回答されている。また、「1. 母子保健サービスの充実」も、女性が38票、男性が25票と比較的回答が多く、いずれも、31歳以上から回答が増加しつつある。
- ・ その一方で、「戸田市は子育てしやすいまちか」という設問に対して「5. わからない」と回答が145票もあった。
- ・ この「5. わからない」と回答を詳しくみていくと、回答者は男性、女性とも未婚で、子供がないという回答が、それぞれ43票、42票であり、総計の6割強となっている。育児経験がなければ、戸田市が子育てしやすいまちかどうかというのは判断できないという結果になった。
- ・ 子育て支援サービスの利用の有無について、「10. サービスを利用したことがない」が圧倒的に多く、女性94票、男性61票であった。これは総計の5割強を占める。
- ・ 子育て支援サービスを利用したことがない回答者の職業で多かったものは、「10. 専業主婦」の33票で、それに次いで、「7. パート従事者」の女性32票が続いた。他の職業と比べて、子育てに時間を割くことが可能であるはずの「10. 専業主婦」と「7. パート従事者」が、子育て支援サービスを利用したことがないという結果になった。
- ・ 子育て支援施設の利用頻度で、「よく利用」する／した施設に対する回答をくわしくみていくと、「無回答」が多く、女性が66票、男性が45票で総計の4割弱を占める。それに次いで、女性の回答で、「9. こどもの国」が42票 「10. 児童センター」が40票となっている。
- ・ 子育て支援施設の利用頻度で、「時々利用」する／した施設に対する回答をくわしくみていくと、「無回答」が女性45票、男性26票と多いものの、「9. こどもの国」が女性56票、男性30票と大きく増加しており、「10. 児童センター」も女性が37票となっている。

- ・ 子育て支援の「10. サービスを利用したことがない」の回答と「子育て支援施設の利用頻度（大）（小）」をクロスさせると「子育て支援施設の利用頻度（大）」では、「無回答」が75票 「12. 施設を利用したことがない」が25票となり、これだけで全体の6割以上を占めている。
- ・ 同様に、「子育て支援施設の利用頻度（小）」においては、「無回答」が51票と最多となった。子育て支援サービスを利用していない回答者は、その利用頻度に関する回答も、「無回答」や「12. 施設を利用したことがない」に集中する。
- ・ 「3. 二世帯世帯」で結婚している女性が162票と最多であり、それに次いで、「3. 二世帯世帯」で結婚している男性が86票と続いている。
- ・ その一方で、未婚については、「1. ひとり世帯」の男性が23票、女性が16票となっている。とりわけ男性は30歳以下と36歳以上で票が二分されている。また、「3. 二世帯世帯」の未婚男性が50票であり、女性が52票で、特色としては、いずれも幅広い年齢で票がみられる。
- ・ 二世帯・三世帯世帯の未婚の男女と年齢、年収をクロスすると、年収500万円以上は極めて少なく、5票しかない。その一方で、未婚女性で年収「2. 200～300万円未満」が15票と最もボリュームがあり、31歳までが12票となっている。また、未婚男性も年収「3. 300～400万円未満」は29歳までが7票となっている。
- ・ 年収が400万円未満の未婚の男女が全体の7割弱を占め、「パラサイト・シングル」ではないが、この年収であるから実家に住まわざるを得ないという状況も把握できよう。
- ・ 二世帯・三世帯世帯の未婚の男女と年齢、職業をクロスすると、最も多いものが「3. 事務・技術職」であり、男女の合計が38票になった。この「3. 事務・技術職」と年収400万円未満をクロスすると26票になり、職業としてはホワイトカラーだが、サラマンの平均年収である412万円を下回る票が多いことが明らかになった。
- ・ 未婚の回答者の年収と年齢のクロスは、総数117票のうち、年収500万円以上は12票であり、全体の1割しかなく、年齢も34歳以上である。多くは年収が500万円未満であり、「2. 200～300万円未満」が男女合わせて39票と最もボリュームがある。
- ・ 独身でいる理由と年齢、性別のクロスをみると、25歳以下で回答が集中したのは、「1. 若すぎる」という理由であり、男女で19票である。最もボリュームがあるのは、「7. 相手と知り合うきっかけがない」で、女性が29票、男性が26票である。男性は「31～35歳」が空白だが、女性に関しては幅広い年齢で回答がみられた。また、「9. 結婚生活を送るだけの経済力がない」は男性に特化して16票となっている。
- ・ 好きな場所の有無・定住意向クロスでは、「1. ぜひ戸田市に住み続けたい」という回答で「1. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域がある」と回答したのは101票になり、定住に積極的な回答者の7割弱が好きな場所があると答えた。その一方で、「2. できれば戸田市に住み続けたい」という回答で、「2. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域はない」と回答したの180票になり、定住にさほど積極的ではない回答者の6割弱が好きな場所がないと答えた。
- ・ 好きな場所の有無・居住期間クロスについて、居住期間が20年以上では、「1. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域がある」の回答よりも、「2. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域はない」の票が増加しており、居住歴が長くなるにつれて、好きな場所があるという回答が増加していくわけではないことが明らかになった。

- ・ 年齢・性別・好きな場所クロスについては、「彩湖・道満グリーンパーク」を筆頭に、「荒川河川敷」、「戸田公園」、「後谷公園」といった水辺や緑が豊かな、「自然環境」に関する場所があげられたのと、買い物などの日常生活で利用する「イオン北戸田」があげられた。また、子供ありの男性女性、好きな場所があるという回答が30代半ばごろから増加しており、子供の遊び場として、あるいは家族の余暇空間としての「彩湖・道満グリーンパーク」や「荒川河川敷」が回答されていると推測できる。
- ・ 住所・性別・近所付き合いの有無クロスについては、「4. ほとんど付き合いはない」のみ男性の回答が多かった。これは、男性は仕事などにより、家にいる時間が女性より短いので、近所付き合いが相対的に希薄になっていると考えられる。
- ・ また、このクロスについては、「1. 家を行き来する付き合い」が少ない一方で、「2. 立ち話する程度の付き合い」については、「大字新曽」が男女合わせて17票と最多で、続いて、「本町」が16票、「笹目」が14票、「美女木」が12票と続く。
- ・ さらに、「2. 立ち話する程度の付き合い」について「川岸」が11票であり、ここは民間借家が圧倒的に少なく、持家の割合が高かったので（23票中「1. 持家（一戸建）」が9票で「2. 持家（分譲マンション）」が12票、他所と比べて近所付き合いやコミュニケーションが取り持たれていると考えられる。
- ・ 近所付き合いの有無・住宅所有関係クロスについて、住宅の所有関係によって、近所付き合いの有無や程度に相当の差異が出てくるのが明らかになった。まず「3. 挨拶する程度の付き合い」は総計で276票であり、住宅所有関係のどの選択肢でも一定程度のボリュームがある。
- ・ 次に、「2. 立ち話する程度の付き合い」で最もボリュームがあるのは、「1. 持家（一戸建）」の53票である。自宅の玄関先や自宅前の道路で雑談をするということだろう。
- ・ その一方で、「1. 家を行き来する付き合い」については、「2. 持家（分譲マンション）」が30票であり、「1. 持家（一戸建）」の18票以上にボリュームがある。この理由は、集合住宅という建築構造の特性上、玄関先での立ち話が難しいということがあげられるのではなかろうか。
- ・ 「4. ほとんど付き合いはない」で最多は「5. 民間の借家（アパート・賃貸マンション等）」の36票であり、居住期間が持家よりも相対的に短くなるということや、やはり集合住宅といった構造上の要因もあり、近隣関係が希薄になるのではないかと考えられる。
- ・ 年収・性別・定住意向クロスについては、年収が上昇するほど「3. できれば他の市区町村に移りたい」や「4. ぜひ他の市区町村に移りたい」の回答が減少していく。
- ・ 住所・肯定的な定住意向・居住期間クロスについては、まず、「1. ぜひ戸田市に住み続けたい」、「2. できれば戸田市に住み続けたい」という回答数と居住期間の長さについては、さほど関係がない。
- ・ その一方で、「1. ぜひ戸田市に住み続けたい」の回答が「2. できれば戸田市に住み続けたい」の回答に迫っている住所が「上戸田」（21票）と「笹目」（19票）、「美女木」（15票）である。これらに共通する特色としては、他の住所と比べて、ほぼどの居住期間においても「1. ぜひ戸田市に住み続けたい」という回答がみられるということである。

第2部における単純集計の結果を踏まえて、いくつかの設問の回答をクロス集計する。今年度の調査では年収や学歴、お気に入りの場所や愛着のある場所に関する設問を盛り込んだ。そういった設問の回答と年齢や職業、結婚の有無といった基本属性とのクロスで、回答者の社会階層や生活状況が、より詳細に把握されよう。さらには、子育て支援サービス、施設に関する設問とのクロスでは、戸田市における上記のサービスや施設へのニーズ、あるいは課題が浮かび上がってくるであろう。なお、以下のクロス表は、原則として、無回答や非該当の票を除いた有効回答について集計したものである。ゆえに、それぞれの集計表によって票の総計が異なることをあらかじめ断っておく。

I. 基本属性に関するクロス集計

まず、回答者の年齢と性別のクロスについて示す。

表1 年齢・性別クロス

年齢	男	女	総計
20	1	3	4
21	7	8	15
22	3	5	8
23	8	4	12
24	2	5	7
25	5	1	6
26	5	4	9
27	4	7	11
28	6	10	16
29	5	5	10
30	5	5	10
31	4	8	12
32	5	6	11
33	5	7	12
34	11	9	20
35	9	21	30
36	13	19	32
37	8	22	30
38	15	26	41
39	13	28	41
40	10	19	29
41	14	17	31
42	11	17	28
43	15	26	41
44	17	22	39
45	9	9	18
総計	210	313	523

単純集計でも明らかになったように、まず女性の総計が313票で、男性よりも100票以上多い。年齢別で最もボリュームがあるのは、38歳、39歳のそれぞれ41票であり、総計

でも、女性のみでの回答でも、35歳以上の票数が増加している。次に年齢、性別、職業のクロスについてみていく。

表2 年齢・性別・職業クロス

	1. 専門職		2. 管理職		3. 事務・技術職		4. サービス業従事者		5. 販売・生産・労務職		6. パート従事者		7. 学生		8. 自営業		9. 専業主婦		10. 無職		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
20											1		3								4
21					1				1				5	7							14
22					1	3	1		1		1		1								8
23						1	1	2		1			3						2		10
24					1	3			1					2							7
25						1	2		2												5
26					3	1	1		1	1							2				9
27	1				2	2	1	1		1		1					1				10
28					2	6	2		1		1				1				1	2	16
29					2	3	2										1		1	1	10
30						1	3				1		1				1		2		10
31	1				1	2			2		3				1		2				12
32		1			1	3			3								1				10
33					2	4	1		1	1					1		1				11
34		1			4		1		3		3						5		1		18
35	1				2	10		1	3		2				2	1	7				30
36					6	3	1		4	1	1	4			1		9				30
37					3	6	1		3		1	1	1		1		13				30
38					1		5	8	1		3	1	4		4	1	10		2		40
39					2	1	5	10	1		3	1	5		2		9		2		41
40					1		3	6			3		6		2	1	6				28
41					3	1	5	3	2	2	3		4			1	6				30
42						5	7				6	1	3				5				27
43	1				2		4	5	1	1	5		10		1	1	7		1	1	40
44	1				3	1	6	5			3	1	2	9		2	4			1	38
45					3		2	2	1		2		5				2		1		18
総計	5	2	18	3	67	97	20	7	53	10	6	62	8	15	15	8	92		9	9	506

最も票数の多い職業が「3. 事務・技術職」であり、女性が97票である。「3. 事務・技術職」については、男女とも幅広い年齢で回答がみられるが、とりわけ、女性の35歳以上の票数が多くなっている。それに次いで、「10. 専業主婦」が92票となっている。こちらも

37歳，38歳がそれぞれ13票，10票となっており，最もボリュームがある。「7. パート従事者」も女性が62票とその大半を占め，34歳以上の票数が多いことが特徴である。次に，年齢，性別と年収，結婚の有無に関するクロスについて分析する。

表3 年齢・性別・年収・結婚の有無クロス

	1. 200万円未満		2. 200～300万円 未満		3. 300～400万円 未満		4. 400～500万円 未満		5. 500～750万円 未満		6. 750～1,000万円 未満		7. 1,000万円以上		総計												
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女													
	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×													
20	1														1												
21	1		1												2												
22			1	4	2										7												
23	1	1		3											5												
24		1			1	1	1		1						5												
25	2		1		1	1									5												
26			1	2	1	2		1							7												
27		1	2	3	2			1							9												
28		1	1		5	3	1	1		1					13												
29				1	1	1	1	1		1					6												
30	1	1		1			1	2							6												
31	1	2		1	1	1	1	1	1						9												
32			1	1	1	1		1	1		1				8												
33	1		1		1	1	1	2							9												
34		3			4		3		2		1				13												
35		2	1	1	2	3	1	1	2	2	1	1	3		23												
36		3	1	1	2	3	1	3	1	1	2	2			20												
37	1	1	1		1	1	1	2	1		3		1	1	14												
38	1	6		1	1	1	3	1	1	2	2	1	5	1	27												
39		7	1	3	1	3	2		2	2	3	1	1	1	27												
40		4	1		1	1	1	1	1	2	3	1	1	1	20												
41		5	1	1	1		1	1	4	1	4	1	1	2	24												
42		4		1		2	2	1	1	2	2	1	2	1	19												
43		7		1	2		1	1	1	3	1		1	1	25												
44	2	9	1	2		1	1		1		4	1	1	5	31												
45		6						1		2	1	1	2		15												
総計	3	9	61	8	5	11	16	28	24	20	14	13	27	9	9	7	36	8	8	2	19	1	4	1	5	2	350

結婚の有無について，「1. 結婚している」は○，「2. 結婚していない」は×で示している。

まず、大きく見れば、30歳未満の回答者で、年収750万円以上のものは皆無である。年収が上昇すれば、回答者の年齢も上昇するという一般的な傾向を読み取ることができる。年収の男女別をみると、「1. 200万円未満」の既婚女性が61票と最多であり、34歳以上から票数が増えつつある。それに次いで、男性では「5. 500～750万円未満」の既婚者が36票となっている。さらに「2. 200～300万円未満」の未婚女性が28票であり、これについては30歳以上よりも、20歳代にボリュームがある。次は、特定の職業に絞った女性のクロスについて分析する。

表4 女性の年齢・職業・年収・結婚の有無クロス

	3. 事務・技術職						7. パート従事者			総計
	1. 200万円未満	満 2. 200～300万円未	満 3. 300～400万円未	満 4. 400～500万円未	満 5. 500～750万円未	未 満 6. 750～1,000万円	1. 200万円未満	満 2. 200～300万円未	3. 300～400万円未満	
結婚の有無	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○	
22		3						1		4
23		1								1
24	1		1	1						3
25			1							1
26		1								1
27		2					1			3
28	1	4	1				1			7
29		1	1		1					3
30	1	1		1						3
31		1	1				1		1	4
32		1	1	1						3
33			1	2						3
34							3			3
35		2	2	1	2	2	1	2		12
36		2			1			2		5
37	1	1	1	2			1	1		7
38	1	1	1	1	1	1		4		11
39	3	2	1	2		1		4	1	14
40		1	1		2		1	4	1	11
41	1		1			1		4		7
42	1	1	1	1		1		3		9
43			1	1	1		1	7	1	11
44	1	2	1					7		12
45	1				1			5		7
総計	10 2	12 20	12 10	9 4	6 1	4 1	47 3	2 1	1	145

結婚の有無について、「1. 結婚している」は○、「2. 結婚していない」は×で示している。

このクロス表では、女性の職業でボリュームがあった、「7. パート従事者」、「3. 事務・技術職」の2つと年齢・年収・結婚の有無についてクロスをかけた。一目でわかるように、「7. パート従事者」の年収の多くは、「1. 200万円未満」であり、とりわけ既婚女性が47票とその大半を占める。さらには、年齢では34歳以上の票が多いことから、結婚し、あるいは出産した後にパートへ出かける動きがあることを推測させる。これについては、子供の有無などとのクロスで詳細にみていく必要がある。「3. 事務・技術職」については、年収の区分がやや多様ではあるものの、最もボリュームがあるのが、「2. 200～300万円未満」であり、未婚女性が20票となっている。次は、年齢と年収・子供の有無のクロスである。

表5 年齢・年収・子供の有無クロス

	1. 200万円未満		2. 200～300万円未満		3. 300～400万円未満		4. 400～500万円未満		5. 500～750万円未満		6. 750～1,000万円未満		7. 1,000万円以上	総計
	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	
20		1												1
21		1		1										2
22				5		2								7
23		3		3										6
24		1			1	2		1						5
25		2		1		2								5
26				3		3		1						7
27		1		5		2		1						9
28	1	1		5		4	1		1					13
29				1	1	1	1	1		1				6
30	1	1	1			1		2						6
31	2	2		1	1	1	1	1						9
32			1	2	1	1	2		1		1			9
33		1		1	1	2	2	1			1			8
34	2	1			3	1	2	1	2	1				13
35	1	1	2	4	3	1	3	2	1	1	2	1		22
36	2	2	2	2	1	3	3	2	1	3				21
37	2	1		1	1	3	3		2	1	2			16
38	6	1	1	2	2	5	1	2	6	1				27
39	8		3	2	4	1	1	3	2	3	1			28
40	4	1	1	1	1	2	1	2	4		1	1	1	20
41	5		3		1		3	2	3	3	2		1	23
42	4		2	1	2	3	2		2	1	2	1		20
43	7	1	2	2	2	1	1	3	3	2	1	1	2	28
44	14		3		2		1		4	2	5	2	1	34
45	6							1	3	1	2		2	15
総計	65	22	21	43	27	41	28	26	35	20	19	6	7	360

子供の有無について、「1.いる」は○、「2.いない」は×で示している。

このクロス表では、年収が「1.200万円未満」で「子供あり」という回答が、65票で最多であった。これと関連するのは、先ほど提示した、女性の「7.パート従事者」の年収で最も多かった「1.200万円未満」であり、子供のいる既婚女性がパートに出て家計を助けるという状況がみえてくる。そういったところから、例えば下記の年収、性別、住宅所有クロスを見ると、「1.200万円未満」の女性の住宅所有について、「2.持家（分譲マンション）」が30票「1.持家（一戸建）」が24票となっている。これらの回答は、女性の年収のみで持家を購入し、そこに住まうという訳ではなく、上述のように世帯主の主な収入をパート労働によって支えるという状況がみてとれる。

表6 年収・性別・住宅所有クロス

	1. 持家（一戸建）		2. 持家（分譲マンション）		3. 公営住宅（公団・公社等）		4. 民間の借家（一戸建）		5. 民間の借家（7A・T・賃貸マンション）		6. 給与住宅（社宅・官舎等）		7. 学生寮	10. 親戚の家	11. その他	総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	女	女		
1. 200万円未満	6	24	2	30	1	2	1		3	15			1	1		86
2. 200～300万円未満	6	13	4	14	2	1			3	19	1	1				64
3. 300～400万円未満	14	3	10	11	2		1	16	11	2					1	71
4. 400～500万円未満	15	5	11	8		1		11	2		1				1	55
5. 500～750万円未満	16	2	20	3	1		1	7	4		1					55
6. 750～1,000万円未満	11	3	7						1	1	1	1				25
7. 1,000万円以上	3	2	1						1							7
総計	71	52	55	66	6	4	1	2	42	52	4	4	1	1	2	363

これまで性別や年齢といった基本属性に、年収や職業、子供の有無などをクロスさせて分析を行ってきた。以下では、上述のような基本属性に、職業や年収、学歴、結婚後の仕事などをクロスさせて、さらに詳しい分析を進めていく。

表7 職業・性別・学歴クロス

	1. 専門職		2. 管理職		3. 事務・技術職		4. サービス業従事者		5. 販売・生産・労務職		7. パート従事者		8. 学生		9. 自営業		10. 専業主婦		11. 無職		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	女	男	女		
1. 中学校卒業			1				1		6		2				1	4	2	3		20	
2. 高等学校卒業	1		5		14	21	6	3	34	6	3	24	2	3	7	2	24	4	3	162	
3. 各種学校・専門学校卒業		2	2	1	18	18	8	2	8		2	12	1	1	3	2	23			103	
4. 短期大学・高等専門学校卒業				1	3	17			3	1	15		1		1	23		2		67	
5. 四年制大学卒業	2		9	1	31	36	5	2	3	3	1	9	5	7	4	2	16	3		139	
6. 大学院修了	2		1		1	3							1			1				9	
総計	5	2	18	3	67	95	20	7	54	10	6	62	8	13	14	8	91	9	8	507	

総計で最多であるのが「2. 高等学校卒業」の162票、それに次いで、「5. 四年制大学卒業」が139票となっている。また、「2. 高等学校卒業」で「5. 販売・生産・労務職」の男性が34票と突出している。同様に、「2. 高等学校卒業」の女性については、「7. パート従事者」、「10. 専業主婦」が24票、「3. 事務・技術職」が21票となっており、これらがボリュームとなっている。一方、「5. 四年制大学卒業」については、「3. 事務・技術職」が男性31票、女性36票と他を引き離している。それでは、学歴に年収をクロスさせるとどのような傾向が見えてくるであろうか。

表8 年収・性別・学歴クロス

	1. 中学校卒業		2. 高等学校卒業		3. 各種学校・専門学校卒業		4. 短期大学・高等専門学校卒業		5. 四年制大学卒業		6. 大学院修了		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1. 200万円未満	1	2	7	29	3	15		17	2	12			88
2. 200～300万円未満		1	9	12	2	9	1	8	3	18			63
3. 300～400万円未満		2	14	8	14	6	2	3	11	10	1		71
4. 400～500万円未満	2	1	17	3	9	2		4	9	7			54
5. 500～750万円未満		1	16	2	10	4	2		14	4	1		54
6. 750～1,000万円未満			7		3			1	9	1	1	3	25
7. 1,000万円以上				1					4	1	1		7
総計	7	3	70	55	41	36	5	33	52	53	4	3	362

繰り返しになるが、このクロス表には専業主婦や学生は入っておらず、例えば、「1. 200万円未満」の「2. 高等学校卒業」の女性は29票、「4. 短期大学・高等専門学校卒業」の女性は17票などの多くは、これまでのクロス集計から推測すると「パート従事者」であろう。また、「2. 高等学校卒業」の男性の年収で、「4. 400～500万円未満」が17票、「5. 500～750万円未満」が16票である。その一方で、「5. 四年制大学卒業」の男性の年収は、「4. 400～500万円未満」が9票、「5. 500～750万円未満」が14票となっており、学歴による年収の格差はそれほど明瞭ではないように思われる。ただし、年収750万円以上では、「2. 高等学校卒業」は7票、「5. 四年制大学卒業」では15票と差がみられ。票数は少ないながらも、高額年収では差がみられる。次のクロス表は、主に女性に着目した、職業と結婚後の仕事のクロス分析である。

表9 職業・性別・結婚後の仕事クロス

	1. 専門職		2. 管理職		3. 事務・技術職		4. サービス業従事者		5. 販売・生産・労務職		7. パート従事者		9. 自営業		10. 専業主婦		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1. 結婚前から現在も仕事をしている	2	13	2	38	33	8		26	1	9	9	3	1			145	
2. 結婚前から仕事をしていない					1										3	4	
3. 結婚を機に退職した										1	13		1		20	35	
4. 第1子の妊娠・出産を機に退職した	1	1			2						12				40	56	
5. 第2子以降の出産を機に退職した											2				3	5	
6. 結婚前から仕事をしていたが、事情があり退職した											1				10	11	
7. 1度退職したが、現在は再就職している					15	1	1	7	1	14		2				41	
総計	3	14	2	38	51	9	1	33	3	51	9	6		77		301	

上の表について、「1. 結婚前から現在も仕事をしている」の総計が145票で圧倒的にボリュームがあるものの、これは「3. 事務・技術職」の女性票を除いて、男性の票が数を伸ばしているからである。ここで女性の働き方に着目したい。例えば、「4. 第1子の妊娠・出産を機に退職した」の回答で最多の40票は「10. 専業主婦」であり、それに次いで、12票が「7. パート従事者」である。また、「3. 結婚を機に退職した」の回答で最多の20票も「10. 専業主婦」であり、それに次いで、13票が「7. パート従事者」であった。

これから分かるように、女性の多くは、結婚や出産というライフイベントを経て、従前の仕事を離職し、「10. 専業主婦」や「7. パート従事者」となるということである。あるいは、「7. 1度退職したが、現在は再就職している」で女性が「3. 事務・技術職」で15票、「7. パート従事者」で14票みられることから、出産や育児がひと段落する中で復職するという動きもみてとれる。これまで、性別や職業、年収、子供の有無についてのクロス集計を行ってきた。以下では、もう一つの基本情報である、住所地と勤務先に関するクロス集計を行う。

表 10 性別・住所クロス

	男	女	総計
大字新曽	27	43	70
本町	30	33	63
笹目	19	31	50
上戸田	21	26	47
美女木	18	20	38
中町	13	22	35
下前	14	18	32
新曽南	13	18	31
喜沢	10	14	24
川岸	6	17	23
喜沢南	9	13	22
南町	6	11	17
下戸田	4	10	14
大字美女木	6	6	12
笹目南町	2	8	10
笹目北町	4	5	9
氷川町	3	6	9
美女木東	4	3	7
大字上戸田	2	5	7
早瀬	1	2	3
戸田公園		1	1
総計	212	312	524

総計が上位のいずれの住所も女性の票が多い。最多は、「大字新曽」の70票であり、それに次いで、「本町」の63票、「笹目」の50票と続く。

次頁のクロス表は、住所と住宅所有関係のクロスだが、総計で最多の「大字新曽」は「1. 持家（一戸建）」が20票 「2. 持家（分譲マンション）」が21票 「5. 民間の借家（アパート・賃貸マンション等）」が23票といずれの設問も一定の回答がある。「本町」は「2. 持家（分譲マンション）」が29票と最多であり、「笹目」は「1. 持家（一戸建）」が35票と最多で、「2. 持家（分譲マンション）」は0票であった。その他、「2. 持家（分譲マンション）」でボリュームがあるのは「新曽南」の19票であり、「1. 持家（一戸建）」でボリュームがあるのは、「美女木」の24票である。

表 11 住所・住宅所有関係クロス

	1. 持家（一戸建）	2. 持家（分譲マンション）	5. 民間の借家（7/11・賃貸マンション等）	3. 公営住宅（公団・公社等）	6. 給与住宅（社宅・官舎等）	4. 民間の借家（一戸建）	10. 親戚の家	7. 学生寮	総 計
大字新曽	20	21	23	3	1	2			70
本町	11	29	18	1	1	2			62
笹目	35		11	1	1		1	1	50
上戸田	16	13	16	1					46
美女木	24	1	11						36
中町	13	12	9		1				35
下前	6	14	4	6	1	1			32
新曽南	5	19	5			1	1		31
喜沢	14	4	6						24
川岸	9	12	2						23
喜沢南	6	12	4						22
南町	3	10	2		1				16
下戸田	3	3	7			1			14
大字美女木	4	5	2		1				12
笹目南町	5	4	1						10
氷川町	6	1	1	1					9
笹目北町	1	6	2						9
大字上戸田	1	4	2						7
美女木東		1	1		5				7
早瀬	3								3
戸田公園			1						1
総 計	185	171	128	13	12	7	2	1	519

次頁のクロス表は、職業と性別、通勤先のクロスである。通勤先は埼玉県内の市町のほか、東京都、神奈川県、千葉県、茨城県の市区、計 45 市区町に広がっている。とりわけ、神奈川県の厚木市や鎌倉市、千葉縣市原市、茨城県土浦市などは票数こそ少ないものの、遠距離の通勤先といえよう。

さて、クロス表をみていくと、通勤先の総計で最多が、「戸田市」の 112 票であり、全体

表 12 職業・性別・通勤先クロス

	1. 専門職		2. 管理職		3. 事務・技術職		4. サービス従事者		5. 販売・生産・労務職		7. パート従事者		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
戸田市	1		3		9	25	4	3	20	1	4	42	112
さいたま市					8	7	2		4	1	1	5	28
川口市		1	1		2	8	1		4	2		4	23
板橋区		1			5	3			5			3	17
新宿区			2		8	2	2	1		1			16
千代田区					7	6				1			14
中央区	1			1	1	6	2	1		1		1	14
港区			1		4	4	1		1				11
文京区					1	7			1				9
北区					2	3			2	1		1	9
渋谷区			1	2	1	4				1			9
豊島区			1		1	4	1	1					8
品川区			1		1	4	1						7
足立区					2	2	1		1				6
江東区			2		1	1	1					1	6
蕨市						3			2				5
台東区					1	1			1				3
練馬区					1		1		1				3
朝霞市					1	1							2
目黒区			2										2
厚木市			1		1								2
越谷市					1					1			2
横浜市	1				1								2
川崎市	1					1							2
墨田区							1						1
西東京市									1				1
和光市						1							1
新座市									1				1
世田谷区	1												1
相模原市									1				1
多摩市						1							1
鎌倉市					1								1
立川市						1							1
大田区					1								1
所沢市									1				1
滑川町									1				1
三芳町									1				1
中野区									1				1
市原市							1						1
杉並区									1				1
葛飾区									1				1
土浦市							1						1
日野市			1										1
柏市						1							1
鴻巣市			1										1
総計	5	2	17	3	61	96	20	6	51	10	5	57	333

の3割強を占める。それに次いで、「さいたま市」が28票、「川口市」が23票、「板橋区」が17票、「新宿区」が16票、「千代田区」と「中央区」が14票となっている。これらから、通勤先の上位は、戸田市に隣接する市区と東京の都心の区であることが分かる。

最も票数が多かった戸田市に職場がある回答者の職業の内訳は「7. パート従事者」の女性が42票と最多で（全体の4割弱）、それに次いで、「3. 事務・技術職」の女性が25票、「5. 販売・生産・労務職」の男性が20票と続いている。これまでのクロス集計で、既婚、子供ありの女性が「7. パート従事者」の多くを占めることが分かってきたが、その際の職場はやはり、自宅に近接するところであり、戸田市内が選択されよう。さらに、「5. 販売・生産・労務職」の男性については、戸田市内にある物流倉庫や生産現場に通勤する者が一定数いると考えられる。また、「3. 事務・技術職」については、「戸田市」が男女合わせて34票のほか、「さいたま市」が15票、「千代田区」が13票、「川口市」と「新宿区」が10票となっており、デスクワークについては、戸田市やその隣接市区以外に東京都心の区が選択される。

ここまでは年齢や性別、住所などと職業、年収、住宅所有関係などをクロスすることによって、戸田市にどのような社会階層の人々多いか、あるいは、そこからうかがい知ることができる生活状況についても確認してきた。次章では、子育てに関する回答と基本属性をクロスさせることで、子育てのニーズや課題について明らかにしていきたい。

Ⅱ. 子育て支援に関するクロス集計

単純集計でも示されたように、「戸田市は子育てしやすいまちか」という設問について、「2. どちらかというと思う」が193票（36.8%）、「1. そう思う」が121票（23.0%）であり、肯定的な回答が全体の6割弱を占めた。それらの肯定的な回答と子育てしやすい理由、年齢、性別をクロスしたものが、下記のクロス表である。

表 13 年齢・性別・子育てしやすい理由クロス

	1. 母子保健サービスの充実		2. 小児医療体制の充実		3. 乳幼児の遊び場が整備		4. 子育て支援活動への支援が充実		5. 子育てに関する相談や情報提供の充実		6. 保育園・幼稚園の充実		7. 子育てしながら働きやすい職場環境の整備		8. 子育てへの経済的支援の充実		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
21					1	2		1			1						6
22		1			1	1		1			1						5
23	1	1	1								1						4
24					1		1								1		3
25	1	1			1												3
26						1	2						1	1			5
27					1	1	1						1	1			4
28					1	2		1							1		5
29					1	1		1			1						4
30			1		1	3			1				1				7
31		1		1	1		1		1								5
32	1		1	1	1	2	1										7
33		1			1	1		1	1								5
34	2		2		3	3		1									11
35		3	2		1	5	1	1			3		1				17
36	2	2	1	1	1	3		2			1				2		15
37	2	3		1	2	4	1	2	1		1		1				18
38		2	1		3	3	1	1	1	1	4		1	1	1		20
39	2	5	1	3	2	7	2	2	2	1	2				1		28
40	3	7		2		3		1		1	1						17
41	3	3	1	1	2	4		1		2	1		1	1	1		21
42	2		1	1	1	8		1	1	1	1						17
43	1	2			3	3		3	1	1	1		1		3		20
44	5	5	1		1	5	2	2	1		1	1	1		1		26
45		1	2	1	1	2		1	1								9
総計	25	38	15	12	31	64	11	23	4	8	9	19	3	8	3	10	283

子育てしやすい理由として、「3. 乳幼児の遊び場が整備」が、女性が64票、男性31票と最もボリュームがあり、なおかつ比較的幅広い年齢で回答されている。また、「1. 母子保

健サービスの充実」も、女性が 38 票、男性が 25 票と比較的回答が多く、いずれも、31 歳以上から回答が増加しつつある。

その一方で、このクロス表にはあらわれていないものの「戸田市は子育てしやすいまちか」という設問に対して「5. わからない」と回答が 145 票もあった。この回答について、結婚や子供の有無についてクロスをかけたのが下記の表である。

表 14 戸田市は子育てしやすいまち（回答：不明）・年齢・性別・結婚・子供の有無クロス

	男			女			総計
	結婚の有無		×	結婚の有無		×	
子供の有無	○	×		○	×		×
20			1			2	3
21			5			3	8
22			1			1	2
23			4			2	6
24						3	3
25			2				2
26			2	1		1	4
27			1	1		2	4
28			2			5	7
29			4			1	5
30			2			1	3
31					2	1	3
32						2	2
33			2	1		2	5
34						1	1
35	1	2		2	1	3	9
36	1	3	4	2	1	2	13
37	1		1		1	2	5
38	1	1	4	1	1	4	12
39		2	1	1		2	6
40	2		2		1	1	6
41		3	1	1	1		6
42	1				2		3
43	2	3	1		5	1	12
44	1		2	1			4
45		1	1	1			3
総計	10	15	43	12	15	42	137

結婚の有無について、「1. 結婚している」は○、「2. 結婚していない」は×で示している。また、子供の有無についても、「1.いる」は○、「2. いない」は×で示している。

一目見て分かるように、男性、女性とも未婚で、子供がないという回答が、それぞれ 43 票、42 票であり、総計の 6 割強となっている。それも 20 歳代のみならず、それ以外の年

年齢でも幅広くこの回答がみられることが特徴であろう。当たり前ではあるものの、育児経験がなければ、戸田市が子育てしやすいまちかどうかというのは判断できないであろう。

次に、子育て支援サービスの利用の有無と年齢、性別についてのクロスを行った。

表 15 年齢・性別・子育て支援サービスの利用クロス

	1. 戸田子ども健康ダイヤル 24		2. ファミリー・サポート・ センター事業		3. 産前産後支援ヘルプサ ービス		4. ショートステイ事業		5. 保育園地域交流事業		7. 子育てサロン事業		8. 公民館子育て支援講座		9. 子ども家庭相談センタ ー		10. サービスを利用したこ とがない		11. その他		総 計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	女	男	女	男	女		
24									1												1
26																		2			2
27																		1			1
28																	2	1			3
29									1	1								1			3
30									1		1	1						1			4
31																	2	3			5
32								1	1		1	1		1		1	1				7
33	1											1						1			3
34	1								4			2					3	3	1		14
35	1	1	1	1					3		1	1					4	4			17
36	1	1		1					3		1						2	9			18
37		1		2	3	2			4			1					1	5			19
38		1		1					1	5		1	2				6	6	1		24
39	1	2							2	9	1		1				3	10	1		30
40		1					1		1	2			4				6	5	1		21
41				1		1				3							8	7	1	1	22
42				1						2							5	11			19
43									1	2			2				6	7	3		21
44	3	1	1		1				2		1		4				8	10	2		33
45				1					1		1	1		1			4	6			15
総 計	8	8	3	7	4	3	1	7	43	3	6	4	17	2	61	94	2	9			282

このクロス表では、子育て支援サービスを利用したことがないという、「10. サービスを利用したことがない」が圧倒的に多く、女性 94 票、男性 61 票であった。これは総計の 5 割強を占める。「1. 戸田子ども健康ダイヤル 24」、「2. ファミリー・サポート・センター事業」、「3. 産前産後支援ヘルプサービス」、「4. ショートステイ事業」については、24～32 歳の回答が男女とも皆無であった。この子育て支援サービスの利用の有無についての設問は、回答者に子供がいることを前提としているものの、その大半がサービスを利用したこ

とがないという結果となった。下記のクロス表は、子育て支援サービスを利用したことがない回答者の職業を示したものである。

表 16 子育て支援サービスの利用（回答：利用したことがない）・年齢・性別・職業クロス

	1. 専門職		2. 管理職		3. 事務・技術職		4. サービス従事者		5. 販売・生産・業務職		7. パート従事者		8. 学生	9. 自営業		10. 専業主婦	総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	女	男	女	女	
26																2	2
27																1	1
28							1				1			1			3
29																1	1
30												1					1
31									2		2					1	5
32	1								1								2
33						1											1
34					2						1					2	5
35					1	1			2		1			1		2	8
36					1	1			1		3					5	11
37									1					1		4	6
38			1		1	1			3		2			1		3	12
39					1	6	1		1		3					1	13
40			1		2	2			1					2		3	11
41			3		2	2		1	3		3					1	15
42					2	4			3	1	2					4	16
43	1		2		1	1		1	2		4					1	13
44	1		2	1	3	2			1	1	6			1			18
45			3		1						4					2	10
総計	2	1	12	1	17	21	2	2	20	2	1	32	1	6	1	33	154

子育て支援サービスを利用したことがない回答者の職業で多かったものは、「10. 専業主婦」の 33 票で、それに次いで、「7. パート従事者」の女性 32 票が続いた。他の職業と比べて、子育てに時間を割くことが可能であるはずの「10. 専業主婦」と「7. パート従事者」が、子育て支援サービスを利用したことがないという結果になった。

表 17 年齢・性別・子育て支援施設の利用頻度（大）クロス

	1. 子育て支援センター		2. 親子ふれあい広場		4. さんさん広場		8. 地域交流スペース「はるはる」		9. こどもの国		10. 児童センター		11. 彩湖自然学習センター		12. 施設を利用したことがない		無回答		総計
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
24									1										1
26															2				2
27																	1		1
28											1		1				1		3
29	1		1								1								3
30									1			3							4
31														1	1		1	2	5
32	1		1						2		2				1				7
33									2								1	1	4
34	2		1					2	1		1			2	1		1	3	14
35	2			1				1	1			1		1	2		5	3	17
36				2		1			2			3			1		3	5	17
37	1			1			1	3		2	4				2		3	5	23
38					1			2	4		1	5			1	1	2	8	25
39	2			2				2	3			2		1		2	4	11	29
40								1	2			5			1	2	2	4	21
41					1			1	5		2	2				2	6	4	23
42	1							1	2		1	4			2	1	3	6	21
43								1	6		2	4		2		2	4	2	24
44							1	3	6		3	4		1		2	7	7	34
45								1	2		2	2		1		1	2	3	15
総計	10	3	7	2	1	1	17	42	17	40	4	3	10	24	45	66			292

上記のクロス表は、子育て支援施設の利用頻度で、「よく利用」する／した施設に対する回答と年齢と性別についてクロスしたものである。気になるのは、「無回答」が多く、女性が66票、男性が45票で総計の4割弱を占める。それに次いで、女性の回答で、「9. こどもの国」が42票、「10. 児童センター」が40票となっている。

次に、子育て支援施設の利用頻度で、「時々利用」する／した施設に対する回答と年齢と性別のクロスについてみていくと、「無回答」が女性45票、男性26票と多いものの、「9. こどもの国」が女性56票、男性30票と大きく増加しており、「10. 児童センター」も女性が37票となっている。これらから把握できることは、子育て支援施設をそれほど頻繁に利用

するわけではないので、「よく利用」という回答は選択しなかったものの、まさに「時々利用」する／したという回答者が多かったということであろう。それによって、「無回答」が減少し、「9. こどもの国」や「10. 児童センター」が利用する施設として増加したと考えられる。

表 18 年齢・性別・子育て支援施設の利用頻度（小）クロス

	1. 子育て支援センター		2. 親子ふれあい広場		3. 戸田公園駅前子育て広場		4. さんさん広場		5. キッズスペース		6. 地域交流スペース「ぱるぱる」		9. こどもの国		10. 児童センター		11. 彩湖自然学習センター		12. 施設を利用したことがない		無回答		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
24	1																						1
26													1									1	2
27															1								1
28	1												1		1								3
29				1								1		1									3
30				1					1					2									4
31														1					1	1		1	5
32	1		1										1	1		2						1	7
33	1			1									1										4
34		1	1	1		1	1						1	1		3	1					3	14
35		1		1			1						1	3		1	1		2	1	3	2	17
36	1						1						1	7		3		1		1		2	19
37		2					2						3	7		2	2	1				1	23
38		2		1		1	1	1					3	3	2	4	1	1		2			26
39		3		1				1					2	5	1	2		1				3	29
40				2			1		2				2	2	1	2	1	1	1	1	2	3	21
41		1					1						4	4	1	3	2	1		1	2	3	23
42		1										1	1	4		2	2	2	1	1	3	3	21
43		1											3	5		5	2	1				2	24
44		1		2								1	5	6	1	5	1	1	1	1	4	5	34
45				1									3	2	1	1	1	1	1			3	14
総計	5	13	4	10	2	8	2	3	1	1	4	30	56	7	37	14	11	7	9	26	45	295	

念のために、先述の子育て支援の「10. サービスを利用したことがない」の回答と「子育て支援施設の利用頻度（大）（小）」をクロスさせると下記の表のようになる。

表 19 子育て支援サービスの利用（回答：利用したことがない）

・性別・子育て支援施設の利用頻度（大）（小）クロス

子育て支援施設の利用頻度（大）				子育て支援施設の利用頻度（小）			
	男	女	総計		男	女	総計
1. 子育て支援センター		1	1	1. 子育て支援センター	1	1	2
2. 親子ふれあい広場	1		1	2. 親子ふれあい広場	2		2
4. さんさん広場	1		1	3. 戸田公園駅前子育て広場	1	3	4
9. こどもの国	8	14	22	7. キッズスペース		1	1
10. 児童センター	13	11	24	9. こどもの国	20	26	46
11. 彩湖自然学習センター	3	2	5	10. 児童センター	4	20	24
12. 施設を利用したことがない	6	19	25	11. 彩湖自然学習センター	9	5	14
13. その他		2	2	12. 施設を利用したことがない	4	6	10
無回答	30	45	75	13. その他	1	1	2
総計	62	94	156	無回答	20	31	51
				総計	62	94	156

「子育て支援施設の利用頻度（大）」において選択されたのは、「無回答」が75票、「12. 施設を利用したことがない」が25票であり、これだけで全体の6割以上を占めている。また、「子育て支援施設の利用頻度（小）」においては、「無回答」が51票と最多となった。ここでも分かるように、子育て支援サービスを利用していない回答者は、その利用頻度に関する回答も、「無回答」や「12. 施設を利用したことがない」に集中する。

本章で確認されたことは、戸田市は子育てしやすいまちかという設問で、「1. そう思う」あるいは「2. どちらかというと思う」という肯定的な回答が全体の6割弱を占めた。その一方で、「5. わからない」という回答も3割弱と一定のボリュームがあった。その回答者の内訳は、未婚で、子供がいない男女であり、当然ではあるが、結婚や育児経験がなければ、子育てしやすいまちかどうかは分からないという結果になった。

また、「1. そう思う」あるいは「2. どちらかというと思う」という肯定的な回答であっても、子育て支援サービスを利用したことがないという回答が全体の5割強を占めることが明らかになった。また、そのように回答した人々の多くは「10. 専業主婦」と「7. パート従事者」であった。こういった職業は他のフルタイムの職業に比べて、比較的、育児に時間を取ることができると考えられるものの、子育て支援サービスを利用したことがな

いという結果が示された。今後は、こういった子育て支援を将来的に必要とする市民に対してサービスを利用してもらうための仕組みを構築する必要がある。さらに、子育て支援に関する潜在的なニーズがあるわけであるから、そういったサービスや施設の利用を促すような方途を考える必要もあろう。

ここまでは、基本的に既婚者や子供がいることを前提とした設問を中心に分析を進めてきた。次章では、未婚、子供がいない回答者に関する分析を進める。その回答は必ずしも多くはないものの、晩婚化や少子化が進行する中で、戸田市における状況はどのようなものであるのかについて、その一端を明らかにすることができる。

Ⅲ. 未婚者の基本属性と結婚への意識に関するクロス集計

まず、未婚者の結婚への意識を把握する前に、世帯構成や結婚の有無といった基本的な点からみていきたい。単純集計でも示されたように、回答者の世帯構成については、「3. 二世帯世帯」が圧倒的に多く、363票（69.1%）であり、結婚の有無については、「1. 結婚している」が336票（64.0%）で、「2. 結婚していない」が171票（32.6%）である。

表 20 年齢・性別・結婚の有無・家族構成クロス

結婚の有無	1. 一人世帯		2. 夫婦のみ		3. 二世帯世帯			4. 三世帯世帯			総計						
	男	女	男	女	男	女		男	女								
	× Δ	× Δ	○ ○	○ ○	○ ×	○ × Δ	○ ×	○ × Δ	○ × Δ								
20					1	2			1		4						
21					6	7		1	1		15						
22					2	2			3		7						
23	1				7	2					10						
24					1	5					6						
25	1				3	1					5						
26	1			2	2	2	2				9						
27					3	1	5	1			10						
28	3	3			2	1	2	1	2		14						
29	2	1		1	1	2	2	1			10						
30	2				2	3	1	1	1		10						
31				3	2	2	2	1	1		11						
32		1			4	1	2	1	1		10						
33				1	1	2	3	3		1	11						
34				2	1	6	2	6	1	1	19						
35		3		1	4	7	11	3	1		30						
36	3			3	5	2	14	2	1	2	32						
37		2	1	1	2	3	13		2	2	26						
38	2	2		2	1	6	3	15	4	1	40						
39	1	2		4		7	1	20	1	2	39						
40	2				4	7	1	11	2		29						
41	2	1		3	2	5		9	1	4	30						
42	1			1	2	7	1	9	1	2	28						
43	1	1	1	1	4	6	5	3	15	2	39						
44	1		1		1		13	1	14	2	39						
45				1		5	3	9			18						
総計	23	1	16	3	25	27	86	50	162	52	12	9	5	20	7	2	501

結婚の有無について、「1. 結婚している」は○、「2. 結婚していない」は×、「3. 結婚していたが、離・死別した」は△で示している。

上記の表では、「3. 二世帯世帯」で結婚している女性が 162 票と最多であり、それに次いで、「3. 二世帯世帯」で結婚している男性が 86 票と続いている。その一方で、未婚については、「1. ひとり世帯」の男性が 23 票、女性が 16 票となっている。とりわけ男性は 30 歳以下と 36 歳以上で票が二分されている。また、「3. 二世帯世帯」の未婚男性が 50 票であり、女性が 52 票で、特色としては、いずれも幅広い年齢で票がみられる。以下では、一定のボリュームがみられる、二世帯・三世帯世帯の未婚の男女のクロスについて示す。

表 21 家族構成（二世帯・三世帯世帯）・未婚・年齢・年収クロス

	1. 200万円未満		2. 200～300万円未満		3. 300～400万円未満		4. 400～500万円未満		5. 500～750万円未満		6. 750～1,000万円未満		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
20	1												1
21	1		1										2
22				2	2								4
23	1			2									3
24		1				1		1					3
25	1				1	1							3
26			1	2	1								4
27		1	1	2	2			1					7
28				2		1							4
29				1	1								2
30	1					1							2
31	1			1				1					3
32			1										1
33	1		1			1	1						4
34									1				1
35				2				1					3
36		1	1						1				3
38	1		1	1				1					4
39								1					1
40		1		1									2
41				1									1
42					1	1							2
43			1		1								2
44										1	1		2
45							1		1				2
総計	7	4	7	15	9	6	3	5	2	1	1	1	69

上記の表は、二世帯・三世帯世帯の未婚の男女と年齢、年収をクロスしたものである。総数が 69 票と表 15 のそれと比べて減少しているのは、学生や無職、無回答などの票が入らないからである。この表から把握できることは、実家暮らしをしている未婚の男女の年齢と年収である。その特徴としては、年収 500 万円以上は極めて少なく、5 票しかない。その一方で、未婚女性で年収「2. 200～300 万円未満」が 15 票と最もボリュームがあり、31 歳までが 12 票となっている。また、未婚男性も年収「3. 300～400 万円未満」は 29 歳まで

が7票となっている。いずれにせよ、年収が400万円未満の未婚の男女が全体の7割弱を占め、「パラサイト・シングル」ではないが、この年収であるから実家に住まわざるを得ないという状況も把握できよう。また、下記の表は二世帯・三世帯世帯の未婚の男女と年齢、職業をクロスしたものだが、最も多いものが「3. 事務・技術職」であり、男女の合計が38票になった。この「3. 事務・技術職」と年収400万円未満をクロスすると26票になり、職業としてはホワイトカラーだが、サラマンの平均年収である412万円(平成22年度「民間給与実態統計調査」)を下回る票が多いことが明らかになった。

表 22 家族構成(二世帯・三世帯世帯)・未婚・年齢・職業クロス

	1. 専門職		2. 管理職		3. 事務・技術職		4. 従事者 サービス業		5. 販売・生産・ 労務職		6. パート従事 者		7. 学生		8. 自営業		9. 無職		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
20											1		3						4
21					1				1				5	7					14
22					1	3	1					1		1					7
23						1	1			1			2				2		7
24						3							2						5
25						1	1		1										3
26					1	1			1	1									4
27	1				2	2	1	1				1							8
28					1	2				1								1	5
29						1	1										1		3
30						1						1					2		4
31	1				1	1													3
32					1														1
33					1	1	1			1					1				5
34		1															1		2
35						2		1											3
36					1				1		1								3
38						3									2		1		6
39				1	1														2
40						1						1							2
41								1											1
42						1			1										2
43					1				2										3
44					1	1											1		3
45				1					1								1		3
総計	2	1	1	1	13	25	6	3	7	5	3	3	7	13	3		7	3	103

表 23 未婚・年齢・性別・年収クロス

	1. 200万円未満		2. 200～300万円未満		3. 300～400万円		4. 400～500万円		5. 500～750万円		6. 750～1,000万円		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
20	1												1
21	1		1										2
22			1	4	2								7
23	1	1		3									5
24		1			1	1		1					4
25	2		1		1	1							5
26			1	2	2								5
27		1	2	3	2			1					9
28		1		5	3	1							10
29				1	1		1						3
30	1					1	2						4
31	1			1		1	1						4
32			1	1									2
33	1		1		1	1	1						5
34									1				1
35		1		3			2						6
36		1	1		1		1	2					6
37		1		1	1	2							5
38	1		1	1	1	2		1	1				8
39				1			2	1	1				5
40		1		1	1		1						4
41				1		1	1	1					4
42					2	1							3
43			1		1	1			1				4
44								1		1	1		3
45							1	1					2
総計	9	8	11	28	20	13	9	7	8	2	1	1	117

ここで実家暮らし、ひとり暮らしを含めた未婚の回答者の年収と年齢のクロスをみたい。上記の票でも分かるように、まず総数 117 票のうち、年収 500 万円以上は 12 票であり、全体の 1 割しかなく、年齢も 34 歳以上である。多くは年収が 500 万円未満であり、「2. 200～300 万円未満」が男女合わせて 39 票と最もボリュームがある。年齢別では 28 歳が 10 票、27 歳が 9 票となっているものの、それに続いて 38 歳が 8 票となっている。これまで、実家暮らしの未婚者の職業や年収、年齢に焦点を当ててきた。次の表は独身でいる理由と年齢、性別のクロスである。

表 24 年齢・性別・独身理由クロス

	1. 若すぎる		2. 必要性を感じない		3. 仕事(学業)をやめたくない		4. 趣味や娯楽を楽しみたい		5. 自由さや気楽さを失いたくない		6. 異性とうまく付き合えない		7. 相手と知り合うきっかけがない		8. 結婚資金が足りない		9. 結婚生活を送るだけの経済力がない		10. 家事や育児が負担		11. 結婚が面倒		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
20	1	2		1																			4
21	6	3		3	1	2																	15
22		2			1		1	1					1										6
23	2		1	1				1		1			1	1			2						10
24		2			1								1										4
25	1						1	1	1								2						6
26												1	1	1	1		1	1					5
27				1					1			2	2	1	1								8
28			1				1					3	5										10
29			1									2	2				1						6
30			1									2	1				2						6
31									1				1										2
32													1				1						2
33			1	1							1		1				1						5
34				1													2						3
35				2				1					1						1				5
36			1									3	2							1			7
37			1	2									1					1					5
38									1	1		2	3				2		1		1		11
39							1		1			2	1										5
40							1					2	1								1		5
41												2	1								1		4
42												1	1				1						3
43				1				1				2											4
44			1	1									1										3
45												1					1						2
総計	10	9	8	14	1	4	2	6	2	6	2	26	29	2	1	16	2	1	1	2	2		146

25歳以下で回答が集中したのは、「1. 若すぎる」という理由であり、男女で19票である。最もボリュームがあるのは、「7. 相手と知り合うきっかけがない」で、女性が29票、男性が26票である。男性は「31～35歳」が空白だが、女性に関しては幅広い年齢で回答がみられた。また、「9. 結婚生活を送るだけの経済力がない」は男性に特化して16票となっている。

本章で明らかになったことは、未婚者の家族構成や年齢、年収といった経済・生活状況

であり、こういった状況が結婚への意識に大きく影響を与えていると考えられる。やや繰り返り返しになるものの、未婚者の年収で500万円以上は、回答者の総数117票のうち12票と全体の1割しかなく、年齢も34歳以上である。多くは年収が500万円未満であり、「2. 200～300万円未満」が男女合わせて39票と最もボリュームがある。さらに、二世帯・三世帯世帯の未婚の男女、すなわち、「実家暮らし」の未婚の男女の年収について、回答者の総数69票のうち、年収500万円以上は5票と極めて少ない（全体の7.2%）。その一方で、年収「2. 200～300万円未満」が男女合わせて22票と最もボリュームがあり、全体の3割強を占める。いずれにせよ、年収が400万円未満の未婚の男女が全体の7割弱を占め、「パラサイト・シングル」ではないが、この年収であるからこそ、実家に住まわざるを得ないという状況も把握できよう。

未婚の男女の独身理由については、最もボリュームがあるのは、「7. 相手と知り合うきっかけがない」で、女性が29票、男性が26票の合計55票であった（全体の37%）。回答者の年齢については、男性は「31～35歳」が空白だが、女性に関しては幅広い年齢で回答がみられた。また、25歳以下で回答が集中したのは、「1. 若すぎる」という理由であり、男女で19票である。さらに、「9. 結婚生活を送るだけの経済力がない」は男性に特化して16票となっている。

ここまで、未婚者の基本属性や結婚への意識についてクロス分析を重ねてきた。次章では、回答者が戸田市についてどのような場所の愛着を持っているか、それと居住期間や定住意向をクロスして分析を行っていく。

IV. 場所への愛着に関するクロス集計

単純集計でも示されたように、好きな、あるいはお気に入りの場所や地域の有無について「2. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域はない」が264票（50.3%）であり、「1. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域がある」が251票（47.8%）であった。以下では、これらの回答と戸田市への定住意向、戸田市での居住期間をそれぞれクロスさせて分析する。

表 25 好きな場所の有無・定住意向クロス

	ある 所・地 域が 場 入	→ お 気 に 入 は あ る い は 好 き な ,	ない 所・地 域は 場 入	↖ お 気 に 入 は あ る い は 好 き な ,	総 計
1. ぜひ戸田市に住み続けたい	101		48		149
2. できれば戸田市に住み続けたい	134		180		314
3. できれば他の市区町村に移りたい	15		30		45
4. ぜひ他の市区町村に移りたい	1		4		5
総 計	251		262		513

上の表では、「1. ぜひ戸田市に住み続けたい」という回答で、「1. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域がある」と回答したのは101票になり、定住に積極的な回答者の7割弱が好きな場所があると答えた。その一方で、「2. できれば戸田市に住み続けたい」という回答で、「2. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域はない」と回答したのは180票になり、定住にさほど積極的ではない回答者の6割弱が好きな場所がないと答えた。

表 26 好きな場所の有無・居住期間クロス

	が あ る 地 域 場 入	→ お 気 に 入 は あ る い は 好 き な ,	ない 所・地 域は 場 入	↖ お 気 に 入 は あ る い は 好 き な ,	総 計
1. 1年未満	8		9		17
2. 1～3年未満	23		19		42
3. 3～5年未満	19		19		38
4. 5～10年未満	93		94		187
5. 10～20年未満	77		67		144
6. 20～30年未満	13		26		39
7. 30～40年未満	16		22		38
8. 40年以上	1		7		8
総 計	250		263		513

好きな場所の有無・居住期間クロスについては、「4. 5～10年未満」の総計が、187票（男性93票，女性94票）と最多で、「5. 10～20年未満」の総計が144票（男性77票，女性67票）と続く。また，居住期間が20年以上では，「1. 好きな，あるいはお気に入りの場所・地域がある」の回答よりも，「2. 好きな，あるいはお気に入りの場所・地域はない」の票が増加しており，居住歴が長くなるにつれて，好きな場所があるという回答が増加していくわけではないことが明らかになった。

下のクロス表は，好きな場所と年齢，性別そして子供の有無についてである。

表 27 年齢・性別・好きな場所クロス

	彩湖・道満公園		荒川河川敷		戸田公園		イオン北戸田		後谷公園			10票以下の回答	総計								
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男女										
子供の有無	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○	○ ×	○ ×										
21		1	1	1	1	1						2	7								
22		1		1								1	3								
23	1											3	4								
24							1					2	3								
25							1					0	1								
26			1						1	1		1	4								
27				1								1	2								
28			1	1			2				1	0	5								
29		1	1	1								2	5								
30		1			1					1		2	5								
31	1	1			1							0	3								
32	2					1	1				1	1	6								
33			1				1		1			2	5								
34	1	1		2			2					3	9								
35	1		3				2	1			1	8	16								
36	2	5		2	1	1			2			4	17								
37	1	2		1	2		1	1		1		4	14								
38	3	1	3			1	1	1	1	1	1	4	18								
39	3	1	2	1	1	1	4		1	1		2	19								
40		4	1	1		2	1	1				5	16								
41	2		1		1	2	1		1		1	4	14								
42		2		1		1	1		2			1	9								
43	1	2	8	1	2			1		1		5	21								
44	1		4	1	2		2					5	17								
45	2		1		2		1					3	10								
総計	20	6	34	10	12	9	15	7	2	7	9	6	6	4	6	4	1	7	3	65	233

子供の有無についても，「1.いる」は○，「2.いない」は×で示している。

まずは、大きく見ると、「彩湖・道満グリーンパーク」を筆頭に、「荒川河川敷」、「戸田公園」、「後谷公園」といった水辺や緑が豊かな、「自然環境」に関する場所があげられたのと、買い物などの日常生活で利用する「イオン北戸田」があげられた。

最多であった「彩湖・道満グリーンパーク」は男女合わせて70票で、全体の3割を占める。それに次いで、「荒川河川敷」は男女合わせて43票であり、全体の2割弱を占める。とりわけ、「彩湖・道満グリーンパーク」は女性の回答が44票と多くなっている。また、子供の有無と「彩湖・道満グリーンパーク」と「荒川河川敷」を好きな場所とした回答をみると、男性にせよ、女性にせよ子供がいないという回答は比較的若い20代からみられるのに対し、子供がいるという回答は、30代半ばごろからの回答が目立っている、たとえば、「彩湖・道満グリーンパーク」を答えた女性で、子どもがいると回答した年齢のピークは43歳である。こういった年齢では、子供連れ世帯の遊び場として、余暇の空間として「彩湖・道満グリーンパーク」考えられ、それが好きな場所、お気に入りの場所として回答されたと推測される。

ここまで、戸田市における好きな場所について分析をしてきた。次章では、回答者の住まいや住所と近所付き合いの有無や定住意向についてクロスする。これによって、回答者の住まい周辺の近隣関係や地域との関わりの濃淡が把握され、こういった人々が戸田市への定住意向があるのかについて一定把握できると考える。

V. 住まいと近所付き合い、定住意向に関するクロス集計

下記は、回答者の住所と性別と近所付き合いについてのクロス表である。まず、近所付き合いがあるという選択肢は、「1. 家を行き来する付き合い」、「2. 立ち話する程度の付き合い」、「3. 挨拶する程度の付き合い」と段階的に設定されているが、いずれにおいても、男性の回答よりも女性の回答が多い。

表 28 住所・性別・近所付き合いの有無クロス

	→ 家を行き来する付き合い		↑ 立ち話する程度の付き合い		∞ 挨拶する程度の付き合い		↓ ほとんど付き合いはない		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
大字新曾	3	4	5	12	13	18	6	8	69
本町	3	5	7	9	17	18	3	1	63
笹目		2	2	12	11	15	6	2	50
上戸田	2	3	5	2	11	18	3	3	47
美女木	4	2	6	6	7	10	1	1	37
中町	2	5	2	2	6	12	3	3	35
下前		2		5	10	10	4		31
新曾南	1	3		4	6	9	6	2	31
喜沢		1	1	1	6	10	3	2	24
川岸		1	1	10	5	3		3	23
喜沢南	1	2		4	6	6	2	1	22
南町	1			3	5	7		1	17
下戸田				1	2	9	2		14
大字美女木		1	3	2	2	2	1	1	12
笹目南町		2	1	4	1	1		1	10
笹目北町		2	1		3	3			9
氷川町		1		4	3	1			9
美女木東		1			3	1	1	1	7
大字上戸田		1		1		2	2	1	7
早瀬		1			1	1			3
戸田公園						1			1
総計	17	39	34	82	118	157	43	31	521

その一方で、「4. ほとんど付き合いはない」のみ、男性の回答が多い。こういったことか

ら、日常的な近所付き合いは、専業主婦やパート従事者などで、比較的、自宅にいる時間が長い女性が、多く経験している一方で、男性は仕事などにより、家にいる時間が短いので、近所付き合いが相対的に希薄になっていると考えられる。

そういったつながりを、住所との関わりでみていくと、「1. 家を行き来する付き合い」というのはなかなか少なく、「本町」で男女合わせて 8 票が最多で、それに次いで、「大字新曾」と「中町」が 7 票、「美女木」が 6 票と続く。「2. 立ち話する程度の付き合い」については、「大字新曾」が男女合わせて 17 票と最多で、続いて、「本町」が 16 票、「笹目」が 14 票、「美女木」が 12 票と続き、総計ではそれほど票が多くない「川岸」が 11 票となっている。「川岸」は先述のクロス集計において、戸田市では珍しく、民間借家が圧倒的に少なく、持家の割合が高かったので（23 票中「1. 持家（一戸建）」が 9 票で「2. 持家（分譲マンション）」が 12 票）、比較的近所付き合いやコミュニケーションが取り持たれていると考えられる。

表 29 近所付き合いの有無・性別・居住年数クロス

	→ 家を行き来する 付き合い		↳ 立ち話する程度 の付き合い		ω 挨拶する程度 の付き合い		↳ ほとんど付き合 いはない		総 計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
1. 1 年未満			1	2	4	8	2	1	18
2. 1～3 年未満	3	4	2	7	6	17	1	3	43
3. 3～5 年未満		4	1	8	10	8	4	3	38
4. 5～10 年未満	4	15	13	34	40	52	19	10	187
5. 10～20 年未満	8	14	11	21	28	45	9	10	146
6. 20～30 年未満		1	1	6	13	13	5	3	42
7. 30～40 年未満	1	1	3	3	14	14	1	1	38
8. 40 年以上	1		2	1	3		1		8
総 計	17	39	34	82	118	157	42	31	520

上のクロス表は、近所付き合いの有無と居住年数との関わりをみたものである。居住年数別で最もボリュームがあるのは、「4. 5～10 年未満」の 187 票であり、それに次いで、「5. 10～20 年未満」の 146 票である。例えば、「1. 家を行き来する付き合い」は総計で男女合わせて 56 票（男性 17 票、女性 39）に過ぎないが、その中でも、「4. 5～10 年未満」では

19票、「5. 10～20年未満」が22票となっている。その一方で、「4. ほとんど付き合いはない」という回答も一定のボリューム存在し、「4. 5～10年未満」が男女合わせて27票「5. 10～20年未満」も19票であり、濃密な近隣との付き合いがある一方で、同じ居住年数であっても、ほとんど近所付き合いがないという結果が示された。これはほかの居住年数でも示すことができる。「1. 家を行き来する付き合い」については、居住年数が「1. 1年未満」の場合は0票であり、これは納得できるかもしれない。その一方で、居住年数が相対的に長い「6. 20～30年未満」であっても1票であるし、この居住期間で、「4. ほとんど付き合いはない」が8票ある。

近所付き合いの有無やその程度は、当たり前ではあるが、居住期間だけでは説明要因にはならない。共働き、子供の有無、職業など様々な要因が影響していると考えられるが、以下では、住宅の所有関係から近所付き合いの有無について考えてみたいと思う。

表 30 近所付き合いの有無・住宅所有関係クロス

	→ 家を行き来する 付き合い	↕ 立ち話する程度 の付き合い	↔ 挨拶する程度 の 付き合い	← ほとんど付き合 いはない	総 計
1. 持家（一戸建）	18	53	100	14	185
2. 持家（分譲マンション）	30	37	86	17	170
3. 公営住宅（公団・公社等）	2	2	6	3	13
4. 民間の借家（一戸建）		2	4	1	7
5. 民間の借家（パート・賃貸マンション等）	4	20	68	36	128
6. 給与住宅（社宅・官舎等）	2	1	7	2	12
7. 学生寮			1		1
10. 親戚の家		1		1	2
11. その他			4		4
総 計	56	116	276	74	522

上のクロス表から把握できることは、住宅の所有関係によって、近所付き合いの有無や程度に相当の差異が出てくるということである。まず、「3. 挨拶する程度の付き合い」は総計で276票であり、住宅所有関係のどの選択肢でも一定程度のボリュームがある。次に、「2.

立ち話する程度の付き合い」で最もボリュームがあるのは、「1. 持家（一戸建）」の 53 票である。自宅の玄関先や自宅前の道路でまさに雑談をするということだろう。その一方で、「1. 家を行き来する付き合い」については、「2. 持家（分譲マンション）」が 30 票であり、「1. 持家（一戸建）」の 18 票以上にボリュームがある。「2. 持家（分譲マンション）」で、「1. 家を行き来する付き合い」が多いのは、集合住宅という建築構造の特性上、玄関先での立ち話が難しいということがあげられるのではなかろうか。また、「4. ほとんど付き合いはない」で最も多かったのは、「5. 民間の借家（アパート・賃貸マンション等）」の 36 票であり、居住期間が持家よりも相対的に短くなるということや集合住宅といった構造上の要因もあり、近隣関係が希薄になるのではないかと考えられる。それでは、次は定住意向についてのクロス集計をみていく。

表 31 年収・性別・定住意向クロス

	→ ぜひ戸田市に住 みたい		2 できれば戸田市 に住みたい		3 できれば他の市 区町村に移り たい		4 ぜひ他の市 区町村に 移りたい		総 計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
1. 200万円未満	5	13	8	48		10	3		87
2. 200～300万円未満	2	14	13	29	1	4			63
3. 300～400万円未満	13	8	26	17	5	2			71
4. 400～500万円未満	11	7	23	10	2	1			54
5. 500～750万円未満	18	4	25	5	1	1			54
6. 750～1,000万円未満	10	2	8	3	1				24
7. 1,000万円以上	2	1	3	1					7
総 計	61	49	106	113	10	18	3		360

上のクロス表は、年収と性別、定住意向をクロスしたものである。大きくみれば、年収があがっていくほど、「3. できれば他の市区町村に移りたい」や「4. ぜひ他の市区町村に移りたい」の回答が減少していく傾向にある。

詳しくみると、「2. できれば戸田市に住みたい」の総計が 219 票であり、全体の 6 割強を占める。その内訳をみると、男性は、「3. 300～400万円未満」が 26 票 「5. 500～750万円未満」が 25 票、「4. 400～500万円未満」が 23 票となっているが、女性は、「1. 200万円未満」が 48 票となっている。これはパートや事務職に従事している女性である。また、

「1. ぜひ戸田市に住み続けたい」については総計が110票であり、「5. 500～750万円未満」の男性は18票で最多だが、「2. 200～300万円未満」の女性は14票 「1. 200万円未満」は13票であり、これらにボリュームがある。これらの女性の票は、これまでのクロス集計でも示してきたとおりに、多くは結婚し、子供がいて、家計を助けるためにパートなどに従事しているケースである。

表 32 住所・肯定的な定住意向・居住期間クロス

	1. ぜひ戸田市に住み続けたい								2. できれば戸田市に住み続けたい								総 計
	1. 1年未満	2. 1～3年未満	3. 3～5年未満	4. 5～10年未満	5. 10～20年未満	6. 20～30年未満	7. 30～40年未満	8. 40年以上	1. 1年未満	2. 1～3年未満	3. 3～5年未満	4. 5～10年未満	5. 10～20年未満	6. 20～30年未満	7. 30～40年未満	8. 40年以上	
大字新曽	2	1	1	9	4	3	1	2	2	4	17	12	2	3	63		
本町		2		6	8	1	1	1	2	3	12	17	2	3	58		
上戸田	2	1	2	11	3	1	1	2	2	3	7	5	3	1	44		
笹目	1	1	4	5	4	1	2	1		3	1	8	5	3	39		
中町		1		2	1				2	4	12	9		1	32		
美女木		1	1	3	1	2	3	4		2	2	4	7		1	31	
下前				1	2	2	2	1	2	4	3	5	5	1	1	29	
新曽南				3	3			1	2	1	7	7	1	1	26		
喜沢		1		3			1	1		1	6	2	3	4	22		
川岸		1					1		3	1	6	8	2		22		
喜沢南		2	1		2	1	1	1	1		3	5	2	2	21		
南町		1		3			1		1		5	5		1	17		
下戸田					2	1				1	2	2	2	2	12		
大字美女木			1	1	2						3	2		1	10		
氷川町	1			2			1		1	1	1		1	1	9		
笹目南町				2	1						2	2		1	8		
笹目北町							1	1			4	2			8		
大字上戸田		1	1						1		3		1		7		
美女木東											3	2			5		
早瀬						1				1	1				3		
戸田公園											1				1		
総 計	6	13	11	51	33	13	15	7	11	26	26	112	97	23	22	1	467

上のクロス表は、住所と戸田市に定住したいという「肯定的な定住意向」と居住期間をクロスしたものである。先述のように、「1. ぜひ戸田市に住み続けたい」、「2. できれば戸

田市に住みたい」という回答数と居住期間の長さについては、さほど関係がないことが確認された。住所と肯定的な定住意向とのクロスであっても、基本的には、総計で上回る「2. できれば戸田市に住みたい」の回答の方が、「1. ぜひ戸田市に住みたい」を大きく上回っている。例えば、「大字新曽」における「2. できれば戸田市に住みたい」は42票、「1. ぜひ戸田市に住みたい」は21票であるし、同様に、「本町」でも、「2. できれば戸田市に住みたい」が40票、「1. ぜひ戸田市に住みたい」は18票である。

その一方で、総計でほどほどボリュームがありながらも、「1. ぜひ戸田市に住みたい」の回答が「2. できれば戸田市に住みたい」の回答に迫っている住所がある。それが「上戸田」と「笹目」、「美女木」である。「上戸田」は「1. ぜひ戸田市に住みたい」の回答が21票、「笹目」は19票、「美女木」は15票である。これらに共通する特色としては、他の住所と比べて、ほぼどの居住期間においても「1. ぜひ戸田市に住みたい」という回答がみられるということである。

これらの地区に関しては、積極的に戸田市に住まうことを考えている人々が、居住期間の長短にあまり関係なくいることを示している。このような傾向がみられる要因は突き止めにくいですが、少なくともこれらの地区に住む回答者の多くが、戸田市に住むことに対して肯定的な評価を下しており、戸田市に長く居住する可能性は高いといえよう。

第4部 グループインタビューの結果と考察

第4部では、2011（平成23）年12月1日（木）と2日（金）に実施したグループインタビューを分析する。グループインタビューは、JR 戸田公園駅駅前にある、「戸田公園駅前子育て広場（以下、子育て広場）」で実施し、戸田市在住で子育てをされている方々、女性6名・男性1名にお話を伺った。インタビューの時間はおおむね1時間半弱であり、インタビューの方法としては、できるだけ話の流れを重視した「フリートーク形式」を採用した。インタビューの内容は後述の「資料Ⅰ グループインタビュー 議事録」を参照していただきたい。まずは、それらのインフォーマントの方々の基本情報を示す。その後、子育て広場の利用価値や存在意義について述べ、最後に、グループインタビューで明らかにされた、戸田市の魅力やインフォーマントにとっての「お気に入りの場所」について、マップや地図も交えながら提示していく。

Ⅰ. インフォーマントの基本情報

まず、インフォーマント7名の基本情報を一覧表で提示する。また、氏名をA～Gに変えてあるが、これは議事録のそれと同じであることを断っておく。

氏名	性別	年齢	住所	職業	職場	家族構成	住宅所有関係	備考
A	男	37	新曽南	会社員	板橋区	妻と娘1人	持家（戸建て）	妻は専業主婦
B	女	32	本町	専業主婦	-	夫と娘2人	持家（戸建て）	夫の職場は墨田区
C	女	37	上戸田	専業主婦	-	夫と娘1人	持家（戸建て）	夫の職場は新宿区
D	女	39	新曽	専業主婦	-	夫と息子2人	持家（戸建て）	夫の職場は品川区
E	女	36	上戸田	教員	世田谷区	夫と娘1人	持家（マンション）	夫の職場は荒川区
F	女	32	中町	専業主婦	-	夫と息子1人	持家（マンション）	夫の職場はさいたま市
G	女	31	下前	専業主婦	-	夫と娘1人	持家（マンション）	夫の職場は千代田区

Aさんは、仕事が木曜日と日曜日と休みということで、グループインタビュー当日も子育て広場を利用していた。男性でこの広場を利用するという人は極めて少ないと述べる。Bさんには2歳の娘が1人おり、2年前ぐらいから子育て広場を利用している。Cさんには1歳10か月の娘が1人いる。もともとは市内の賃貸マンションに住んでおり、将来的に静岡県に住むCさんの両親と同居するというので持家（戸建て）を購入した。Dさんも2011（平成23）年5月まで本町の賃貸マンションに住んでいたが、新曽に持家（戸建て）を購入した。息子は小学校2年生と2歳の2人である。議事録をみてもわかるように、グループインタビューではAさんとDさんが積極的に発話している。

Eさんは夫も高校の教員であり、娘は9か月である。戸田に引っ越す前は八王子におり、今の住まいの前は戸田市内の賃貸物件に住んでいた。Fさんは息子が1歳5か月であり、Fさんの両親と同居している。夫の職業は病院関係で勤務地はさいたま市北区の日進である。Gさんは最近、持ち家のマンションに引っ越して、それまでは本町の社宅に住んでいた。娘は1歳2か月で、夫の仕事は金融系である。グループインタビュー中は、現役教員であるEさんが会話をリードしつつも、他の2人も発話しながら、和やかな雰囲気でのインタビューが進行した。次章では、特に、子育てに関する様々な出来事を「子育て広場」との関わりからみていく。

II. 子育て世代からみた「子育て広場」の価値と意義

まず、先述のクロス集計でも示したように「近所付き合い」に関しては、全くないとは言えないものの、かつての農村的な地域社会や共同体のような濃密な関係はあまりみられない。

Dさん：

賃貸のマンションに住んでいた時は、本当に誰が隣に住んでるのか分からない感じだったので、つながりがなかったです。ただ、今は持ち家になって…（中略）…周りのお宅とお話はしますけど、だからといってそこまで強いつながりではないです。子供もちょっとちっちゃい子だったりとか、共働きで保育園に預けてる子とかだったりするんで、結局のところつながらないですね。

Dさんの発話にもみられるように、「持ち家になって…（中略）…周りのお宅とお話は」するけれども、各家庭の事情も考えると、「結局のところつながらない」ということが分かる。まさに、クロス集計で最多であった「挨拶程度の付き合い」が多いことを示している。また、Aさんは以下のように語る。

Aさん：

…（前略）…僕が家で育児やってて、…（中略）…外に出れると子供をおんぶして出てったら、「あれ、どこ行こうかな」と思って。「あ、どこも行くところねえや」というんで、自宅マンションの周り2、3周まわって帰ってきました。…（中略）…素朴な疑問なんですけど、僕は地域のつながりがない状態なんですけど、本当は地域ってものがあるって僕が参加してないだけなのか、そもそもそんなものないのかどっちなんだろうなっていうのがありますね。

Aさんは、「地域のつながりがない状態」と自覚的に述べつつも、自身が地域で行われるようなイベントなどに「参加してない」だけなのか、「そもそもそんなものないのか」どちらなのかと考えている。いずれにせよ、Aさんは子供を連れてどこかに行く、子供を遊ばせるといった情報を、住まいのある新曽南の近隣の住民から得ていないことは明らかである。

乳幼児を戸外で遊ばせるというレベルから、病気などの突発的なトラブルといったレベルまでの広い意味での子育てに関する地域情報を彼／女らはどのように獲得しているのだろうか。あるいは、そういった情報をどういった場面で入手しているのだろうか。それについて下記の語りを参照したい。

Bさん：

おもに広報か、クチコミかですね。それから、市役所のホームページから、幼稚園の情報を取ってきますね。

Aさん：

…（前略）…やっぱり、広報戸田ですかね。それから、マンションの掲示板に、「お祭りやります」だとか、「ごみゼロ運動やります」だとか、「こういうのができました」というのが書いてあるんでそれを見ますね。それから、それをきっかけにインターネット見るとか、現地に行ってみるとかっていうことになりますね。

Bさん、Aさんの語りにもあるように、地域情報に関しては、「広報戸田」をみたり、「マンションの掲示板」を確認したりして紙媒体の情報を一定程度入手していることが分かる。また、そういった情報を「市役所のホームページ」などインターネットも適宜活用しながら入手している。さらに、Bさんも述べるように「クチコミ」の情報は非常に重要であり、Aさんもそれに同意しながら以下のように語る。

Aさん：

あと、ここで皆さんにお会いして情報を入手していると思います。妻が見知っている方がいっぱいいらっしゃるようで、「今日そこで何たらのイベントがある」というの聞いてきたりとか、「どこどこが面白いらしい」なんて話を聞いてきますね。

山口：

この広場が情報を媒介するような場になっているわけですね。

Aさん：

そうです。妻がいろいろな話を持って帰ってきて、日曜になったりすると、「あそこに連れていけ。ここに連れていけ」とってことになる感じですね。

先述のように、Aさんは子育て広場に来る前は子供と一緒に遊ぶことができる施設などを把握していなかったが、妻が子育て広場で「情報を入手して」、妻が子育てに関する「いろ

いろな話を持って帰って」くることで、彼自身も情報を獲得することになったのである。また、Cさんも、子育て広場を媒介としたつながりから情報を得ていることを語ってくれた。

Cさん：

私も人間関係については、この広場で出会った方が多いですね。皆さんとお話で出ることが多いです。そして、誘われていった保育園にリーフレットが置いてあってそれをもらったりして、情報を得ると思います。…（中略）…私もここで知り合った人たちと話したり、あと広場の先生方にいろいろ教わったりすることが多いです。…（後略）…

Cさんは、「この広場で出会った」いわゆるママ友から情報を得たり、子育て広場の「先生」からも「いろいろ教わったりすることが多い」と述べる。年長者である「先生」から聞く、子育てに関する極めて実的な話はCさんにとって有用であろう。

これまで述べてきたように、子育て広場は、単に子供と一緒に遊んだり、一時的に子供を預けたりする施設としてだけでなく、子育て世代の男女が、それに関する情報を入手したり、共有したり、時には悩みを年長者の「先生」に相談したりするような意味ある場所として機能していることが明らかになった。その一方で、やや内在的ではあるが、子育て広場に関する要望も語られた。

Dさん：

（夫は）自分で1人でっていうのは難しいみたいで、「恥ずかしくて来れない」って言いますね。上の子と一緒に「こどもの国」とかに行くと、迎えには来てくれるんですけど。この広場に入って遊ぶというのに抵抗があるみたいですね。

山口：

なるほど。子育てにとってこの広場が重要であることは分かった一方で、男親にとっては、やや入りづらい場所になっているのでしょうか。

Aさん：

ご主人のお気持ちはお察しいたします。というのも、私も相当勇気を振り絞って毎回来てますんで。というのも、なんか申し訳なくてですね、授乳される方もいらっしゃるし、例えば、お手洗いを借りることひとつとっても「トイレ行ってきますって、おれの前で言うの恥ずかしいんだろうな」とかも思ったりします。…（中略）…男子トイレがなくて、下行かなきゃいけないんですよ。それで、下のトイレに行くと、赤ちゃんが座る椅子（ベビーキープ）がないから、抱えたまま用を足すことになります。それで、男の日っていうのも作ってくれたらいいなあと思うんですが。…（中略）…皆さんのご主人さんもいらっしゃるんじゃないかなあとか思ったりしますね。

Dさんの夫が子育て広場に「恥ずかしくて来れない」と言ったことに、Aさんは同意しながら「ご主人のお気持ちはお察しいたします」と語る。この恥ずかしさやAさんが述べる「なんか申し訳なく」思う気持ちは内在的なものであり、グループインタビューでも母親はあまり気に留めていない印象があった。

それに対して、Aさんは「男の日」を設定すれば、「皆様のご主人さんもいらっしゃるんじゃないかなあ」と考えながら提案する。さらに、Aさんは内在的な問題だけではなく、施設の物理的な環境についての要望として、同じフロアに「男子トイレがなくて、下行かなきゃいけないんですよ」と語り、そもそも、子育て広場が男親を想定して作られていないのではないかということ語るのである。

また、Dさん、Bさんは下記の語りにもあるように、他の年少の乳幼児との身体接触について心配する。

Dさん：

…（前略）…最初は、結構コンスタントに来てて。1歳前後ぐらいから1歳半ぐらいまでは、ほとんど毎日来てました。ただ、だんだん大きくなってきて、ちょっと申し訳ないかなって思います。といううも、2歳を過ぎると動きが激しくなるので、ちっちゃい子にぶつかったりしないかとちょっと気が引けてしまいます。一応、この広場は3歳までは大丈夫ですが。…（後略）…

Bさん：

うちもDさんのところと同じ感じです。…（中略）…うちも1歳ぐらいまでは、頻繁に、週に1回か2回くらいは来てたんですけど。1歳半ぐらいになると、お座りしてる子とかがまだ多い中で、けがさせちゃいけないとか気を遣ったり、おもちゃを奪い取っちゃったりとかするようなことがあったりするんで、やっぱり気が引けて、あんまり来なくなりましたね。

Dさん、Bさんは子供の成長過程において「2歳を過ぎると動きが激しくなる」ことから、他の乳幼児に対して、「ぶつかったりしないか」とか、「けがさせちゃいけないとか」考えると「気が引けて」しまい、子育て広場に「あんまり来なくなりました」と述べる。子育て広場自体は3歳児まで利用できるのだが、幼い乳幼児と同じ空間を利用する際に気遣いがあり、自ら、子育て広場を利用しなくなっていくという。このことに対して、Dさん、Bさんは具体的な要望を出すわけではないものの、先述のAさんの「男の日」の設定に類するような、細かな年齢区分による利用も考えられるのかもしれない。

こういった、要望はあるものの、基本的には子育て広場は極めて重要であることには変わりはないし、この存在は極めて大きいというのがインフォーマントの共通の意見であった。代表してAさんの語りを引用すると以下のようなことになる。

A さん :

やはり、この広場の存在は大きいでしょうね。他の市とか区に住んでる友人に言ったら、「何だ、それ」って、みんな言います。…（後略）…今 39 歳で 10 年後に 49 歳になって、この広場がなくなっちゃわないかなというのがありますね。…（中略）…僕らただで利用させてもらってるんでありがたいんですけど、経営的に考えると多分相当大変なのではないかと思いますね。それから、恐らくさっきから言っている隣三軒の地域や昔の町内会が復活すると思えない。そのような中で、自分の子がもし戸田市に住んだ時、さらに孫ができたなら、こういうところあったら、あるいはこれぐらいのつながりが維持できるのが、現状の最善策だと思うんで、「人口が減ったからこんなのやめた」って言わないでほしいなというのが願いですね。

A さんは友人との会話の中で、「何だ、それ(そんないい施設はない)」と言われるという。であるからこそ、「自分の子がもし戸田市に住んだ時」にこういった施設があれば理想であると語る。その一方で、将来的に人口が減少したり、運営財源がなくなったりして、「この広場がなくなっちゃわないかな」ということを危惧している。

今回のグループインタビューでは、「お気に入りの場所」のマッピングを行った。それをまとめたものが次章と資料Ⅱなのだが、言うまでもなく、子育て広場も「お気に入りの場所」としてインフォーマントに取り上げられたことを付記して次章に進みたい。

Ⅲ. 子育て世代にみる戸田市の魅力や「お気に入りの場所」

グループインタビューで戸田市の印象やイメージについて話を伺うと、とりわけ、他所から転入して来た人は戸田市のイメージや印象が分かりにくいと語る。

Fさん：

変な言い方なんだけど、最初に来たときの印象は通勤のための都市っていう感じがして、その商店街とかがあんまりないイメージがあるんですけど。大きな商店街とかはないですね。…（後略）…

Fさんの戸田市の印象とは、「通勤のための都市っていう感じ」であり、「商店街とかがあんまりないイメージ」であるという。かつての郊外に開発されたニュータウンのように、人工的につくられ、商店街はおろか個人商店も少ないまちであり、あまり人の香りがしないまちである。そのような第一印象を持ちながらも、実際に戸田市で生活をしていくといろいろ良い点が見えてくるようになる。

Gさん：

あたしも同じで、働いてるときは戸田で遊ぶとかって全然なかったんですけど、子育てるようになって、育てやすいっていうか、公園とかたくさんあるし、子供が中で遊ぶ施設もあるから過ごしやすくなってると思います。変にキラキラしたパチンコ屋があるとかがないので、いなくなってる感じがします。…（後略）…

Gさんも、専業主婦になる前で、「働いてるときは戸田で遊ぶとかって全然なかった」という。ただ、出産し、子供を育てていくとなると、「公園とかたくさんあるし、子供が中で遊ぶ施設もあるから過ごしやすい」と一転して好意的な評価になる。Gさんは主に子育てをしていく上での過ごしやすさを強調して語る。一方、Eさんは子育て以外にも、自身の楽しみが戸田市のまちなかにあると語る。

Eさん：

最初はなんか「うわ、すごいとこ来ちゃったぞ」と思ってたんです。川岸のほうに住んでたので。しかも、そのマンション、オートロックなのに盗難が入ったらしくて。「うわ、ここはすごいやばいところなんだ」と思ってたんですよね。だけど、子供ができる前に犬を飼い始めて散歩すると、そのカフェもそうだし、意外に隠れた名店が、…（中略）…そういうのを意外に発見して、…（中略）…「あ、これは結構過ごしやすいんじゃないか」と思って、マンション買うことにしたんです。…（後略）…

当初は川岸に住まいがあったのだが、治安上の不安があり、Eさんも戸田市に対する印象やイメージは必ずしも良いものではなかった。しかしながら、犬の散歩がてらブラブラとまちなかを散歩すると、「隠れた名店」を「発見」し、それを繰り返していくうちに「結構

過ごしやすい」と考え、最終的にはマンションを購入した。先述のように、Eさんはグループインタビューでも、会話を終始リードしていたのだが、「お気に入りの場所」のマッピングでも数多くの飲食店や病院を把握しており、まさに、まちなかを探索することによって、子育てのみならず、日常生活に関する様々な情報を分厚く把握していた。

そのようなEさんが語る戸田市とは、今後のまちづくりの行方を占ううえでも示唆に富んでいると考えられる。

Eさん：

結構あたしなんかは、こっちの上戸田のほうに引っ越してきて、歩いて意外にいいなと思って。その商店街がないとか、いい意味で都会じゃないっていうのも、裏を返して、こっだけこのいい場所が（地図上でも）あるんですよ。住宅地の中に結構レストラン、まだあるんですよ、意外に。それが点在してるので、なんか最近出ますよね、そういうマップが。ああいうのをちょっとうまく使くと、結構魅力的と思うかもしれないですよ。住宅の中にちゃんと公園もあって緑もあって。「結構楽しいものが隠れてるよ」的なのを売りにして、…（中略）…でも、結構あたしは今まで住んだ街の中ではかなり気に入ってますけどね。歩きがいがある感じがしますね。探しがいがあっていうか。…（後略）…

他所から転入してくるものにとっては、一見「冷たい印象」を持たれがちな戸田市ではあるが、Eさんによると「いい意味で都会じゃない」という点や「住宅の中にちゃんと公園もあって緑もあって」それが魅力的であると語る。また、その魅力を「歩きがいがある」、「探しがいがある」といった表現で語る。

近年のまちづくりでは、まさに「歩きがい」があるまちかどうか極めて重要になっている。資料Ⅱのマップをみると、市内の東部を中心に飲食店や病院、保育園などの施設がマッピングされた。こういった地域にある様々な文化社会資源やスポットを、そのまちに住まう人々が実際にその街路を歩き、見て、知って、体験するというのはごくごく当たり前ではあるものの、非常に重要である。そういった生活者の視点から、どういった資源が自らのまちにあるのか、ある意味、「場所を知る」という極めて単純なことが「お気に入りの場所」を生むことにつながったり、あるいは「場所への愛着」を醸成するようきっかけになったりする。

本調査では、子育て世代に着目しながら「場所への愛着」や「お気に入りの場所」についても問うてきたが、戸田市がシティプロモーションを打ち出していく際には、市民のどういった人々にとっての「場所」なのかを改めて問うていく必要がある。そういったコンテキストによって「場所」自体も変容していくことにも留意しながら、最終的には「住みがいがあるまち」をどのような方途で目指すのかが今後の課題といえよう。

資料 I グループインタビュー 議事録

2011年12月1日(木) 10:30~11:40 (戸田公園駅前 子育て広場)

戸田市政策研究所山本と目白大学山口による本調査とグループインタビューに関する趣旨説明

■インフォーマントの基本情報について

山口：まずは、今のお住まいや家族の構成、ご年齢、お仕事などについてお伺いできればと考えております。それでは、Aさんの方からお願いします。

A：住まいは新曽南で、家族は妻と娘が1人です。年齢は37歳で仕事は会社員です。

山口：なるほど。奥さんは専業主婦ですか。

A：妻は専業主婦です。

山口：突っ込んだ質問で恐縮ですが、今日は会社のお仕事は。

A：僕は木曜日が休みなんです。

山口：子育ての分担としては、木曜日はAさんがここに来られるんですか。

A：まあ、たまにです。日曜日にも休みなんで、よく来ます。いつも日曜日は僕1人しかいないんですよ。だから、ここにいる方は知ってるような、知らないような感じです。

山口：そうですね。お仕事の職場というのは市内ですか。それとも東京都内ですか。

A：東京の板橋です。

山口：では、埼京線で通勤されているんですか。

A：いや、自転車で通ってます。

山口：この、「子育て広場」を知られたきっかけは何ですか。

A：雨の日は電車で通勤して、前を通りますので、それで知りました。その後、妻が利用を始めて。最初は一度、2人で来て、まあ、一度行ったから大丈夫だろうっていうんで、もう任せられるようになったというか。家にいても、僕じゃ何もできないので。ここに連れてきて、放し飼いにしとけば僕も楽だなと思います。また、他のお母さんたちがこう言っちゃ何ですけど、面倒見てくれるので。

山口：男性の方で、ここを利用されるかたって結構いらっしゃるんですか。

A：もう1人、たまにいる方がいるんですけど、あんまりいないですよ。ちょっとだから、気まずいっていうか、申し訳ないっていうか。

山口：気恥ずかしいみたいな。また細かい点は後ほどお伺いします。それでは、Bさんお願いします。お住まいとお生まれの年、お仕事、ご家族の構成についてお教えてください。

B：住まいは戸田市の本町で、昭和55年生まれです。仕事は専業主婦で家族は主人と幼稚園の年中のお姉ちゃんが1人と今日ここに来ている2歳の女の子が1人です。

山口：あの、ご自宅というのはマンションですか、それとも持ち家でしょうか。

B：持ち家です。

山口：いつぐらいに買われたかを教えていただけませんかでしょうか。

B：上の子が幼稚園に入った時だから 2 年前ぐらいです。こっちで賃貸マンションに住んでいました。

山口：なるほど。ご主人のお仕事は都内ですか。

B：はい。都内で錦糸町です。

山口：最寄駅はどちらですか。戸田公園駅ですか、あるいは蕨駅ですか。

B：駅は戸田公園です。

山口：ありがとうございます。また、後ほど質問させていただきます。それでは、C さんお願いします。

C：住まいは上戸田で、昭和 50 年生まれです。仕事は専業主婦です。

山口：上戸田からこちらに来られるのは電車ですか、あるいは車ですか。

C：自転車です。

山口：なるほど。お住まいは持ち家ですか。それともマンションですか。

C：持ち家です。

山口：それでは、家族構成について教えてくださいませんか。

C：夫と娘の 3 人です。

山口：お嬢さんは、おいくつになられるんですか。

C：今 1 歳 10 か月です。

山口：持ち家というのは、元々住んでおられたのではなく、新たに購入されたんですか。

C：はい。

山口：元々のお住まいは戸田ですか。

C：はい。結婚して、まずは戸田の賃貸に住んでまして。ゆくゆくは、私の両親と同居という事で持家を購入しました。

山口：ご両親はどちらにお住まいですか。

C：静岡県です。

山口：ご主人のお仕事は何でしょう。

C：会社員で、新宿に通勤しています。

山口：分かりました。それでは D さんお願いします。

D：2011（平成 23）年 5 月まで本町に住んでまして、それから新曽の方に引っ越しました。住まいは賃貸マンションから持ち家になりました。家族は主人と小学校 2 年生の息子と 2 歳の息子の 4 人です。それで、私は専業主婦で、主人は会社員で大崎まで通勤しています。私は昭和 48 年の生まれです。

■子育てサークルなど地域活動への参加について

山口：それでは、みなさんにお伺いしたいのですが、子育てサークルといったサークル活動やお子さんが参加されているスポーツ少年団、その他、町内会や自治会など何か地域と関わるような活動をされている方はいらっしゃいますか。

C：国際交流協会の会員です。

山口：具体的にどういった活動をされていますか。

C：2か月前にあるきっかけがあって、まだ入ったばかりなんですけれども。戸田にお住まいの外国人の方の日本語学習の手助けをしたり、交流パーティをされたりしているようで。まだ子供が小さいので、あまり参加できていないんですが。

山口：ということは、語学が堪能でいらっしゃるんですか。

C：いえいえ。産後に何かできることはあればと思って、英語と中国語の勉強を始めました。中国語は、中国語検定の準4級という一番簡単なものしか持っていませんが。中国語を始めようとしたきっかけも、そこにいる中国人のママさんとお話するために、勉強を始めたので。

山口：なるほど。外国人の方が、この広場を利用されるってことは結構あるんですか。

C：いると思います。中国人の方ですね。他の方で、私が好きな方はネパールの方ですね。

山口：地域活動へのご参加がなかなかないというお話なのですが、その理由についてお教えいただけませんか。

A：率直に言ってしまうと、見返りが無いと言ったら悪いですが、お金を貰うわけでもないしということでしょうか。本当はそういうこと言ったらだめなんだろうけど。皆さん、家庭にいらっしゃる方も、仕事していらっしゃる方も忙しいと思うので、その時間を割いてまで、やる気にはちょっとならないかなと思いますね。

山口：なるほど。Bさんいかがですか。

B：幼稚園のお母さんたちとの交流が結構ありますね。話し相手もそこにいるのであえて外に行く必要があまりなくなってしまうような気がします。

山口：Cさん、国際交流協会の話がありましたが、それ以外で何かつながりというのはありますか。

C：町内会には入ってます。活動といっても、回覧板を回すぐらいですが。

山口：ありがとうございます。それでは、Dさんはどうですか。

D：本町に住んでいた時には、町内会費は払っていましたが、回覧板とかもなかったし、とにかく情報がなかったんです。この広場のような、子育てサークルみたいなものがあるのも、上の子の時は全く知らなくて、それを知った時にはもう定員になっていました。そこにある「さくら草保育園」とかはすごい近かったんですけど。「なんか自転車いっぱい止まってるな」って、「何やってんだろう」って感じでいつも見ている。それで、何年か後に。そういうサークルっていうか、保育園で何か定期的にやってるっていうのを知りました。出生の時に、そういった情報を教えていただければ、家に引きこもっても

いなかったと思うんですが。上の子の時は、ほんとにずっと引きこもってて。この2番目が生まれた時には、この広場ができて半年ぐらいで通いだしたんですけど。それから、今新しく引っ越したところは、戸田市の広報が入らないんです。自分から町内会長さんに挨拶に行かないといけならしいんですが、お住まいが分からない場所だったので。広報はこの広場に来た時に取って、隣の方の分を配ったりしています。「こどもの国」とかでやっているイベントがあれば、子供連れでは行ったりはしますが、町内会での奉仕的なことなかなかできないです。

山口：子育てに関する様々な情報をどのように入手されているのかが気になったのですが、Aさんいかがですか。

A：まあ、妻を見ていると情報が入ってきますし、やっぱり、広報戸田ですかね。それから、マンションの掲示板に、「お祭りやります」だとか、「ごみゼロ運動やります」だとか、「こういうのができました」というのが書いてあるんでそれを見ますね。それから、それをきっかけにインターネット見るとか、現地に行ってみるとかっていうことになりますね。

山口：なるほど。Bさんはいかがでしょう。

B：おもに広報か、クチコミかですね。それから、市役所のホームページから、幼稚園の情報を取っていますね。

A：あと、ここで皆さんにお会いして情報を入手していると思います。妻が見知っている方がいっぱいいらっしゃるようで、「今日そこで何たらのイベントがある」というの聞いてきたりとか、「どこどこが面白いらしい」なんて話を聞いてきますね。

山口：この広場が情報を媒介するような場になっているわけですね。

A：そうです。妻がいろいろな話を持って帰ってきて、日曜になったら、「あそこに連れていけ。ここに連れていけ」とってことになる感じですね。

山口：Cさんはいかがでしょう。

C：私も人間関係については、この広場で出会った方が多いですね。皆さんとのお話で出ることが多いです。そして、誘われていった保育園にリーフレットが置いてあってそれをもたらしたりして、情報を得ると思います。

山口：そういう意味では、この広場は非常に意味のある場所になっているわけですね。

A：はい。そう思います。

■子育てに関する悩みなどの相談や情報交換について

山口：子育てに関して、様々な方とのつながりで情報を入手されていることが分かったのですが、例えば、子育てに関する悩みとかを相談したりする相手はどうでしょうか。

A：やはり多いのは、子供に関するトラブルというか、手に負えない状況が発生するわけですよ。夜寝ないだとか、飯を食わないだとか。あるいは、なんか妙な病気にかかったりしますよね。そんな時に、妻は、ここに来て、「こんななんだけど、どうしたらいいの

かしら」とかほかのお母さんに聞いて、「あの病院がいい」とか「こうやると寝るよ」とかという話を持って帰ってくるという感じです。だから、僕自身がそういったトラブルについて、皆さんに「いやー、僕困ってるんですけど、どうしたらいいですか」とはちょっと恥ずかしくて聞けないんで。あるいは、会社でママさん社員に聞くとかというのがあります。

山口：なるほど。例えば、みなさんより上の世代の方に子育てについてご相談されることもありますか。

A：たしかに、会社で聞くことはあるんですが、やはり、当たり障りのないことしか言ってくれないんですよね。だから、有効な話はやっぱり妻が大体持って帰ってきます。この広場で聞いてくるか、友達からのメールや電話で聞く感じですね。あとは自分の母親と妻の母親ですね。ですので、この広場がなくなったら、ヤバいんじゃないかなと思いますよ。

山口：Bさんはいかがでしょうか。

B：毎朝、バス停でいつも会って、4人でバス停で待ってるので、そこでペラペラと喋って、いろんな情報を交換してるんですけど。例えば、子供の病気の話とか、自分の趣味のこととか、幼稚園の話とかをします。

山口：例えば、なんか「ここにおいしい店があるよ」とかは、戸田市の魅力につながっていくと思うんですが、そういった話はされますか。

B：はい、しますね。「あのパンがおいしいよ」とか。

山口：それでは、Cさんはいかがでしょうか。

C：私もここで知り合った人たちと話したり、あと広場の先生方にいろいろ教わったりすることが多いです。それから、保育園のイベントや小学校の学童に行ってるんですけども、そこにいらっしゃる先生にもいろいろ教わります。それ以外でしたら、同じ年齢の子を持つママさんたちですとかに話を聞いてます。その一方で、実家も離れていて親戚も遠いんで、そういった身内の方には聞いてないですね。

山口：Dさんはいかがでしょう。

D：上の子が小学校2年生なので、幼稚園の時のお友達がメインでつながりがあったんですが、今回、引っ越しとともに転校したので、まだ新しい学校のお母さんたちとはつながりはないです。ただ、基本的にここを利用してる人が多いので、会った時には話をしますし、あとは、8歳までの子供をもう育ててるので、今の2歳の子の成長の過程については、ある程度はわかっていると思います。ですが、性格が違うので、広場に来て、近くにいるお母さんと話しながら、現状を見ながらの相談みたいな感じです。あるいは、逆に聞かれることも多いです。今は、下の子の方のつながりが大きくなって、まあ、小学生がいるっていうことで、「子育てはどうだったの」みたいな感じで、聞かれることが多くなりました。

■子育てに対するパートナーの協力について

山口：それでは、みなさんのご主人の育児への協力についてお伺いしたいのですが、いかがでしょう。

B：うちの主人は関わってる方だとは思いますが。お風呂に入れたりだとか。あと、いる時は寝かしつけまでしてくれたりとか、頼めばおむつ替えもやってくれたりとか。それから、夏は子供2人を連れてプールに行ってくれたりとか。

山口：なるほど。そうするとご主人は子育てに対して協力的で、特に問題がないということでしょうか。

B：いや。例えば、子供が風邪をひいていても、その重大さというか、どれぐらいの病状とかがよく分からないみたいで、それでも連れ出そうとすることがありますね。「行っちゃおう」みたいな感じで、自分を優先してしまうというか。

山口：そのような育児の基本的な情報について、ご主人はBさんを通じて入手される感じですか。

B：会社の人で、お子さんがいる方とは、何となく喋ってるかもしれないけど、特に自分から調べようとはしてないですね。

山口：Cさん、いかがでしょうか。

C：うちの夫も結構積極的な方だと思います。平日は帰りが遅いので、関われない分、土日は子育てに協力的ですし、月に2、3回は娘を連れてこちらの広場に来たり、散歩に出かけたりしてます。

山口：なるほど。そうしますとご主人への子育てに関する不満は特にないですか。

C：具体的に、これというものは無いですが、でも、不満は見ててあります。

山口：ありがとうございます。Dさん、いかがですか。

D：うちの主人は出張が多くて、本社にいる時にも終電なので、ほとんど家にいない状態です。土日もないですし、月に1回、2回とか家にいる時もあるんですが、その時に子供と思いきり遊んでほしいんですが、本人もちょっと休みたいっていうのがあるみたいです。ただ、それは分かるんですが、そのたまったビデオ録画を朝方まで見てたりして、次の日の土曜、日曜とかはもうずっと寝てたりして困りますね。例えば、子供が自転車の練習したいとか言って、私にはなかなかできないことを主人にはやってほしいんですけど、私が怒らないとやらない時もありますし。また、みんなで出かけるっていう時は大丈夫みたいなんですけど、自分で1人でっていうのは難しいみたいで、「恥ずかしくて来れない」って言いますね。上の子と一緒に「こどもの国」とかに行くと、迎えには来てくれるんですけど。この広場に入って遊ぶというのに抵抗があるみたいですね。

山口：なるほど。子育てにとってこの広場が重要であることは分かった一方で、男親にとっては、やや入りづらい場所になっているのでしょうか。

A：ご主人のお気持ちはお察しいたします。というのも、私も相当勇気を振り絞って毎回来てますんで。というのも、なんか申し訳なくてですね、授乳される方もいらっしゃるし、

例えば、お手洗いを借りることひとつとっても「トイレ行ってきますって、おれの前で言うの恥ずかしいんだろうな」とかも思ったりします。とはいえ、ここでおれがいなくなるわけにもいかないですしね。

D：でも、それだけ子育てに協力的というのは、逆にうらやましいですよ。

山口：うん。すごいなとは思いました。

B：すごいなと思います。

A：そうですか。

D：別に、他のお母さんはそういったことを気にしてないから。でも、本当にすごいって思って。うちの上の子とかはパパと関わりがあんまりないから、他のパパでも、すごいアピールして、「遊んで」みたいな感じで、おもちゃ持ってったりとか。でも、他のパパは困っちゃってるんです。

山口：こういう施設は非常に重要である一方で、基本的に、女性が子育てするというのを前提として作ってますよね。

A：例えば、男子トイレがなくて、下行かなきゃいけないんですよ。それで、下のトイレに行くと、赤ちゃんが座る椅子（ベビーキープ）がないから、抱えたまま用を足すことになります。それで、男の日っていうのも作ってくれたらいいなあと思うんですが。あんまり来ないだろうけど。でも、皆さんのご主人さんもいらっしゃるんじゃないかなあとか思ったりしますね。でも、男親は、多分友達作るのがうまくないですから、みんな黙って、特に情報交換もしないで、みたいになる気がします。

■子育て広場の利用頻度について

山口：この広場の利用頻度について教えてくださいませんか。

D：この子が生まれたのが去年の6月で、その時から利用してるんですけども。最初は、結構コンスタントに来てて。1歳前後ぐらいから1歳半ぐらいまでは、ほとんど毎日来てました。ただ、だんだん大きくなってきて、ちょっと申し訳ないかなって思います。といううも、2歳を過ぎると動きが激しくなるので、ちっちゃい子にぶつかったりしないかとちょっと気が引けてしまいます。一応、この広場は3歳までは大丈夫ですが、正直ちょっと気が引けてしまってる部分があります。ほんとに、1歳半ぐらいまではほとんど毎日、保育園のように来てたんですけども。今は、1週間に1、2回とかですね。ここに来れば、知ってるお母さんがいっぱいいるから、お話しするのはいいんですけど。

B：うちもDさんのところと同じ感じですよ。ちょうど、上の子の年齢が同じですから。うちも1歳ぐらいまでは、頻繁に、週に1回か2回くらいは来てたんですけど。1歳半ぐらいになると、お座りしてる子とかがまだ多い中で、けがさせちゃいけないとか気を遣ったり、おもちゃを奪い取っちゃったりとかするようなことがあったりするので、やっぱり気が引けて、あんまり来なくなりましたね。今日も半年ぶりくらいです。Dさんとは、広場によく来てた頃に知り合って、今日も誘ってもらいました。

山口：そうですか。それではCさんはいかがでしょうか。

C：私は毎日来てました。昼寝が終わってから4時ぐらいから5時ぐらいまでで、この子と同じ年代の子が多い時間帯をねらって来て、必ず平日は来てます。1時間ぐらい遊ばせていて、家で1人だと煮詰まっちゃうんで、ここに来れば先生方もいらっしゃいますし、話しやすいお母さんたちが多いので、私の気晴らしにもなります。

山口：Aさん、いかがですか。

A：ここはね、妻が週に平日2回ぐらい来るようです。僕は会社が休みの木曜、日曜に行くんですけど。まあ、僕も育児嫌いじゃないんで。家で子育てをしていると、妻という、鬼上司みたいなのがいて、箸の上げ下ろしまで注意されますので。女性陣に気兼ねすることもありますけど、ここに僕は来たいんです。先ほど、「大きい子、来ると…」っていう話ありましたけど。うちの子はちょうど上がいないので、逆に、ここに来れば、踏みつぶすぐらいしてほしいなと思っています。そういうことで人生のサバイバルを体感させたいです。うちにいたら、みんなもう甘やかしかしないんで、正直ね、2、3発、蹴ったり、殴ったりしてほしいぐらいです。まあ、そこまですると極端ですが、物を奪い合うとか、譲り合うとかって重要だと思うのですが。

山口：このご意見に対して、何かありますでしょうか。

A：たまに、思うんですけど、子供だけにして、大人みんなこっちに来ちゃって、子供だけで何をやってるか分からないぐらいの時間があつた方が、子供の将来のためにはいい気がするんですが。

山口：Dさん、どうでしょうか。

D：そういうふうに言うてくださる方もいれば、やっぱり1人目だから、すごく過保護になっちゃってる部分もありますよね。子供にべったりで、ちょっとでもぶつかったら、「ちょっと！」っていう方もいらっしゃるので。うちの場合は、上の子と年の差が離れてしまっていて、遊ぶ内容もちょっと違っちゃってるので、ここで学習させたいというのもありました。例えば、赤ちゃんやちっちゃい子に対してはすごく優しいです。それは、赤ちゃんが自分よりちっちゃいっていうのは分かってるんです。だから、近所の赤ちゃんとかでも、「いないいないばー」してみたりとかしますね。

■子育てを媒介とした地域住民とのつながりについて

山口：それでは、みなさんのお住まいの近くの地域の方が、子育てにかかわることというのはあつたりしますでしょうか。かつておられたような世話焼きおじさん／お婆さんはおられますでしょうか。

C：そういう人はうちはいます。

D：賃貸のマンションに住んでいた時は、本当に誰が隣に住んでるのか分からない感じだったので、つながりがなかったです。ただ、今は持ち家になってその周囲に、新しく何軒か建って、「一応、仲良くしましょう」といった雰囲気はあります。皆さんトラブルは

避けたいというのがあるので。周りのお宅とお話はしますけど、だからといってそこま
で強いつながりではないです。子供もちょっとちっちゃい子だったりとか、共働きで保
育園に預けてる子とかだったりするんで、結局のところつながらないですね。

山口：なるほど。それでは、こういった広場があれば、皆さんのお住まいの周りのつな
がりがなくても別にいいということでしょうか。

D：でも、何かあった時に、近所の人に頼れたら、例えば、ちょっとでも預かってくれるよ
うな人がいたら助かりますよね。やっぱり自分の子供の時のことを考えれば、普通にお
隣さんのおうちでご飯食べたりとかありましたよね。でも、上の子供が小学校で友達と
遊ぶ機会が増えても、みんなうちにばかりに来るんですよ。他の子はおうちがダメっ
て。だから、毎週毎週来られるんで。「もうやだ」って感じで、しかも4,5人来るから。
それで、「何でうちばかりなの？」って聞くと、他の子の家はだめだからっていう子
がほとんどで。たしかに、うちが賃貸だった時は、階下の人に迷惑かけた時があって、
他の子の家に遊びに行ったりとか、「こどもの国」で遊んでてっていう時が多かったん
で、しょうがないって言えばしょうがないんですけども。逆に、小学生でも、例えば、
新曽北小の子がいろいろ事件に巻き込まれたりしてるんで。福祉センターや公民館とか
を予約しないで開放してくれるとかしてくれれば、いいんですけど。

山口：なるほど。今、Dさんが言われたような家を行き来するようにつながりがあつたり
しますでしょうか。というのも、昨年度の調査で、戸田市から他所へ転出された方
の6割強が、戸田市での居住期間が5年未満ということが分かりました。転出する
理由は様々あって、あらがえないものもあるとは思う一方で、親密なつながりや戸
田市に居つこうかと思われているような、ある種の愛着はないだろうかと思ってい
るのですが。

A：妻はママさん教室みたいなところに友達と通っていますし、家の行き来もしてるよう
です。ただ、すごく印象が強烈だったのは、僕が家で育児やってて、さっきも言ったよ
うに、鬼軍曹としての嫁に見られてるから、早く外に行きてえなと思ってたわけです。や
っと生後1か月ぐらいになって、外に出れると子供をおんぶして出たら、「あれ、
どこ行こうかな」と思って。「あ、どこも行くところねえや」っていうんで、自宅マンシ
ョンの周り2,3周まわって帰ってきました。なんかこう、夢に見ていた外の世界はこ
んなだったのかと思いました。素朴な疑問なんですけど、僕は地域のつながりが
ない状態なんですけど、本当は地域ってものがあって僕が参加してないだけなのか、そもそも
そんなものないのかどっちなんだろうなっていうのがありますね。

山口：なるほど。そういった地域の厚みとかポテンシャルを把握したいということが、
この調査の一つの目的でもあります。そういったものはありますでしょうかね。

C：喋ってもいいですか。私はこの広場に来るまで、家に、ママ友さんや母親学級で知り合
った人との行き来があつたんです。ですが、Dさんと同様に、何かうちばかりって
いうのがあって、ある人は私の面識のない人も連れてきたり、マルチ商法をされたりしま

した。また、うちに来ているにもかかわらず、私の名前を忘れていたりとかがあったんで、もうメールアドレスも変えましたし、この広場に来てからは家が戸建ということは、全くもう情報を出さないようにしてるんです。ですので、Dさんと同じように「あ、うちばかりは嫌だな」って、すごい感じてました。私は一生戸田に住むので、おかしなことはできないし、やはり人を招くのは慎重にならざるをえないですね。

山口：Bさん、いかがでしょう。

B：逆に、呼ばれて行くほうが多いんですけど。「行く」とかって、軽い気持ちで結構行っちゃってたので、迷惑だったかなとも思いました。でも、幼稚園の友達のおうちで、親同士はそんなに仲よくなくても、子供同士で約束してたから呼ばれることもあるし。その一方で、その子供はそんなに違う幼稚園で仲良くななくても、親同士がつながって呼ばれて行くこともあるし。

■子育てにおいてよく利用する施設、お気に入りの場所について

山口：子育てにおいて、よく利用する場所とか、お気に入りの場所なんていうのを把握させていただきたいのですが。それをペタペタと貼っていただいてよろしいでしょうか。

A：まずはこの広場ですよ。

C：mameshibaとかshibakenとか行きますね。

B：うち自転車に乗れるんで、プリムローズとか児童館も行きます。

A：イオン北戸田。

D：あと、こどもの国。

A：あと戸田中央総合病院とか。

B：後谷公園。

C：蕨のイトーヨーカドーや、川口のララガーデンも行きますね。

山本：ちなみに、まだお子さんが小さいかもしれませんが、道満とか彩湖ってのは行かれないですか。

D：行けないです。遠すぎて、tocoバスだと乗り換えなきゃいけないので。でも、芝生みたいなところか、釣り堀とかあったりするんで、小学生の上の子には、ちょっと遊ぶにはふさわしいかなって思うんですけど。

C：なんかね、Oh!kawa（オオカワ）とか行きます。安売りのスーパーですが。

山口：今回の調査票調査でいうと、荒川の土手はよく行くみたいなのがあったんですが、あまり行かれませんか。

A：遠いですね。

B：たまに夏休みとかに行ったりしますが。

D：ボートコースの真ん中に橋があれば、行きやすいんですけど。

山本：先ほど後谷公園を利用されるという話だったんですが、ご自宅の近くの公園とか

てのは、よく行かれますか。

D：怖くて行けない。新田口公園って広くて、昼間おじいさんたちとかがゲートボールとかしたりするんですけど。なんかちょっと治安が悪そうで。街灯も、ちょっと少ないような気がするんですけど。あと、柳原公園とかも、家から近いんですけど。そこで夜にお酒飲んだりしてる人がいて、そのままゴミが置いてあったり、たばこの吸い殻が落ちてたりとかするので。本町に住んでた時、さくら草保育園の前に芝生あるんですけども、そこで子供を遊ばせてると、たばこの吸い殻を拾っちゃうんですよ。だから、そういう点では、こどもの国なんかは、毎朝清掃してくれてるので一番いい気がします。

山口：Aさんいかがでしょう。

A：公園はまだ何するか分からないので行かないですね。だから、やっぱり僕が行くとしたら、ほんとのこの広場になりますね。

山本：おっしゃるように、この広場については市役所の中でも、お子さん連れてる方が1日過ごせるということで有名です。

A：トイレもあるし、おむつ台もあるし。通路が広いし、車から直接行けるし。ご飯食べられて、床もきれいだし、でも室内ばかりだな。確かにちょっと屋外も結構充実してんですけどね、戸田市。まだ、我々が活用できてない気がしますね、そう言われると。子供がもっと大きくなれば、部活で野球やったりとか、ソフトボールやったりとかしたら、ありがたみが分かるんでしょうけど。

■戸田の魅力について

山口：なるほど。皆さん、戸田市にもう5年以上住んでいらっしゃるという中で、戸田市の魅力っていうのはどの辺にお感じでしょうか。住み続けていてなんかいいなと思わせるのはどういったところでしょうか。

D：前は池袋に住んでまして、絶対都内から引っ越したくないって、すごい騒いだんですよ。それで、会社の方で提示されたのが与野本町とかで、やっぱり都内じゃなきゃいやだって。引っ越しても板橋か有楽町線のどこかというのを探したんですけど、やっぱり狭くて、安いのがなかったんですね。それで「じゃ、もうしょうがない。川を越えるか」ということで、一番近い戸田市で、たまたま何軒か物件ありました。また、主人が駅近を強く希望したので、本町の方のおうちに住んでたんですけど。それから、主人の職場が大崎だから、埼京線で一本で行けますよね。あと、出張で新幹線を利用するので大宮が近いのも便利です。あとは主人や私の実家に帰りやすいのもいいところかもしれないです。それから、あまり使わないですけど、公園が多くて緑が多いなというのがありますし、道路がきれいで、特に北戸田とか今すごくきれいに舗装していますよね。

山口：交通手段やその利便性というお話でしたが、それ以外に何かありますでしょうか。

A：やはり、この広場の存在は大きいでしょうね。他の市とか区に住んでる友人に言ったら、「何だ、それ」って、みんな言います。

C：図書館がちょっと戸田駅の方で遠いんですけど、インターネットで予約をして本を借りれるんです。なので、うちではもう本も雑誌も買わないですね。

C：それから、あと私の好きなお店で、shibaken と、野の花屋があって、ちょっと代官山とかにありそうなお店があるんで。ちょっとなんか都心に行きたい願望を満たせるみたいなというのがあります。

A：戸田市は1か所しかないですけど、周辺にショッピングセンターが立地してますよね。これは僕は助かります。

B：モールが多いのがいいと思います。そんなに遠くないところであって、今日はこっち行ってみようかみたいなことができるし。

A：あと toco とか。あれ、いいですね。100円でどこへでも行けるから。

D：その一方で、すごく聞くのが保育園に入れなくてという話ですね。

山本：そうです。ですので、そこに新しくミツカン酢のところにできたじゃないですか。あそこができる時には、近隣の住民のかたが元々幼稚園、保育園が足りないと言ってる中にあれができるんで、中に作って下さいっていう行政指導でやっていますので、また、前から住んでる方々には迷惑になってしまうのではダメだということで、やっているの。

D：でも、あそこももうすぐにいっぱいになっちゃって、結局、保育園は3つぐらいないとダメなんではないでしょうか。

■子育てに関する市の取り組みに対する要望など

山口：それでは、最後の質問です。今も少しデメリットの話が出ましたが、ここが足りないから、なんかもうちょっとこうしてほしい。こうしてくれたらありがたいということがありましたら、お話をお伺いしたいんですが。

C：あの、toco バス、逆回りがほしいです。

D：そうですね。

A：あと、今39歳で10年後に49歳になって、この広場がなくなっちゃわないかなというのがありますね。老人ホームかなんかにするおつもりですかといいますか、それでも非常にいいんですけど。僕らただで利用させてもらってるんでありがたいんですけど、経営的に考えると多分相当大変なのではないかと思いますね。それから、恐らくさっきから言っている隣三軒の地域や昔の町内会が復活すると思えない。そのような中で、自分の子がもし戸田市に住んだ時、さらに孫ができれば、こういうところあったら、あるいはこれぐらいのつながりが維持できるのが、現状の最善策だと思うんで、「人口が減ったからこんなのやめた」って言わないでほしいなというのが願いですね。

山口：非常に重要なご指摘でした。いかがでしょうか、Bさん、Dさん。

D：あの、私はやっぱり上の子が、安心して遊べる場所、あるいは、小学生に開放してくれるような場所があったらいいと思います。

B：駅前だとか難しいでしょうけど、交通の便のいいところに児童館のような、もう少し大

きめで、幼稚園生とか小学生とかが雨の日でも遊べるような室内の施設みたいなのができればいいなと思います。

山口：それでは、長々と1時間20分、もうお話しいただきました。ありがとうございました。お話の内容やプライバシーには十分配慮して、報告書のほうをまとめさせていただきます。また何かあったらですね、追加のご質問とかさせていただくこともあるかもしれませんが、その時にまたご協力を仰ぐこともあるかもしれませんが、今後ともよろしく願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

2011年12月2日(木) 10:30~11:50(戸田公園駅前 子育て広場)

山本氏と山口による本調査とグループインタビューに関する趣旨説明

■インフォーマントの基本情報について

山口：それでは、お名前などからお願いしてよいでしょうか。

E：名前は E です。住まいは上戸田で、家族構成が私と主人と娘です。娘は 9 か月で、自分の年齢が 36 歳です。仕事は教員をしていて、主人も教員です。勤務地は世田谷区の高校です。

山口：ご主人も同じ職場ですか。

E：違います。荒川区で高校の教員をしています。

山口：ありがとうございます。それでは、すみませんが、お願いします。

F：はい。F と申します。住まいは中町で、家族構成は夫、私と息子、1 歳 5 か月と。私の方の祖父と祖母と住んでいます。年齢は 32 歳で、専業主婦をしています。旦那は病院関係で、勤務地はさいたま市北区の日進です。

山口：はい。ありがとうございます。少し聞き忘れたところがあって恐縮なのですが、お住まいは持家でしょうか、借家でしょうか。

E：持ち家マンションです。

山口：はい。F さんは。

F：同じく持ち家マンションです。

山口：はい。ありがとうございます。すいませんが、お願いします。

G：G です。住まいは持ち家のマンションです。最近持ち家のマンションに引っ越したのですが、それまでは社宅に住んでいました。家族構成は私と夫とあと娘が 1 歳 2 か月です。私の年齢が 31 歳です。それで今は専業主婦で、夫の仕事は金融系で、四谷に勤務しています。自宅は下前です。

山口：その社宅も市内にあったんですか。

G：そうですね。本町にあった社宅です。

山口：お二人はいかがでしょう。元々戸田にいらしたのか、他所から来られたのか。

E：戸田に来る前は八王子にいて、戸田の借り家で、それで分譲マンションを購入しました。

山口：なるほど。F さんはどうでしょう。

F：小さい頃は板橋区に両親も一緒に住んでまして、その後、両親が戸田に引っ越して、一緒に引っ越してきたんですけど、その後、戸田で一人暮らししていました。それで、結婚して、一緒に戸田市内で旦那と住んでたんですけども。それから引っ越して、両親と同居しています。

山口：なるほど。ご両親の持ち家のマンションに引っ越されたということですか。

F：そうです。

■子育て広場を利用したきっかけについて

山口：それでは、市内でのつながりやその交流の場についてお伺いしたいのですが、そもそもこの広場を使われるようになったきっかけというのは、どのあたりにあるんでしょうか。

E：この広場の存在は知ってて、いつも行ってるカフェのママさんたちが「おいでよ」って言って、それが子供が生まれて生後2か月ぐらいでしたね。子供が生まれてどうしようかなと思ってたときに、同じ病院で、同じ日に生まれた子のママと結構仲良くて。そのお母さんと一緒に行こうって言われて一緒に来たのがきっかけです。

山本：そのカフェは上戸田の shibaken ですか。

E：そうです、そうです。memeshiba も毎日行ってる。

山口：そうすると、そういうカフェとか、産まれた病院でのお母さんのつながりとか、ある種のクチコミが、きっかけということですね。

E：そうですね。

山本：最初は、存在は知ってたけど、なかなか1人では行きにくいっていうのがありますか。

E：そうですね。「ちょっとね」とか言って、うん。

山口：お二人はいかがでしょうか。

G：そうですね。ちょうど出産する前にこの広場ができて、家もすごい近かったので、散歩がてらとか、来れたらいいかなと思っていました。

山口：そもそも、この広場があるっていうのを知られたのは何かありましたか。

G：広報誌とか、あと工事してるのを見て、何ができるのかなって思いました。

山本：その時は、本町がお住まいだったんですか。

G：そうです、はい。自宅から2、3分ぐらいでここまで来れたので。

山口：なるほど。Fさんはいかがですか。

F：私も知ったのは広報を見て、ここができるのを知って、私も産院で同じ出産日だった方と、じゃここで会いましょうということで使い始めたのがきっかけです。

■子育て広場の利用頻度について

山口：それでは、基本的な情報で、この広場を利用される頻度についてお伺いしたいのですが。

G：私は結構頻繁に週2、3回とか、下手すりゃ多分毎日、毎日っていうか利用していますね。月曜日から金曜日まで来たりとか、何もすることがないわけじゃないですけど。なんか人がいるほうが気が楽な感じがするので。特に子供の体調が悪くなかったり、自分に予定とかがなければ結構っていうか、しょっちゅう利用していますね。

山口：お二人はどうでしょう。

E：忙しい時は週1回とかになっちゃうんですが、結構頻繁に来るときは来てますね。先週は体調が悪くて全然来れなかったんですけど。やっぱり週2回とか3回とかはきて、1回で大体1時間強はいて。ちょっと自分が疲れた時は旦那にお願いして、2時間ぐらい、いさせちゃったりとかしますね、この広場は土日もやってるので。

山本：それでは、ご主人が連れてこられるんですか。

E：来ます、来ます。「(娘と) そっくりね」って言われるのが嬉しいらしくて、もうものすごい連れてきてます。

F：土日にここ結構、人いらっしやるんですか。

E：来ているときは来てますね、貸切状態のときもあるけど。

F：両親2人と子供とか来てたりとかもありますか。

E：そういう方もいますね。

G：うちなんか逆に、自分が行くのなんか気恥ずかしいって言って、俺は1人では行かないって感じで、うらやましいです。

E：最初にちょっと仕事があって、それに私がどうしても行かなきゃいけないって預けたら、どうもうちで1人で見るとは、大変だということに気づいたらしいんです。それで、私がカードを持って行ってる広場とやらに連れて行ってしまったほうが、気楽であるということに気づいて。

F：なるほど、そうかもね。

G：確かに。

F：おもちゃもいっぱいありますしね。

山口：なるほど。Fさん、いかがですか。

F：週1, 2回と思います。それで、よく来る時間帯が夕方に来るんですけど。終わる時間にお遊戯みたいな時間があって。それが子供にもいいのかなあと思っています。

■子育てに対するパートナーの協力について

山口：それでは、ご主人の育児に対するかかわり方の実際についてお話を伺いたいのですが。

G：主人は平日に仕事があるので、別にそこまで求めないですけど、土日とかちょっと見といてっていうときは、見てくれるので、別に非協力的とかではないです。ただ、この広場はやっぱりどうしてもお母さん方が多いので、その中に男が1人に入るのは、それがちょっと恥ずかしいというだけみたいです。基本的には子供と一緒にいるのは別に苦じゃないみたい、楽しいみたいです。

山口：なるほど。Fさんはいかがでしょう。

F：協力的だと思います。私の趣味が水泳なんですけど、たまにお友達と泳いだりとかするときに預かってくれて。なんかララガーデンでぷらぷらしたりとか、家で遊んでくれた

りとかしてくれませんが、多分こんな感じのお母さんの中に入るのは苦手だと思います。

E：今、育児休業中なんですけど、それでも、ちょっと仕事を持ってるんで、旦那は半分ぐらいは、育児をやってるんじゃないかなと思います。多分職業柄で、お母さんに囲まれても大丈夫なんですわね、保護者会でお母さんに囲まれてるので、あんまり気にならないみたいで。旦那に子供を預けるときは「子育て広場のカードも貸して。ちょっと行くから」みたいな感じですからね。

山口：すごいですね。それでは、育児に関するご主人への要望などはありますか。

G：でも、自分のやってることを求めるのも、またそれも酷かなっていう気はしますね。やっぱり私は今、働いてないので。でも、ウチ替えるのぐらいはやってくれると助かります。ウチって必ずヘルプされるんです。なんかご飯の用意してる時にそれをやられると、なんか。ささいなことですいません。あと、パソコンとかの画像とか、動画とかを見せたがっちゃうんですよね。それにちょっと頼りすぎるのは、ちょっと勘弁してほしいかもっていうのがあります。それなら、どこかにパーと連れてってくれたりしたほうが、まだいいかなーという感じがありますね。

山口：なるほど。Fさんはいかがでしょう。

F：なんかうちも結構テレビを見せちゃうので、それはちょっとセーブしてほしいかなと思いますね。

山口：いかがですか、Eさん。

E：うちは逆にテレビは見せないですね。見てるのに気づくと消しちゃう。それで、うちの子、なかなか寝ないんですね。12時まで粘っちゃったりとかすることもあるんですが、それがあんまり、彼は気にならないらしく、いつまでも楽しく遊んじゃうのがちょっと困るなというのがあります。

■子育てを通じての同世代とのかかわりについて

山口：こういう広場や保育園などで、育児を通じて近い世代の方とつながったりすることはあったりしますでしょうか。

G：仲良くしたりしていますし、ここに来てる人だと、大体みんな話とかはできるので。

山口：それは、この広場を媒介としたつながりになりますか。

G：あたしはどっちかって、そっちが多い。

山口：なるほど。それ以外はあんまりないですか。

G：それ以外だと、以前、働いてた会社で、同じぐらいに出産した人とかと、話したりとかですかね。

山口：ありがとうございます。他の皆さんはいかがでしょう。

E：この子育て広場に来れば、いらっしゃるお母さんとは、結構しゃべったりとかするし、同じ産院で同じ日に産まれた子のお母さんとかですね。あとは、自分の大学時代の同級生で、ちょうど同じ年に3人ぐらいバタバタ産まれて。そういう同じ年の子を持ってる

お母さんとかですかね。あとは、そのいつも行ってる、その駅前の mameshiba ってカフェでママさんたちとお話しますね。

山口：そういうカフェで、どういう話をされるんですか。

F：memeshiba って、あの、shibaken とはまた違うところですか。

E：違うところですね。

G：テイクアウトができるんですよ。

E：そうそう。それで、結構いろんな話をしますけどね。子供だけじゃなくて、普通にいろんな話、よもやま話をします。

山口：そういうカフェとかっていうのは、お子さん連れのお母さんが入りやすい空間だったりするんですか。

G：子供向けとかっていう、そういうのではないですね、あそこは。

E：ただあそこカフェインレスのコーヒーがあるから、そういう意味で、利用しやすいんだと思います。あとテイクアウトできるから。

G：うんうん。後ろのベンチとかで食べれるやつとかがあるんで、それ食べながらお茶したりとか。

E：そう。あと騒いじゃっても、すぐ近くの公園に連れ出しちゃえばいいし。

山口：ありがとうございます。Fさん、いかがです。

F：そうですね。なんか子育てのことを話す友達としては、高校のときの友達で、子供と一緒に育ててる世代が一緒の子がいます。あと、この広場とか、あと保育園の支援センターとかも行くんですけど、そこでお母さんたちと話したりとか、あとは、戸田中央産院で出産したんだけど、そこでボディリターンヨガというのをやっていて、そこで顔見知りになったかたとお友達になってお話ししたり、保育園とかつながりができて話をしたりもします。

山口：今のお話では、高校とか大学の同期の方と育児についての話をするとということでしたね。それは戸田ではない。

F：そうですね。東京ですね。

山口：近くに住んでるわけではないけども。会って話をするとかですか。

F：そうですね。友達のおうちに集まったりとかで。

山口：その大学の同期というのも、ちょっと会ったりとか。

E：そうですね。あるいは、携帯のメールか、パソコンメールかを使いますね。それ以外は、中間地点が新宿とか東京とかなんで、デパートって子供連れの施設がいろいろあるから、子供を会わせるのを口実に遊びに行ったりしますね。

山口：Fさんの意見で、友人のお宅に遊びに行ったりするとというのがあったんですが、育児を介して、その家に誰かを呼んだりだとか、あるいはそのお宅に伺ったりするよな、そういうつながりっていうのはありますでしょうか。

G：まあちょこちょこっていう感じですかね。どこまで踏み込んでいいのかっていう距離感

が分からないので。お宅に伺いながら、「あ、じゃ次どうですか」みたいな感じですね。

山口：それは市内のお知り合いの方々ですか。

G：市内の人もあります。

山口：お二人はいかがでしょう。

F：市内で知り合ったかたは、家に行き来はまだしてないです。こういう場所や支援センターで会ったりとか、高校の友達とかですね。それから、中間地点かおうちだとやっぱり気兼ねなく話せるので。また、高校の友達で、こういう児童館とか支援センターとかって、なんか市外だと使っているのかなってというのが、分からないというのもあります。

山口：なるほど。Eさん、いかがですか。

E：うちはないですね。うちに呼んだりとか、されたりは。というのも、やっぱり、働いてる人が多いので。私は今、育児休業中なんですけども。仕事に復帰してる人たちがほとんどなので、だから休みの日にこことか、どこかで会うっていうのがほとんどです。

■子育てを通じての年上世代とのかかわりについて

山口：今まで同じような世代の方々とのつながりの話だったんですが、皆さんのお母さんの世代のかたに、育児の相談をするとか、そういった方とのつながりのようなものがありますでしょうか。

G：その自分の親以外の人っていうことですか。

山口：ご両親も含みで結構です。

G：うちはちょっと実家が遠いんで、聞きたいこととかがあるときは、電話とかで。夫の両親は千葉が出身なんですけど、何か聞きたいときとかがあれば、電話とかですね。でも「病気のことは聞くな」って言われて、なんか「全然病気らしい病気もしてないから、対処のしようが分からない」って言われて、「ああ、そうなんだ」あまり役に立たないからって前置きされて、悲しいですね。

山口：なるほど。それ以外に上の世代のかたで、地域のかたとはつながりはあんまりないですか。

G：地域で、自分の親世代っていうのはないですね。

山口：お二人はいかがでしょう。

E：その隣の部屋のかたが結構いい人で、よく声をかけてくれるので、例えば、「ちょっと湿疹がひどいんですよ」って言ったら、「あ、全然平気よ」とか言われて、お母さんが働いているかたで、お孫さんを2人見てたらしくて、そういうつながりで結構楽になったりしました。また、妊娠する前から、戸田に10年以上住んでるんですけど、mameshibaが開店してからずっと通ってるんで、そこで知り合ったおばちゃんとかが結構勝手にだっこしてくれて、そういう意味では、すごい深刻に相談したってことはないんですけど。そのmameshibaにいる、私の母親世代の方が結構いろいろ教えてくれるので。

山口：なるほど。Fさんはいかがでしょう。

F：なんか戸田市内でも母親世代の交流はないですね。同じマンションの方とは挨拶はするんですけども、そんなにお話をするとはなくて。

■子育てを媒介とした地域住民とのつながりについて

山口：そうすると、町内会とかそういう自治会とか、そういう地域組織には入ったりはされてますかね。

E：あれってマンションで自動的に入ってるんです。マンションは入ってると思います。そのマンション管理費から多分出してるんじゃないかな。

F：なんか貼り紙が貼ってありますよね。

山本：広報は届きますか。

G：自宅ポストには入ってないです。自分でいつもここに来たときに取って見えます。社宅のときも全然入ったりとかしてなかったんで、自分で取りに行くものだとずっと思っていました、私は。

■戸田のイメージや印象について

山口：皆さん、5年以上戸田に住んでらっしゃるということなんですが、この街はどういう街なのかということをお伺いしたいんですね。どういう印象をお持ちでしょうか。

F：変な言い方なんですけど、最初に来たときの印象は通勤のための都市って感じがして、その商店街とかがあんまりないイメージがあるんですけど。大きな商店街とかはないですね。それで、マンションがどんどん建って、その住民が多いんですけども、駅前とかも飲食店とかが少ない。

山口：その印象は変わったりされますか。

F：そうですね。初めは仕事をしていたので、あまり街のことは知らなかったんですけども、子育てをするようになってからは、子供と遊ぶための施設とかが充実してると感じました。

山口：お二人いかがですか。

G：あたしも同じで、働いてるときは戸田で遊ぶとかって全然なかったんですけど、子供育てるようになって、育てやすいっていうか、公園とかたくさんあるし、子供が中で遊ぶ施設もあるから過ごしやすくなって思います。変にキラキラしたパチンコ屋があるとかがないので、いのかなっていう感じはします。競艇はあるんですが、離れてますし。

山口：いかがでしょう、Eさん。

E：戸田市は、正直、最初存在を知らなくて。私と主人は最初埼玉に勤めてたので、地図上で職場を直線で結んだ真ん中がちょうど戸田駅と戸田公園駅あたりで。「もうそれで平等でしょう」とか言って、ここに住むことにしたんです。だから、1週間ぐらいで決めなきゃいけないなかったので、全然下調べとかできなくて。最初はなんか「うわ、すごいとこ来ちゃったぞ」と思ってたんです。川岸のほうに住んでたので。しかも、そのマンシ

ョン、オートロックなのに盗難が入ったらしくて。「うわ、ここはすごいやばいところなんだ」と思ってたんですよね。だけど、子供ができる前に犬を飼い始めて散歩すると、そのカフェもそうだし、意外に隠れた名店が、暖家(だんげ)っていうパン屋さんとか、すごいおいしいはんぺん屋さんとか、そういうのを意外に発見して、あと結構おいしいおすし屋さんがあるとか。イタリアンレストランがあるとか発見して。「あ、これは結構過ごしやすいんじゃないか」と思って、マンション買うことにしたんです。大体そのあたりで、「あれ、戸田は意外にいいかも」と思って、住み始めるようになって。だから、そこそこ気に入ってはいるんですよね。よくも悪くも都会じゃないっていうのがあります。浦和とか行くと多分便利なんですよ。ショップとか、レストランとかの数も多いし、外食も便利だろうけど。でも、良くも悪くも戸田のほうが、そこそこ自然があって、そこそこ田舎で、ちょっと安心できるかなっていう感じがありますね。探すといういろいろなものがあるんだということに気づいて。双六(すごろく)っていうおいしいラーメン屋があるって聞いたけど、行けてないんです。今は新宿とかまで出かけなくても、ほとんどそろそろかなっていう気分ではいますね。あとすごい驚いたのが、働いてたときって、住民票とか取るの面倒くさいじゃないですか。それが自動で取れるから「うわ、便利」と思って。前に住んでいた八王子はいちいちその時間に行かなきゃいけないんです。あと toco も便利ですね。こんなところ通るんだと思ったりして結構便利ですね。

山口：お二人は出産される前はお仕事をされてたわけですよ。Gさんの先ほどのご意見では、そのお仕事をしてるときは基本的に「職場に行って帰って」みたいな感じで、あまりこの街を利用することがなかったのかなと思うんですが。育児をされるようになってから、よく使うようになった施設だとか、場所だとかは、あったりはしますか。

G：基本的に、保育園とかそういうところにどうしても行くことが多くなりますね。でも、車とかもないので徒歩圏内になりますけど、虹保育園とか、おっしゃってた shibaken とか、mameshiba とか。あと、ママさんたちと食べるときにカフェダイニング・サンにもいきますね。あそこは2階が座敷になってて、ちょっと子供を歩かせたり、寝かせたりしても、気兼ねがないというか。

山口：Fさん、いかがですか。

F：私も保育園と支援センターとこどもの国とあとはララガーデンで買い物をしたりとか。イオンも結構行きます。土日の無料バスで。

■子育てにおいてよく利用する施設、お気に入りの場所について

山本：昨日も皆さんに、市内でよく行くところとか、お気に入りの場所とかを地図上でシールを貼って示していただいたりしたんですよ。

E：shibaken, いいですよ。その隣にフォーってお店あるの知りませんか？

G：知ってます。でも、あそこはまだ行ったことない。

E: あれ, おいしいですよ。市役所の人が昼休みに入る前か後に行くと, おいしい定食が 600 円とか 700 円で食べれて。こじやれたんじゃない, ガッツリとか食べたいときは, 私そこに行くことにしてる。子供連れて行っちゃって。

G: いさむキッチンっていうのがあって。

E: 私行ったことないんですけど。おいしいんですか。

G: なんかあそこ隣がおすしで。不思議な感じなんですけど, おいしかったですよ。

E: 子連れで平気ですか。

G: たしかだめって感じじゃなかったかな。

E: あ, そうなんですか。

G: まだ妊娠中に私行ったんですね。

E: あそこ行きたいなと思ってて。この前になんか写真館ありますよね。

F: ありますよね。

E: そう。あそこも結構お気に入りです, 行きました。

山本: ちなみに後谷公園とかは。

E: まだ月齢的に小さいから。

G: 最近寒くなっちゃって。でも 1 回ちょっとベビーカーとかで散歩したりとか。

E: mameshiba はどこだ。こどもの城の前だから。ここは毎日行きます。あと前よく行っていたのが, バンブーっていうイタリアンレストランがおいしいんですよ。

G: おいしかったです。最近ようやく行っておいしかった, ちゃんとアルデンテですよ。びっくりしました。中央病院のなんかこの辺ですかね。なんかよく分かんないんですよ, あそこ。

E: そう。幼稚園ありますよね。あとこの辺にダンデライオンっていうお店があって。

G: あそこも結構おいしかったです。

E: うん。ここもおいしい。

F: あれは入りづらいよね。

E: あそこは子供は禁止なんですけど, テイクアウトのお弁当があって, パスタもできるから。

F: えー, 知らなかった。

G: ボヌールもあたい好きなんですよね。

E: あとはサンはよく行くな, やっぱり。

G: サンがどこだっけか。

E: サンは, えーと駅のそばだから, このあたりかな。

E: ちはね, パン屋は暖家に行くから。

G: うーん。暖家もおいしいですよ。

E: 鍛冶谷公園の前だからこのあたりですね。

E: あとね, ラーメン屋も結構行くんですよ。茅根は外せないですよ。

F：あたし行ってないのよね。

E：ここ、おいしいですよ。

F：って聞くんですけど、行こうと思うと、閉まっていたりしません。

E：なんか土日はやってないから。平日もなんか夜遅いと閉まっちゃって。

E：あとあそこがおいしいですよ。あの八頭龍（おろち）。から揚げがおいしいんですよ、意外に。なんか食べ物屋ばかりですね。

山本：例えば、支援センターは喜沢南ですか、行かれるのは。

F：喜沢南と虹保育園。

E：あと、うちは桑の実に行ってる。

山本：まだプリムローズとかは行かないですか、児童館。

G：あ、1回。

E：行ったことない。

F：行ったことない。

E：どこに、どこにあるんですか。

F：遠いんですよ。

G：結構なんかご飯も食べれるみたい。お弁当とか持ってけば食べれるみたいなんで。

E：へえー、そうなんだ。いいな。

F：大きいんですか。

G：大きいですよ。なんで、結構やっぱりどうしても2、3歳ぐらいのわんぱくな子たちがたくさん遊んでいて、もうちょっとおつきくなってからのほうが、多分遊びやすいのかなーっていうのがありますね。

E：駅前の支援センター、一応貼っとかなきゃいけない。なんか当たり前になっちゃって。保育園とかみたいに時間に制限がないから楽なんですよ。

F：こどもの国の中も児童館あるんですか。

G：最近、児童館のお話し会にちょっと行くようにしてます。

E：楽しいですか。

G：でも、全然話聞かないですよ。

F：あー、それは絶対動きますからね。年齢とかってどのぐらいの子たちがいるんですか。

G：やっぱり2、3歳ぐらい。でも、別に遊んでてもいいから、連れてきていいですよって、言ってくれるんで、そういう意味では来やすいかなって。

F：気になってはいるんだけど。

G：あと、ピザ屋があるんですよ。

E：オオサキですよ、行きます。おいしいですね。

G：すごいさっぱりですよ。

G：ほんとに食べ物屋さんばかり。

E：でも、やっぱりまだあれですよ。0歳とか1歳だと、まだちょっとおとなしいときだ

ったら、食べ物屋行けるから。

G：動き出したらもう止まらない。

F：そうですね。

E：そうだ。すし屋貼ってなかった。四季っていう飲み屋なんですけど、おすしをお願いすれば、作ってくれて、持ち帰りができるので。犬の散歩してて気づいたっていう。

E：あとこの辺にフランス料理屋があるんですけど、それもなんか行ってみたいくて、まだ行ってない。

G：五差路のどこですか。

E：五差路のところ、五差路はあれがおいしかったな、ヤキトモエ。

E：あと焼肉屋とかも行ったな、白山とか。

G：結構、出産間近のあたりに食べに、景気づけに行きました。しばらく、鉄板のどこ行けないと思って。

E：あと、イトーヨーカドーは市外なんだよな。歩いて行けるから、あたしは行きますね。

E：そうか。こっち側って行かないんだな。美女木とか。

山本：あんまり彩湖はまだ。

E：行ったことない。

F：市内マラソンのエントリーをしたんですけど、妊娠が発覚して行けずに、応援だけ行きました。

E：土手は行きましたね。花見に行きました。その花見行くときに、お弁当をあそこで買ったんですよ。ユーズデリー。そうそう。あそこもおいしい。何つったっけな。ビストロジョワだ。あれ、配達してくれるから。中町のほうですよ。

山本：じゃ皆さんお弁当で、こうお子さん連れてお弁当テイクアウトされてっていう。

G：自分がもう手いっぱいなのに、頼んだりとかしますね。

E：そう。あと肉屋のくまきとかも行く。

G：憩いの場じゃないけど行ってたところは芦原小学校ですね。市内で吹奏楽に加入してて。それでここ使ってたので。一応ここ、子供を連れて練習できるので。来年1月から復帰しようと思って。憩いの場ってなるのか、ちょっと微妙ですけど。

F：皆さん、予防接種ってどこの病院でしてますか。

E：うちはね、最初は戸田中央産院でしてて。カズマ先生が、カズマクリニックを開業しちゃったから。今は開業されたカズマクリニックに行く。

E：めんどくさいときは、ここの桐山さんか、こっちの若草さんに行くって。

G：私は、このさとう耳鼻科に行きます。

E：安いらしいですね。

G：そう安い。2,000円で。

E：先生が仏頂面なんですよ。すご腕ではあるんですけど。今日もインフルエンザをしに行かなくちゃいけない。

- F：歯医者ってどこへ行かれてますか。市内で行ってますか。
- G：うちは五差路の通りの須藤歯科に行ってます。予防歯科もやってるんですけど。
- E：病院ね、この西村さんはよく行ってたな。レディースクリニック。
- G：あたしもお世話になった。
- F：そうだ。toco バスで要望ってあるんですけど。逆回りもほしいなっていうのと。喜沢循環と川岸循環の待ち合わせで、駅で 30 分ぐらい待つじゃないですか。この待ち時間は前はなかったの、それが短縮できればなっていうのが、あります。
- E：toco バスは絶妙にいいところを通ってるから、なんか逆回りも作れば絶対にいいのにとおもいますね。それから、もうちょっと朝か夜を増やせばいいかなと思うのは、例えば保育園に通ってる子とか、雨の日に帰るときに利用すると思うんです。多分雨の日だったら、使いたっていう人、結構いるんじゃないかなって思うんですね。今は最終は 6 時半でしたっけ。あと 30 分遅かったら、例えば帰ってくるときにとかに使えていいかなって思いますね。

■子育てに関する市の取り組みに対する要望など

- 山口：それ以外のなんか要望とかですかね。「もっとこうしたら、もっと長い期間住むのに」というようなことはありますか。
- E：埼京線が止まると、必ず京浜東北が止まるんですよ。実はこの戸田って迂回路が全くないんですよ。大体、この西川口からバスっていうのが使えるルートではあるんですけど、あとは蕨から。だけど、その両方止められちゃった場合、迂回路がほんとになくて帰れないっていうのがあるんですよ。例えば、なんか災害とかあったとき「大丈夫なの」って感じありますよね。
- F：この前の震災の時は、私の父が帰ってきたルートは、三田線で蓮根から歩いて帰ってきましたね。戸田橋は、以前バスとか通ってたじゃないですか。それはもう難しいんですかね。
- E：あと要望は保育園を増やしてほしいっていうのがかなり切実ではありますけど。実は、産休に入ってすごい気づいたのが、小学生の遊ぶ場所ってないんですよ。というのも、うちマンションのロビーですごい遊んでて、結構問題になっちゃって。現実的に小学生が、例えばボール遊びできる公園とか、その雨の日とかでも遊べる場所って、実はないんですよ。そうそう、学童ってどうなってるんですか。
- 山本：学童は各学区につけてまして、今もう定員ぎりぎりの状態でやっています。ただ、敷地面積が厳しくなってきたので、校庭をちょっとつぶしてプレハブ作るというようなところも、一部地区ではありますね。
- E：だから意外になんか結構ちっちゃい赤ちゃんを持つと、「赤ちゃんが遊べる場所いっぱいあるー」と思ったんだけど、今のそのマンションにいる小学生を見ると、「うわ、この子が小学校になったとき、小学生が遊ぶ場所ないんだ」と思って。

G：福祉センターみたいなところで遊べたりとかってというのはあるんですか。

山本：はい。今やってるのは、小学校、中学校、高校生の子供たちが遊ぶ場所として福祉センターにきていて、何でもしていいですよっていう場所を貸してます。それこそゲームやってもいいし、宿題やってもいいし、読書してもいいってというような、そういう居場所、スペースを作ってはいます。ただ、まだ知られてないってところがあって、あんまり利用率が高くて、PRし始めてるんです。

G：あと、最近移り住んできた人から言われて気づいたんですけど、「予防接種とかの案内が来ないの」って、「問診票が送られてこないの」って言われて。他所では、その時期になると来るらしいですね。だから、「そういうのってないんだ」って言われて、そこで、「あ、そういう仕組みってあるんだ」って、逆に自分も気づいちゃって。自分たちで行かなきゃいけないもんだって思ってるから、それが当たり前だったけど、他から来た人の話を聞くと、そのほうが楽だよなと思ったりして。

E：ただ、一括予防接種の割合が低くて、各自で病院に行くのは結構便利かなとは思う。

G：楽っちゃ楽ですよ、子供の体調とかを考えると。

E：あと乳児健診って受けましたか。うち4か月健診のあと受けてないんですけど。

F：受けてないですね。

G：あたし受けました、自分で。なんかただ手帳を埋めたいがために。

E：健診の費用は何かならないんでしょうか。でもヒブと肺炎球菌はただにしてほしいです。

F：なんか広報見たんですけど、4,000円は負担していただけるようになった。

山本：今年からやるようになったんですよ。

G：もう全部終わっちゃった、悲しい。

E：戸田はポリオのワクチンの受ける場所ってないんですよ。

G：武蔵浦和に行行って打ってきました。

E：うちは、恵比寿に行行って打ってるんですけど、それは結構要望として、今後出るかもしれないですね。特殊ワクチンじゃないんですけど、要望があるいくつかのワクチンが戸田市内で受けられないものがあるんです。

■戸田の魅力について

山口：そろそろもういい時間になってきたのですが、最後にお伺いしたいんですが、いろいろ課題もあるものの、やはり戸田に住んでらっしゃる理由をお伺いしたいんです。ここがやっぱり戸田は何だかいい、いいところだというなんか売りというかですね、押すところっていうのを、最後にもう1回だけお伺いしたいんですが。ここが住みやすいといったポジティブな意見をいただければ、というふうに思うんですが、いかがでしょう。

F：都内に通勤をするかたにとっては、埼京線が、主要な駅を結んでるのですごい通いやす

い。

E: 結構あたしなんかは、こっちの上戸田のほうに引っ越してきて、歩いて意外にいいなと思って。その商店街がないとか、いい意味で都会じゃないっていうのも、裏を返して、こんだけこのいい場所が(地図上でも)あるんですよね。住宅地の中に結構レストラン、まだあるんですよね、意外に。それが点在してるので、なんか最近出てますよね、そういうマップが。ああいうのをちょっとうまく使うと、結構魅力的と思うかもしれないですね。住宅の中にちゃんと公園もあって緑もあって。「結構楽しいものが隠れてるよ」的なのを売りにして、あんまりこう大型マンション、バンバン建てちゃうっていうよりは、ちょっとその辺のバランスをうまく取って、都市開発をしていったほうがいいんじゃないかなっていう気がするんですよね。ただちょっと最近思うのは、やっぱりマンションがどんどん建っていつちゃって、保育園は私は切実な問題だから、自分は思うんですけど、ただちょっとやっぱり学校関係者としては、小学校とか中学校とかのその手配が、ちゃんと追いついてるのかなってのが心配なので。そこをちゃんとすれば、結構もっと住みやすい街にはなるかなっていう気はしますね。でも、結構あたしは今まで住んだ街の中ではかなり気に入ってますけどね。歩きがいがある感じがしますね。探しがいいがあるっていうか。

山口: Gさん、いかがですか。

G: のんびりっていうか、こう穏やかに過ごせる街なのかなっていう感じがしますね。私は金木犀のにおいが結構印象的で。越してきたのが10月だったので、ちょっとこの散歩してたときに、何でこんなにいいにおいがするんだろうってちょっと感動だったんですね。

E: 梅とかもしません。梅はなんかこの辺の、朝あたしこっちからこう通ってるんですけど。この辺の通りであって、結構梅の香りもかなりいいんですよ。2月とか1月とかで。

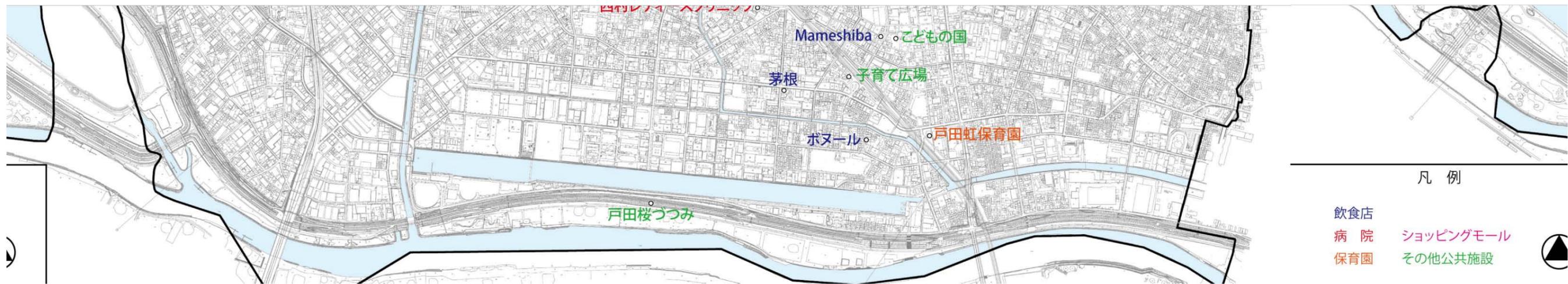
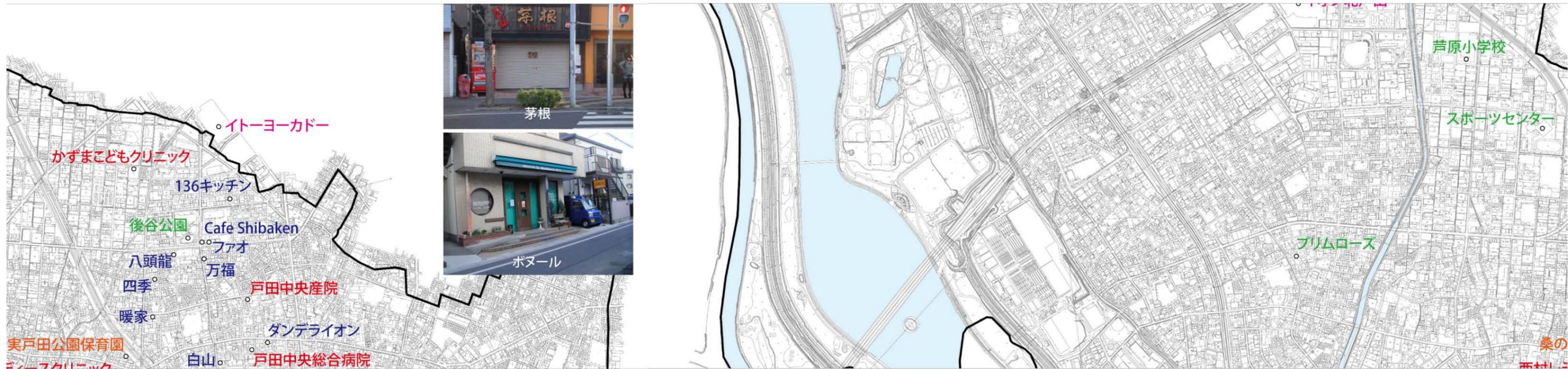
G: 梅は、こっち側あまり歩かなかったんで、あれなんですけど。

E: 結構ね、緑化にすごい力を入れてて、樹木を配ってますよね。街の人は結構いろんな木を植えてて、ばらがきれいなうちとか、あるんですよ。あとは駅前の緑化もすごくいいし。そういう点ではかなりこう居心地いいかなっていう気はしますね。

山口: ありがとうございます。1時間20分ぐらいお話を伺いまして、もうあつという間でしたが、よいお話を伺うことができました。ありがとうございます。

山本: ありがとうございます。

資料Ⅱ 戸田市における「お気に入りの場所」マップ～子育て世代を中心に～



- 凡例
- 飲食店
 - 病院
 - 保育園
 - ショッピングモール
 - その他公共施設

問 3-2	問 3-1 で 1. か 2. と答えた方にお尋ねします。そのように思われる理由について、一つお教えてください。	1. 母子保健サービス（乳幼児健康診査や予防接種等）の充実 2. 小児医療体制の充実 3. 乳幼児の遊び場（公園や児童館等）が整備 4. 子育て支援活動への支援が充実 5. 子育てに関する相談や情報提供の充実 6. 保育園・幼稚園の充実 7. 子育てしながら働きやすい職場環境の整備 8. 子育てへの経済的支援の充実 9. その他（ ）	
問 3-3	問 3-1 で 3. か 4. と答えた方にお尋ねします。そのように思われる理由について、一つお教えてください。	1. 母子保健サービス（乳幼児健康診査や予防接種等）の未整備 2. 小児医療体制の未整備 3. 乳幼児の遊び場（公園や児童館等）の未整備 4. 子育て支援活動への支援が手薄い 5. 子育てに関する相談や情報提供が手薄い 6. 保育園・幼稚園の未整備 7. 子育てしながら働きやすい職場環境が未整備 8. 子育てへの経済的支援が手薄い 9. その他（ ）	
問 3-4	あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。	1. いる 2. いない	
問 3-5	問 3-4 で 1. と答えた方にお尋ねします。お子さんの数は何人ですか。	1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	
問 3-6	問 3-4 で 1. と答えた方にお尋ねします。あなたが利用したことのある子育て支援サービスはどれですか。一つお教えてください。	1. 戸田子ども健康ダイヤル 24 2. ファミリー・サポート・センター事業 3. 産前産後支援ヘルプサービス 4. ショートステイ事業 5. トワイライトステイ事業 6. 保育園地域交流事業 7. 子育てサロン事業 8. 公民館子育て支援講座 9. こども家庭相談センター 10. サービスを利用したことがない 11. その他（ ）	
問 3-7	問 3-4 で 1. と答えた方にお尋ねします。あなたが利用したことのある子育て支援施設はどれですか。以下の設問にお答えください。		
問 3-7-1	よく利用する(利用した)施設と時々利用する(利用した)施設について、一つずつお教えてください。	1. 子育て支援センター 2. 親子ふれあい広場 3. 戸田公園駅前子育て広場 4. さんさん広場（児童センター内） 5. 赤ちゃんの駅 6. キッズコーナー（健康福祉の杜内） 7. キッズスペース（福祉青少年会館内） 8. 地域交流スペース「ばるばる」（介護老人福祉施設内） 9. こどもの国 10. 児童センター 11. 彩湖自然学習センター 12. 施設を利用したことがない 13. その他（ ）	よく利用 時々利用

IV お住まいの地区に対する意識と今後のお住まいについて

【回答欄】

問 4-1	あなたは普段近所の方との程度お付き合いをしていますか。	1. 家を行き来する付き合い 2. 立ち話する程度の付き合い 3. 挨拶する程度の付き合い 4. ほとんど付き合いはない 5. その他（ ）	
問 4-2	戸田市に住んでおられて市内に好きな、あるいはお気に入りの場所や地域はありますか。	1. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域がある 2. 好きな、あるいはお気に入りの場所・地域はない	
問 4-3	問 4-2 で 1. と答えた方にお尋ねします。それはどちらですか。一つお教えてください。		
問 4-4	今後も戸田市に住み続けたいと思いますか。	1. ぜひ戸田市に住み続けたい 2. できれば戸田市に住み続けたい 3. できれば他の市区町村に移りたい 4. ぜひ他の市区町村に移りたい	
問 4-5	問 4-4 で「1. ぜひ戸田市に住み続けたい」または、「2. できれば戸田市に住み続けたい」と答えた方にお尋ねします。その理由について、一つお教えてください。	1. 通勤・通学が便利 2. 買い物等日常生活が便利 3. 交通網が良好 4. 良好な住環境が整備 5. 子育て環境が充実 6. 治安が良好 7. 医療・福祉が充実 8. 自然災害の少なさ 9. 公園や自然の豊かさ 10. スポーツをする場が豊富 11. 文化施設が充実 12. その他（ ）	
問 4-6	問 4-4 で「3. できれば他の市区町村に移りたい」または、「4. ぜひ他の市区町村に移りたい」と答えた方にお尋ねします。その理由について、一つお教えてください。	1. 通勤・通学が不便 2. 買い物等日常生活が不便 3. 交通網の悪さ 4. 良好な住環境の未整備 5. 子育て環境の未整備 6. 治安の悪さ 7. 医療・福祉が未整備 8. 防災対策の未整備 9. 公園や自然の少なさ 10. スポーツをする場の少なさ 11. 文化施設の未整備 12. その他（ ）	
問 4-7	現在のお住まいでの居住期間についてお教えてください。	1. 1年未満 2. 1～3年未満 3. 3～5年未満 4. 5～10年未満 5. 10～20年未満 6. 20～30年未満 7. 30～40年未満 8. 40年以上	
問 4-8	現在のお住まいの所有関係についてお教えてください。	1. 持家（一戸建） 2. 持家（分譲マンション） 3. 公営住宅（公団・公社・市県営住宅等） 4. 民間の借家（一戸建） 5. 民間の借家（アパート・賃貸マンション等） 6. 給与住宅（社宅・官舎・家族寮・独身寮等） 7. 学生寮 8. 間借り・下宿 9. 施設（病院・福祉施設等） 10. 親戚の家 11. その他（ ）	
問 4-9	現在のお住まいの広さについてお教えてください。	1. 20㎡未満 2. 20～30㎡未満 3. 30～40㎡未満 4. 40～50㎡未満 5. 50～60㎡未満 6. 60～70㎡未満 7. 70～80㎡未満 8. 80～90㎡未満 9. 90～100㎡未満 10. 100～120㎡未満 11. 120～140㎡未満 12. 140㎡以上 ※居住室の床面積のほか、玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押入れ等を含めてください。但し、営業用の部分及び他の世帯が使っている部分は除いてください。 ※床面積は1坪（2畳）を3.3㎡に換算してください。	

ご協力いただき、ありがとうございました。